

THE JAPANESE JOURNAL FOR  
HISTORY OF PHARMACY

薬史学雑誌

Vol. 54, No. 1.

2019

—目 次—

総会講演

化粧品の科学技術の発展における日本の貢献……………坂本 一民…… 1

柴田フォーラム

文豪などの原稿，書簡の宝庫『江戸清吉コレクション』のこれまでとこれから……………江戸 清人…… 6

年会講演

サルファ剤の発見とその影響……………小林 力…… 13

良寛に学ぶ—心身医学の立場から……………櫻井 浩治…… 19

原 著

「たなべや薬」は島津義弘の秘薬か？処方・効能に基づく考察……………乾 俊秀，松本 佑子…… 24

文献資料と現地調査によるサフラン栽培法の変遷検証：竹田式栽培法の特質  
……………高浦（島田）佳代子，高橋 京子，渡部 親雄…… 31

研究ノート

薬剤師活動に示唆を与えるキリスト教の愛と仏教の慈悲……………奥田 潤，森本 和滋…… 39

本邦北限と南限の薬師如来像……………奥田 潤…… 53

石見銀山薬石「無名異」の「水飛（水簸，水干）」による製法について……………成田 研一…… 60

雑 録

会務報告…………… 65

THE JAPANESE SOCIETY FOR HISTORY OF PHARMACY

c/o CAPJ, 4-16, Yayoi 2-chome,  
Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0032 Japan

薬史学誌

Jpn. J. History Pharm.

Indexed in Medline since 1980

日本薬史学会

<http://yakushi.umin.jp/>



## 入会申込み方法

入会のお申し込みは「入会申込書」に必要事項をご記入の上、下記の学会事務局に郵送・FAXもしくはメールに添付し、提出して下さい。「入会申込書」は、学会webからダウンロードするか、学会事務局へお問い合わせ下さい。入会申込書をいただきますしてから、事務局より会費納入郵便振替用紙を送付させていただきます。

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16  
(財)学会誌刊行センター内 日本薬史学会 事務局  
tel : 03-3817-5821 fax : 03-3817-5830  
e-mail : yaku-shi@capj.or.jp ホームページ(HP)<http://yakushi.umin.jp/>  
郵便振替口座 : 00120-3-67473 日本薬史学会

The JAPANESE JOURNAL FOR HISTORY  
OF PHARMACY, Vol. 54, No. 1 (2019)

CONTENTS

Plenary Lecture

- Kazutami Sakamoto** : Japanese Contribution to the Advancement of Cosmetic Science and Technology  
..... 1

Shibata Forum

- Kiyoto Edo (Seikichi Edo (VI))** : Past and Future of Seikichi Edo's Collections—More than 20,000 Manuscripts, Letters, etc. Written by Great Japanese Men of Literature from the Meiji to Showa Eras and Now Edo Family Heirlooms— ..... 6

Annual Lecture

- Tsutomu Kobayashi** : Discovery and Impact of the World's First Miracle Medicine—Sulfa Drugs  
..... 13
- Koji Sakurai** : Learnings of Ryoukan—From the Standpoint of Psychosomatic Medicine ..... 19

Original

- Toshihide Inui and Yuko Matsumoto** : Is “Tanabeya Medicine” a Secret Elixir of Yoshihiro Shimadzu?  
—Consideration Based on Formulation and Efficacy— ..... 24
- Kayoko Shimada-Takaura, Kyoko Takahashi and Chikao Watanabe** : Development and Benefits of Saffron Cultivation Methods Invented in Taketa City—Investigation through literature and field study ..... 31

Research Note

- Jun Okuda and Kazushige Morimoto** : Suggestions for Pharmacist Activities from Love in Christianity and Mercy in Buddhism ..... 39
- Jun Okuda** : Northernmost and Southernmost Statues of Yakushi Buddha in Japan ..... 53
- Kenichi Narita** : Regarding Formulation Using Elutriation of the Medicinal Stone “*MUMYOUJI* (無名異)” in the Iwami-Ginzan Silver Mine ..... 60

化粧品科学技術の発展における日本の貢献\*<sup>1</sup>坂 本 一 民\*<sup>2</sup>Japanese Contribution to the Advancement of Cosmetic Science and Technology\*<sup>1</sup>Kazutami Sakamoto\*<sup>2</sup>

## はじめに

今日、化粧品は日々の生活において美と健康の希求に欠かせない消費財の1つとして、その時々の場合にふさわしく美しく装い（美粧効果）、身体・精神・社会的な健康を維持増進（QOL 向上）するために使われている。したがって化粧品の歴史を考える際には科学技術的な視点に文化的・社会的視点を重ねることが必要である<sup>1,2)</sup>。能崎は2013年の本学会総会講演に基づく本誌への寄稿において、まず文化的・社会的視点で太古から江戸末期までの和の化粧の歴史を総括し、埴輪にもその痕跡が残る赤化粧が古来日本独自の色彩表現であったが、仏教伝来や遣唐使を端緒とする大陸との文化交流で白化粧へと変化する流れのなかで、化粧の主な役割は、自分の心を高めるための手立て、人と人とが触れ合うコミュニケーションの大切な具であるとした<sup>2)</sup>。さらに能崎はこの日本人の健康と化粧についての意識の持ちようは、江戸時代に庶民への啓発本としてまとめられた「養生訓」と「都風俗化粧伝（みやこふうぞくけわいでん）」に我が国の現代にいたる「健康と化粧文化」起点が認められることを示した<sup>2,3)</sup>。これは、「化粧品とは人の身体を清潔にし、美化し、魅力を増し、容貌を変え、または皮膚若しくは毛髪を健やかに保つために、身体に塗擦、散布その他これらに類似する方法で使用されることが目的とされている物で、人体に対する作用が緩和なものをいう。（薬機法第2条第3項）」という現在の化粧品の定義とも符合する。

一方、阿部は心理学的解析から美と健康の希求を「メイク」と「スキンケア」と表現し、化粧品の「美粧効果（メイク）」と「QOL 向上（スキンケア）」を、日本と西洋の比較文化史的視点で解析した。日本の化粧に関わる言葉を通じて文化史の変遷をみると、古くからスキンケアをメイクの下地と位置づけており、これは上述の能崎の説明ともよく一致する。スキンケアとメイクが明瞭に区別されるようになったのはごく近年（1990年代）のことである。このメイクとスキンケアが一体となった日本のQOLの向上の手段としての化粧品の位置づけは、種類別販売における水を主要素材とする皮膚用化粧品（スキンケア）が48%と仕上げ用化粧品（メイク）の21%や、頭髪化粧品27%などを圧倒的に上回っていることから明らかである<sup>4)</sup>。

能崎は化粧品を衛生の視点、QOLとのかかわりで見直すと、薬と化粧品の違いと共通点、化粧品の有用性と負の要素が浮かびあがり、化粧品は医薬品とは似て非なるものでありながら表裏一体の関係が現代まで続いていると述べている<sup>2)</sup>。この背景には、日本において化粧品を科学的に論じる端緒が旧来の鉛や水銀など由来の有害な顔料・色素の規制であり<sup>1,2)</sup>、日本化粧品学会の成立も化粧品の皮膚トラブルへの対処であったこと<sup>7)</sup>等、本来安全であるべき化粧品の社会的信頼回復にあったためといえる。このような経緯から、その後の我が国における化粧品の科学技術発展のための産官学連携と切磋琢磨には特筆すべきものがある。この、肌をいたわり健康の維持増進を求める官民挙げての化粧心が、本稿の主題である我が国における世界でも傑出した、健康な肌を探求する皮膚科学の深耕と、それに資する化粧品の技術開発の推進力であ

\*<sup>1</sup> 本稿は2019(平成31)年4月20日、日本薬史学会総会(東京大学大学院薬学系研究科研究棟講堂)で行われた講演の要旨である。

\*<sup>2</sup> 東京理科大学客員教授 *Guest Professor, Tokyo University of Science The Fellow of the Chemical Society of Japan.* 1-3 Kagurazaka, Shinjuku-ku, Tokyo 162-0825.

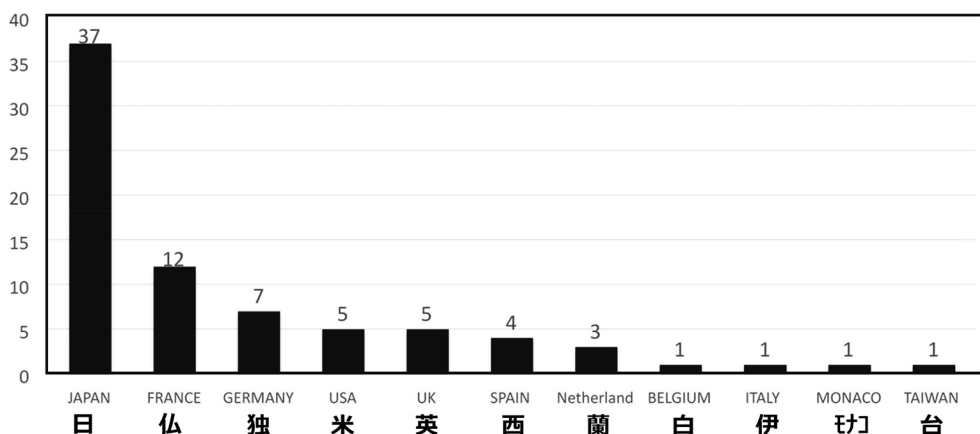


図 1 化粧品科学技術の発展における日本の貢献。  
IFSCC 発表論文の国別受賞件数。1970～2016 受賞総数 80 件の内、日本の受賞 37 件（46%）

と考えられる。その成果は後述の国際化粧品技術者会連盟（IFSCC：The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists）の国際学会での受賞件数が世界で突出していることや（図 1）、日本の化粧品品質は今日世界トップと認識され国内外の消費者からの絶大な信頼を得ていることにも現れている。

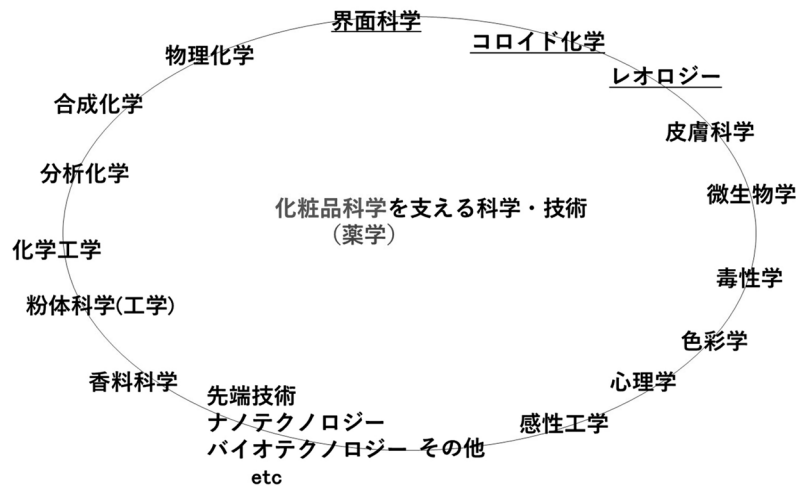
これに対し、西洋における化粧品は美粧効果（メイク）が主体であり、欧米市場では仕上げ化粧品および香水・オーデコロン類がスキンケアを圧倒的に上回っている。西洋ではスキンケアは古来からメイク（化粧品）とは明確に区別され、その処方主要素材は油であり、清潔・衛生を希求するものではなかった<sup>5)</sup>。しかしながら近年紫外線による皮膚がんや光老化助長に対するケアの必要性が社会的課題として認知され、環境変化や長寿命化による肌トラブルの増加と共に西洋を含め世界的にスキンケアによる QOL 向上の必要性が認識されるようになった。このような背景の中で、現代の化粧品に求められる機能も多様化、高度化しており、それを支える基礎科学や応用技術も著しく進展している。そこで、以下に化粧品の科学技術が著しく発展した 1970 年代以後のトレンドを、日本の貢献という視点を軸に振り返ってみた。

### 化粧品を支える科学技術

化粧品を科学するという視点で考えると、化粧品を支える科学技術とは、より良い化粧品をつくるための、新しい原料や処方の探索（物理化学・有機化学・分析化学）、それら素材の物理的・化学的特性を知り、複雑な組成物を配合し所望の形態に作り上げる処方技術、使って心地よく効果の高いことの実証技術、皮膚の正常な状態や機能の理解（皮膚科学）、心理学や感性工学などを含む QOL（生活の質）向上に資することを実践する、健康科学などの多くの専門分野の総合的・複合的な集積が必要である。筆者が 2010 年に千葉科学大学薬学部化粧品科学コースと製剤/化粧品科学研究室を創設した当時、化粧品を科学する教育に関する総合的な教科書や指針はごく限られていた。そのなかで宿崎による図 2 の化粧品と薬学を支える科学技術の対比<sup>6)</sup>は大変示唆に富むものであった。図 2 から明らかのように、化粧品と医薬品を支える科学技術はほとんど共通でかつ極めて広範な領域に及んでいる。これは薬学部における化粧品科学コースの存在意義を示すものといえる。さらに化粧品の場合医薬品に比べて、使い心地や満足感など QOL 向上（より良く生きること）の指標となる心理学や感性工学などを重視すべきことがわかる。

このような、化粧品を支える多岐にわたる基礎科学や応用技術の進展は著しい。しかしながら、化粧品を学びたい人にとって良い手引きとなり、製品開発の要である科学技術の最新情報を包括的かつわかりやすくまとめた教科書・専門書が見当たらないのがこれまでの世界的な実情であった。そのような中で 2013 年にオランダに拠点を置く学術出版社である Elsevier 社の企画担当者から、化粧品の科学と技術に関する総合的な啓蒙書の企画編集を依頼された。そこで、化粧品の科学技術に関心を持つ様々な立場の方々に①化粧品を支える科学と技術に関する先端情報を、総合的かつ多面的に提供し、②日常的消費財である化粧品の生活や文化（QOL）の側面を総括するという出版企画を定めて編集の作業を開始した。

そこで、化粧品に関する科学技術動向を知る手立てとして国際化粧品技術者会連盟（IFSCC）が主催する化粧品に関する国際学会の発表内容および受賞論文の時代による変遷に注目した。その理由は、2006 年に大阪で開催された第 24 回



(宿崎幸一、化粧品科学ガイド第2版 F J 社刊 P-22(2010) 図1を元に編集)

図 2 化粧品を支える科学技術

IFSCC 国際学術大会 (24th IFSCC Congress) に先立ち、それまでの IFSCC 発表論文の情報検索と解析から世界の化粧品研究開発動向を総説にまとめていた経緯があり、この手法の有用性を確認していたことによる<sup>8)</sup>。その際、過去の大会のプログラムのセッション分類や受賞テーマタイトルから研究動向の流れを整理したうえで、IFSCC が管理運営する化粧品に特化したデータベースである KOSMET を活用し、各大会の Abstract からのキーワード (KOSMET による統制語) によって研究開発動向を解析した。その結果、国際大会における各技術分野のキーワードの出現頻度から世界の化粧品に関する研究動向が見て取れることがわかった。そこで、上記総説で得られたキーワードと図 2 の化粧品を支える科学技術をベースに啓蒙書の章立てを行った<sup>8)</sup>。さらに、総説執筆を通じ IFSCC の研究発表における日本の貢献が極めて大きいことが判明したので、各章の著者選定においては世界の化粧品研究への日本の技術者の多大な貢献と、それを支える我が国の化粧品産業界の貢献を伝えるべく、多くの国内研究者の方々に執筆を依頼した。このような経緯を経て 20017 年 3 月に Cosmetic Science and Technology : Theoretical Principles and Applications として出版するに至った<sup>9)</sup>。

本書は化粧品分野の研究開発の基本を俯瞰できる英文の学術書とするため、世界の専門研究者・技術者からの寄稿もあわせて 51 章 805 頁、著者総数 69 名となり、次のような構成となっている。

Part I	GENERAL VIEW OF COSMETIC SCIENCE AND TECHNOLOGY	化粧品概論
Part II	FUNDAMENTAL RESOURCES FOR COSMETICS	化粧品の構成要素
Part III	PHYSICOCHEMICAL ASPECTS AND FORMULATIONS	化粧品の物理化学
Part IV	PHYSIOLOGICAL AND DERMATOLOGICAL ASPECTS	化粧品の皮膚科学

あわせて、日本人の執筆章について章立てを改め、「化粧品科学へのいざない」のタイトルで薬事日報社からシリーズ形式で出版することとなった<sup>1)</sup>。

- 第 1 巻 文化・社会と化粧品科学
- 第 2 巻 化粧品を支える科学技術
- 第 3 巻 肌 (皮膚), 毛髪と化粧品科学
- 第 4 巻 化粧品の成り立ちと機能
- 第 5 巻 化粧品そぞろ歩き

これらの出版を通じて、化粧品を支える科学技術を最新の情報として成書の形でまとめることができなかった。

#### IFSCC 受賞論文に見る日本の貢献

次に、本稿の主題である「化粧品の科学技術の発展における日本の貢献」について南野氏、神田氏執筆による Elsevier

社版の第2章 Global Cosmetic R&D Trends Unveiled ; From Past IFSCC Award-Winning Papers, 「IFSCC 受賞論文からみる化粧品研究開発のトレンド」をもとにまとめた。この総説は上述の2006年にまとめた総説の手法を継承し<sup>8)</sup>, まずKOSMETによるデータをもとに2002年から2014年のIFSCC Congress/Conferenceでの発表論文すべての統制語の出現頻度から研究テーマのトレンドを解析した。さらに各時代を代表する研究といえる受賞論文の詳細解析から化粧品に関わる先端的科学・技術動向を調べた。

KOSMET検索と解析の結果, 化粧品の商品開発動向に関する分類では, 一貫して原料(Raw Material)とスキンケア関連(Skin/Dermatology)が主要なテーマであり, 技術分類では経皮吸収などの体内動態研究を含む生物物理(BIOPHYSICS)と分析(ANALYSIS)に関する発表が多く, 次いでレオロジーに代表される物理化学(PHYSICOCHEMISTRY)と, 生化学・生理学(BIOLOGY)が続いていた。さらに年代別推移でみると, 商品分類では2002年以降スキンケア関連と原料が毎回コンスタントに発表されている。また技術論文別推移では生物関連技術に関する発表が一貫して多い傾向にある。

次に受賞論文から読み取るトレンドを調べた。IFSCC Congress/Conferenceで受賞した論文は1970年の第9回ボストン大会 Congressで最初の賞が与えられてから, 2016年の第29回オーランド大会 Conferenceまでの45年間で80報になる。その内容に従って分類すると「皮膚科学」49%, 「新処方・界面化学」25%, 「新規素材」14%, 「毛髪」8%, 残りが「化粧心理・感性」「その他」に分類される。さらに受賞件数の多い「基礎皮膚科学」の受賞論文38件の内訳は角層・表皮21%, 真皮6%, 頭皮および安全性が各3%, 基底膜2%, 皮下組織およびアクネと爪が各1%であった。研究内容の詳細な解析は南野・神田氏の原著<sup>10)</sup>に譲るが, 「皮膚科学」「界面化学」いずれにおいてもそれぞれの分野の最先端の科学技術が化粧品の研究開発に反映していることが見て取れる。特に陸上動物である我々の生存の鍵となる皮膚のバリア機能を司る角層の構造と機能の研究は, 医学としての皮膚科学を通してより化粧品研究者のアプローチにより科学として進歩した面が大きく, この成果がアトピー性皮膚炎の臨床研究にも生かされている。また, 界面化学においては乳化技術の革新や粉体の表面処理技術の進化において化粧品技術者が果たした役割は極めて多岐で, その成果が医薬・食品さらには塗料その他多くの産業分野に波及して活用されている。これら受賞論文における日本人研究者の貢献は受賞論文の国別集計としてまとめた図1を見ればさらに明瞭であり, 実に1970年から2016年に至る総数80件の受賞論文の内, 日本人研究者の貢献したものが46%(37件)となっており, 如何に化粧品の科学技術の進歩に対し日本の研究者・技術者が大きく貢献してきたかがわかる。

このような貢献が可能になった背景として①化粧品は安心して安全であることの保障, ②消費者の化粧品に対する厳しい審美眼, ③たゆまぬ科学技術の進歩を反映した研究開発努力という消費者・化粧品業界のたゆまぬ切磋琢磨が品質・技術で世界一と自認する日本の化粧品を育ててきたといえる。

## おわりに

以上の科学技術視点から見た「化粧品の科学技術発展における日本の貢献」をまとめると「和の化粧文化の特徴である「美の装いと養生」が西欧文化の「科学技術」と出会い, 現代の世界に類のない高度な化粧品科学・技術を産んだ」といえよう。これを今がピークとすることなく未来につなげるためには科学技術の進歩に合わせた, 品質の良い優れた化粧品を生み出す継続的な開発努力とあわせて, QOL向上に果たす化粧品の機能研究の深耕と期待に応える新たな視点からの応用拡大への取り組みが必要と考えられる。

現在の化粧品の法規制上の定義は, 薬機法の記述にある通り世界に共通して美しく装うことにとどまり, 医薬品のような直接人の生理機能に作用することを目的とせず, 安全で作用が緩慢な健康の具であると定められている。しかしながら人々の求める, 今は手に入らない化粧品とは「しみ, しわの改善」に象徴的なように生理的效果のある(効く)ものがあり, 科学技術の観点からは安全を保障しつつ効能効果を実現することが夢ではないことが実証されている。健康寿命の推進が求められるなか, 食の分野では科学的証明にもとづく機能性と効果を表示できる食品が法規制的にも可能になってきており, 遠くない将来医薬を補完し健康を増進し, 予防医学の原点である未病を改善することへの化粧品の役割の拡大が期待される。さらに老人性認知症や終末期の癌などにおいて, 化粧品の美粧効果ではなく化粧をするという行為による化粧療法の有用性が認められており新たな化粧品によるQOLの向上が期待される。

## 参考文献

- 1) 坂本一民, 山下裕司編. 文化・社会と化粧品科学. 化粧品科学へのいざない シリーズ第1巻. 薬事日報社, 2017
- 2) 能崎章輔. 化粧品の歴史—衛生から QOL へ—. 薬史学雑誌. 2013 ; 48 (1) : 1-6
- 3) 能崎章輔編. 化粧品工業 120 年の歩み. 日本化粧品工業連合会, 1995
- 4) 日本化粧品工業連合会 <https://www.jcia.org/user/statistics/shipment> (accessed 15 May 2019)
- 5) 阿部恒之. 化粧の心理学的研究. 化粧品科学へのいざない シリーズ第1巻 : 文化・社会と化粧品科学. 薬事日報社, 2017. p. 61
- 6) 宿崎幸一. 化粧品を支える科学技術. 化粧品科学ガイド第2版. FJ社, 2010. p. 22
- 7) 尾澤達也. 時代を創った日本化粧品学会. 日本化粧品学会誌. 2014 ; 38 (4) : 271-98
- 8) 坂本一民, 上野京子. 最近の IFSCC 発表論文に見る世界の化粧品研究開発の動向. フレグランスジャーナル. 2006 ; 9 : 18-25
- 9) Sakamoto K, Yamashita Y, Lochhead R, Maibach H. Cosmetic science and technology : Theoretical Principles and Applications. Amsterdam : Elsevier, 2017
- 10) Minamino M, Kanda F. Global cosmetic R&D trends unveiled ; from past IFSCC award-winning papers. Chapter 2. Amsterdam : Elsevier, 2017. p. 15-38



## 文豪などの原稿, 書簡の宝庫『江戸清吉コレクション』の これまでとこれから\*<sup>1</sup>

江戸清人 (六代目江戸清吉)\*<sup>2</sup>

Past and Future of Seikichi Edo's Collections — More than 20,000 Manuscripts, Letters,  
etc. Written by Great Japanese Men of Literature from the Meiji to  
Showa Eras and Now Edo Family Heirlooms — \*<sup>1</sup>

Kiyoto Edo (Seikichi Edo (VI))\*<sup>2</sup>

(Received January 4, 2019)

### はじめに

『江戸清吉 (江戸) コレクション』が公になったのは、1978年の宮城県沖地震で江戸薬局店舗の土蔵を修繕した時である。その後、筆者が薬学博士号 (江戸清人学位論文「遷移金属錯体を触媒とするピリミジン炭素鎖置換体の合成」[東北大学薬学研究科], 1979) を取得し、その記念の論文別刷<sup>1)</sup> (1979.3 限定印刷 150部) として印刷した時にまえがきとして、実弟江戸正人が以下の江戸コレクションに関する稿を寄せている (表1)。また、その論文中に土屋文明、斎藤茂吉、北原白秋など、短冊9点を引用した。東北の片田舎で、何故、四代江戸清吉は明治、大正の文豪の肉筆の原稿の収集をしたのか? さらにはその一部の文学者、小説家などと交流を重ねた形跡も見受けられる。このコレクションの発見の経緯、コレクションの一部紹介を含めて江戸清吉のコレクターとしての人物像にも触れてみる。

### 1. 江戸清吉が生まれた亙理(わたり)町荒浜とはどこか

宮城県南部の阿武隈川河口南岸に位置し、宮城県内では温暖な地のひとつである。江戸時代には、仙南地区 (仙台

市の南の地域を地元ではこのように呼ぶ。) や、福島の日原米は阿武隈川を船で下り、当地荒浜に集められた。それらの米は宮城県内の他地域の米と共に、帆掛け船、後には蒸気船に乗せられて江戸 (東京) まで運ばれ、都の食卓に上った。この航路はいわゆる東廻海運で、荒浜は要港の1つとして繁栄した。荒浜小学校の校庭近くにその時代に御城米の米倉庫が13棟あったと記載のある記念碑がある。戦後は近海漁業の漁港として、漁業そして、農業で生活する人、さらには仙台への勤労者も増え、賑わった。

### 2. 江戸家とは? 江戸慶三郎 (四代清吉) とは

江戸家は平成23年の東日本大震災前には、荒浜に本家 (筆者の実家) の他に分家が3軒、計4家族が住んでいた。戦前、呉服屋、材木屋、漁業 (網元)、専売業 (塩、たばこ)、後に地主 (田、畑、貸家、貸地)、戦後は質屋、薬局 (江戸薬局) 等、代々多岐にわたった商売を営んでいた。

初代の清治は、江戸人形町の呉服屋の長男として生まれたが、実母の死後、後妻との関係が悪化、仙臺 (仙台) その後は亙理荒浜に移り住みついたとの伝えがある。初代の娘こたけ (図1-1) は官軍が浜通りを北上した折、皆が逃

\*<sup>1</sup> 本稿は、2018 (平成30) 年8月4日に東京大学大学院薬学研究所南講義室で開催された第11回日本薬史学会柴田フォーラムにおける講演内容に補筆したものである。

\*<sup>2</sup> セルフメディケーション推進協議会理事/エコー電力ビル薬局 (仙台) 顧問/前帝京大学薬学部教授 *Adviser of Ecōdenriyokubiru Pharmacy (Sendai city)/Director of Self-Medication Advocacy Council/ex-Professor of Teikyo University of Pharmaceutical Sciences. 1808-28-9, 2-chome, Ichiban-cho, Aoba-ku, Sendai, Miyagi 980-0811.*

げるなか阿武隈川河口で官軍に食べ物を売り商売上手であったとも伝わっている。

コレクションの収集者、江戸慶三郎（四代江戸清吉）は筆者の直系の祖父にあたる（図1-2）。四代清吉の学歴は旧制仙台第二中学校（旧制仙台二中）の2回生の修了である。学年は80人程度で、宮城県内はもとより東北他県からも進学していた（表2）。ここを卒業したことはわかっているが、その後の経歴は不明である。実家の家業を見習っていたのであろう。旧制中学ではどのような科目を受けていたかと調査すると、国語・漢文、英語、博物学等を学んでいる。しかし、文学を学んだ形跡は調べた範囲では見あたらない。文学を独学で学んだ節がある。コレクションの中には四代清吉が手帳に記載した日記のようなものがある。研究の対象となりそうである。四代清吉は大東亜（太平洋）戦争開戦の数年前、昭和13年に鬼籍に入っており、筆者は戦後の昭和25年生まれであり、四代清吉と直接の面識

はない。祖母、母、叔母の話から聞く話しを情報源としていた。四代清吉の活動時期は戦前でありその写真はあまり残っていない。現在唯一残っているのは米蔵をバックにした写真である（図2）。亡くなる2か月前のものである。しかし肖像画が江戸清吉コレクションの中には残っている（図3）。左下に「昭和十一年十月 於三越（仙台三越）」の文字がみられる。仙台三越百貨店で絵描きに書いてもらったようである。私の母は子供のころ父親四代清吉（慶三郎）に度々三越（仙台）に連れられて行ったと聞かされ

表 1 江戸清人学位論文別刷中表紙（江戸コレクション：江戸正人寄稿）

『女、百枚の着物ありても飽くことを知らず』

コレクターがこの境地に達した時、膨大な収集物が構築される。その収集物の価値のみが超然と浮き彫りにされるにつれ、彼の人格は下絵として底流に埋没してしまう。

第四代江戸清吉、金の使途を極めた人、ボルヘスの“パベルの図書館”の建設に着手し、意半ばにして昭和十三年五十四歳で世を去った。

内容は、明治、大正、昭和の三代に亘る小説家、劇作家、詩人、歌人、俳人、評論家、政治家等、著名人の原稿二百五十点強、色紙短冊六百点弱、書簡四百点弱、軸装六十余点、額装二十点弱、屏風四対、他版画書籍を含めると三千点は越えると思われる。

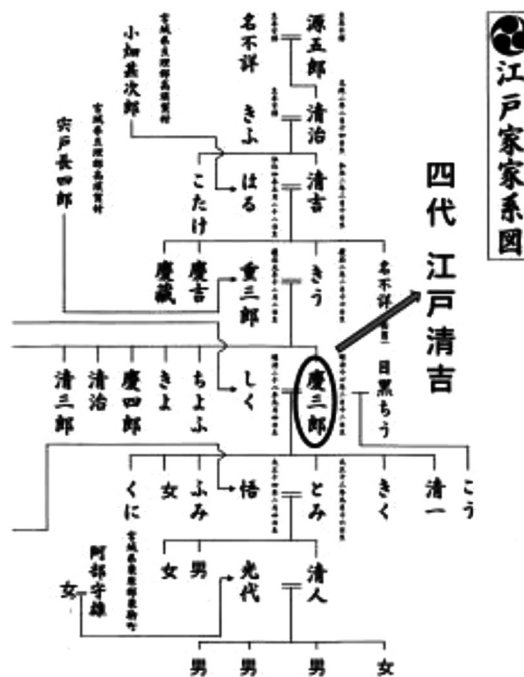


図 1-1 江戸家 家系図 [部分]. 直系以外の存命中の人名は「男」、「女」で表記

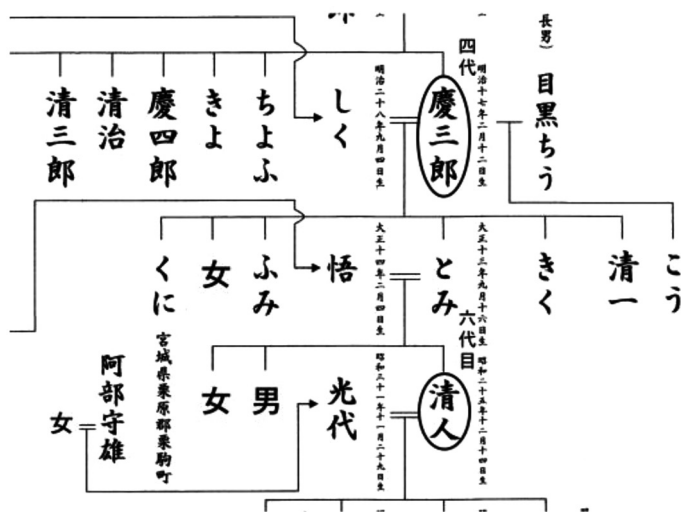


図 1-2 江戸家 家系図 [部分一部拡大]. 直系以外の存命中の人名は「男」、「女」で表記

表 2 コレクター四代江戸清吉（慶三郎）の略歴

- ・明治 17 (1884) 年 2 月 12 日に父重三郎（三代江戸清吉）母さうの長男として生まれる。
- ・明治 30 (1897) 年旧制仙台二中（現宮城県立仙台第二高等学校）に入学（13 歳）
- ・明治 35 (1902) 年同中を卒業 [2 回生]（18 歳）
- ・大正 8 (1919) 年 1 月 27 日父の死亡により家督相続（34 歳）  
同年 2 月 18 日慶三郎から清吉（四代江戸清吉）に改名 [襲名]（35 歳）  
同年 9 月 11 日同郡大平村高橋しくと結婚（35 歳）1 男 5 女を儲けた。
- ・昭和 13 (1938) 年 6 月 20 日、本籍地にて死亡（享年 53）



図 2 四代清吉（慶三郎）と米蔵

戸籍調査そして作成していただいた。江戸家の当主は代々「清吉」を襲名していた。江戸本家墓所には 12 柱があり、初代夫婦の墓石には江戸清治と記載があった。墓石に初代と記載されており、江戸家初代としている。二代目が清吉で、墓石には辞世の句「我ながし思者佐り介里假乃世をいざたちませ 天者那能都へ」が墓石に刻んであった（前（有）浅野商事 名取店 鈴木文夫氏解説）。三代清吉から家督相続を済ませ、襲名するようになった。三代清吉は荒浜村の村会議員、村長を務めた。筆者が 65 歳で帝京大学を定年退職後、職場および私個人のそれまでのメールアドレスの使用を中止し、新メールアドレスを取得するとき、この襲名にちなみ、k\_seikichi\_edo@を使用して現在に至っている。

### 3. 『江戸清吉（江戸）コレクション』と震災

『江戸（清吉）コレクション』は昭和 53 年の宮城県沖地震、そして平成 23 年に発生した東日本大震災にも遭遇している。

#### a. 宮城県沖地震（1978（昭和 53）年 6 月 12 日）

宮城県沖地震後、店舗土蔵の改築時にコレクションが発見され、その所有が一般に知れ渡った。当時の宮城教育大学の金沢規夫教授が、「江戸コレクション」（江戸清吉コレクションの前称）の目録を作成した。そして当時はそのことが新聞などでも報道され話題になった。

#### b. 東日本大震災（2011（平成 23）年 3 月 11 日）

3 月 11 日（金）14 時 46 分に発生し、筆者の持家だった江戸本家（実家）は、倒壊はまぬがれたが、津波の被害は尋常でなく、2 階建ての 1 階の軒まで至り、「全壊」となった（図 4）。その後、NPO グループや国のレスキュー組織がボランティアの力を借りて文化財のレスキューを行った（旧米蔵震災後、図 5）。コレクションは文庫蔵（図 6）や、土蔵の店舗（図 4）などに分散して保存されていた。宮城県沖地震の後作成された目録は行方不明で消失している可能性は高い。今回の震災後に、宮城教育大学および金沢家に目録が残っているかを質（ただ）したが目録の存在を確認はできなかった。コピーを取得していなかったのが悔や



図 3 四代江戸清吉肖像画（仙台三越にて）

ていた。仙台三越には当時ギャラリーがあったと思われる。

#### 〈江戸家家系図の作成〉

平成 23 年被災した江戸家の墓を再建する際、家系図を作成した（図 1-1, 1-2）。宮城県内の行政書士に依頼し、



図 4 江戸家母屋の震災直後の状況



図 6 江戸家の文庫蔵（中央奥白壁）



図 5 倉庫よりレスキューされる江戸清吉コレクション [巨理町立郷土資料館よりデジタルデータとして提供]



図 7 巨理町立郷土資料館（悠里館）[巨理町立郷土資料館よりデジタルデータとして提供]

まれてならない。情報は一度消えれば二度と出てこない可能性も高い。日本薬史学会会員としてこれまでに表に出てこなかった情報を掘り起して研究することは、いわゆる考古学的な一面をも感じる。

#### 4. 保存・保管

江戸清吉コレクションは現在、宮城県巨理町立郷土資料館・悠里館（常磐線巨理駅傍）（図7）の保管庫に保管されている。春と秋に定期的特集を組み展示される。巨理には数千年前から人びとが暮らしてきた。郷土資料館には、この長い歴史の変移を多くの資料（映像や図版）により展示している。また、巨理伊達家のコーナーも設けられている。巨理伊達家の武士は戊申の役後、北海道に開拓民として渡り、苦勞を重ねた。その地は北海道の伊達市で巨理町の姉妹都市である。

#### 5. 『江戸清吉コレクション』の公開

##### a. 江戸家による公表

コレクションを学位論文、論文別刷集の扉などに引用し

た（表3）。筆者は1979年3月に学位を取得、大学に提出する印刷論文とは別に記念として「江戸清吉学位論文」の別刷<sup>1)</sup>（1979.3, 限定印刷150部）を印刷したことは前述した。次に、当時東北大学学長をされていた石田名香雄先生より序文をいただいた『江戸清吉論文別刷集1983』<sup>2)</sup>（1983.9, 限定印刷250部）を印刷した。さらに、当時薬学での恩師の東北大学薬学部教授山中宏教授の序文をいただき『江戸清吉論文別刷集Ⅱ1988』<sup>3)</sup>（1988.6, 限定印刷250部）を印刷した。業績集のリストと筆者の名前の記載のある論文全編の引用を行った。その中に『江戸（清吉）コレクション』の一部を引用した。論文別刷集Ⅰに幸田露伴の額装（図8）を、論文別刷集Ⅱには森鷗外の軸装（図9）を掲載した。さらにコレクションと関係ある執筆としては帝京大学薬学部での退官教授記念パーティで紹介した“東日本大震災「3.11 東日本大震災」と「江戸清吉コレクション」—文化財の保護について—”の講演内容を日仏薬学会の会報の記事<sup>4)</sup>として掲載していただいた。フランス語の翻訳した部分（要旨）の掲載もあり、海を越え、フランスにも情報が発信・拡散されている。

表 3 江戸家の論文・口頭発表

1. 江戸清人. 学位論文 (自費印刷配布), 1979.3.
2. 江戸清人. 論文別刷集 1983 (自費印刷配布), 1983.9.
3. 江戸清人. 論文別刷集 1988 (自費印刷配布), 1988.6.
4. 江戸清人. 「東日本大震災 (3.11) と江戸清吉コレクション」, 退官パーティ懇親会, 帝京大学板橋キャンパス食堂, 2016.2.24.
5. 江戸清人. 東日本大震災「3.11 東日本大震災」と「江戸清吉コレクション」—文化財の保護, 日仏薬学会報, Vol. 23. No. 2 mars 2017.
6. 江戸清人. “豪商の収集した『江戸清吉コレクション』—文豪の往復書簡と自筆原稿との宝庫のこれまでとこれから—”, 日本薬史学会, 柴田フォーラム, 東京大学薬学研究科, 2018.8.4.
7. 江戸清人. “亘理町荒浜と『江戸清吉コレクション』”, NPO 法人セルフメディケーション推進協議会 学術フォーラム 2018 (仙台), ランチョンセミナー, エル・パーク仙台 (仙台三越定禅寺通り館) 5F セミナーホール, 2018.10.13.



図 8 江戸コレクション 額装 (幸田露伴)

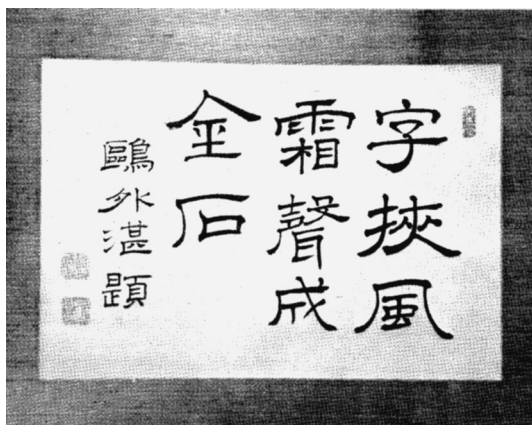


図 9 江戸コレクション 軸装 (森 鷗外)

表 4 宮城県亘理町立郷土資料館 (悠里館) による公開

1. 企画展, 「東日本大震災と救い出された資料」, 平成 27 年 2 月 14 日 (土)～3 月 29 日 (日)
2. 企画展, 「江戸清吉コレクション～近代文学・美術作品の宝蔵～」平成 28 年 9 月 17 日 (土)～11 月 27 日 (日)
3. 春のテーマ展, 「文豪たちの筆跡～江戸清吉コレクションの原稿・手紙・短冊～」, 平成 30 年 2 月 17 日 (土)～3 月 18 日 (日)

#### 6. 『江戸清吉コレクション』の作品のいくつかを紹介

前項 5. 『江戸清吉コレクション』の公開 a. でいくつかの作品を紹介したが, ここではさらに数種のコレクションを紹介する。

##### a. 木下空太郎 (もくたろう, 太田正雄) のエピソード

筆者は薬学の博士課程を修了直後, 縁あって東北大学医学部細菌学教室の研究室に助手として採用された。その折, 医学・薬学の専門書に混じって, 何かの糸で繋がれているように, 木下空太郎日記全集<sup>6)</sup>を予約購入した。その中で, 偶然祖父, 四代清吉の名前を目にすることになる。その 4 巻の 37 頁をそのまま引用すると, 「昭和 11 (1936) 五月廿九日……夜近藤省吾君の紹介にて同じ村 (亘理郡荒濱村) の江戸清吉氏という尋ね来る。鷗外博士の書翰 (かん) を所有するなりという……。」という記載がある。近藤省吾氏は荒浜村の医師かと思ひ, 筆者の所有する東北大学医学部同窓 (長陵) 会名簿を調査したが見当たらなかった。医師ではないのかもしれない。ちなみに, 木下空太郎は東北帝国大学医学部皮膚科学教授 (後に東京帝国大学医学部教授) で, 本名は太田正雄である。出身は静岡県伊東市, 生家は木下空太郎記念館として開館している。木下空太郎は森鷗外の弟子のひとりで鷗外を尊敬していたといわれてい

##### b. 宮城県亘理町立郷土資料館 (悠里館) による公表

悠里館 (図 7) ではこれまで 3 回の企画展を開催している (表 4)。企画展, 「東日本大震災と救い出された資料」, 平成 27 年 2 月 14 日 (土)～3 月 29 日 (日) では『江戸 (清吉) コレクション』とやはり荒浜町内の武者家のお宝を展示している<sup>5)</sup>。2 回目は, 企画展, 「江戸清吉コレクション～近代文学・美術作品の宝蔵～」平成 28 年 9 月 17 日 (土)～11 月 27 日 (日)。3 回目は春のテーマ展として, 「文豪たちの筆跡～江戸清吉コレクションの原稿・手紙・短冊」, 平成 30 年 2 月 17 日 (土)～3 月 18 日 (日) で江戸清吉コレクションが単独で開催されている。

る。

最近、県立神奈川近代文学館所蔵の森鷗外『北条霞亭』原稿が木下杢太郎の筆写原稿であることが判明した<sup>7)</sup>。それは江戸清吉から鑑定の依頼を受けた森鷗外の原稿を正確に模写したものであった。医師よりも画家になりたかった杢太郎であるとの推測もあるが、昔の医師は解剖学の実習で徹底的に臓器等を正確に模写する訓練を受けたというので、ありのままに写すのは得意だったともいえる。いずれにせよ、江戸コレクションの『北条霞亭』のオリジナル原稿が世に出て来たことにより、県立神奈川近代文学館所蔵の『北条霞亭』の原稿は木下杢太郎の模写したものと判明した。

#### b. 夏目漱石の絵画（軸装）

夏目漱石は絵（いわゆる文人画）も描いたマルチな才能の文人である。イギリスに留学し、大英博物館等にも度々



図 10 夏目漱石 軸装 [巨理町立郷土資料館よりデジタルデータとして提供]

訪れ、絵画にも造詣が深かったといわれている。岩波書店の漱石全集の装丁は確か漱石自身の原画と記憶している。漱石の代表的な小説、「草枕」にはジョン・エヴァレット・ミレーの代表作「オフィーリア」について言及されている。『江戸清吉コレクション』の中に夏目漱石の絵画の軸装が残っている（図 10）。筆者の母親が床の間によく飾っていた記憶がある。彩色はあり、南画風の構図である。かなり細部まで描かれている。

#### c. 竹久夢二の絵画他

竹久夢二に関する作品も『江戸清吉コレクション』には多数含まれている。竹久夢二は大正ロマンの漂う画家であり、現在でも人気がある。竹久夢二学会も 2014 年 9 月に創設された。機会があれば参加している。江戸清吉コレクションの中の竹久夢二の版画を紹介する（図 11）。これは 3.11 の大震災で津波の塩水に浸かったものである。平成 30 年 4 月東京ステーションギャラリーにおいて竹久夢二の展覧会（「夢二繚乱」展）が開催されたが、この中に同じ版画<sup>8)</sup>が展示されていた。「夢二繚乱」展の作品は色鮮やかであった。夢二の作品には夢二直筆の江戸清吉宛の葉書を始め、用箋原画、セノオ原画など 20 点ほどが含まれる。



図 11 竹久夢二 宝船 [巨理町立郷土資料館よりデジタルデータとして提供]

## おわりに

「江戸清吉コレクション」は個人所有であり、現在は郷土資料館にあり自由に公開は難しい。データのデジタル化、目録の作成など、どこをどのように進めて行けるのか先行きは不透明である。個人が文化財を保存するにはかなりのエネルギーを必要とする。

今日の巷の情報をみると、日本の少子高齢に伴い、日本の様々な価値ある動産が不動産を含め外国から「買い」求められていると聞く。日本の価値あるものを日本に留めておくにはどのようにすれば良いか、日本はいろいろな意味で古き良きものを死守する必要がある。一方で新しいものにチャレンジすることが必要なことは、もちろん、言わずもがなである。

## 謝 辞

多くの資料、情報を恵与いただいた、渡辺壮一亘理町立

郷土資料館（悠里館）館長および同学芸員の菅野達雄氏に深謝する。

## 引用文献

- 1) 江戸清人編. 江戸清人 学位論文別刷, 自費印刷, 1979. 3月
- 2) 江戸清人編. 江戸清人 論文別刷集 1983, 自費印刷, 1983. 9月
- 3) 江戸清人編. 江戸清人 論文別刷集II 1988, 自費印刷, 1988. 6月
- 4) 江戸清人. 東日本大震災「3.11 東日本大震災」と「江戸清吉コレクション」—文化財の保護について—. 日仏薬学会報. 2017; 23 (2): 7-8
- 5) 亘理町立郷土資料館. 企画展「東日本大震災と救い出された資料」展示解説資料. 2015.3.29, 全 p.6
- 6) 太田正雄著. 木下奎太郎日記. 第4巻, 岩波書店, 1980, p.37
- 7) 愛知県立大学日本文化学部他主催. 〈企画展示〉「津波被災からあらわれた直筆資料—奎太郎の〈敬愛〉, 鷗外の〈微笑〉—」. 2018.6. 配布資料
- 8) 千代田区×東京ステーションギャラリー. 「夢二繚乱」展図録, 2018. p.129

## Summary

My grandfather, Seikichi Edo IV (1884-1938), collected more than 20,000 cultural items—for example, manuscripts, a strip of fancy paper use for writing haiku poems (tanka), hanging-picture scrolls (kakemono), pictures of great men who wrote letters, writers, poets, critics, scholars, artists, and others—during the Meiji and Showa eras. These collections, the so-called “Edo Seikichi Collections,” survived through two major earthquakes: the Miyagikenoki Earthquake of June 12, 1978 and the Great East Japan Earthquake of March 11, 2011. The latter of the two resulted in my house located in Watari, Miyagi Prefecture being subjected to serious damage from both earthquake and tsunami. Various items in the Edo Seikichi Collections became soaked with marine saltwater, and the damage resulting from these disasters has been minimized owing to restoration assistance from non-profit organizations (NPOs) and Japan’s Agency for Cultural Affairs.

Currently, the Edo Seikichi Collections are being kept at and strictly maintained by the Watari Municipal Local Museum. Parts of the Edo Seikichi Collections have been revealed in a collection of scientific papers I authored. I introduced several works; for example, the diary of Mokutarou Kinoshita (Professor & Dr. Masao Ohta), a kakemono of Dr. Soseki Natsume, and a picture of Yumeji Takeshita. Additionally, the Watari Municipal Local Museum has held two special exhibitions showcasing the Collections.

The most important question is “Why did Seikichi Edo IV collect these family heirlooms while living so far from Tokyo, the center of Japan?” He only graduated from Sendai Ni-Chu, a junior high school, under the old education system. It is possible that he self-taught himself in the field of literature. I have no way of explaining the exchange of letters between great literary figures and Seikichi Edo IV.

Finally, in this paper, I describe the arduous difficulty of caring for his collections privately.

## サルファ剤の発見とその影響<sup>\*1</sup>

小林 力<sup>\*2</sup>

### Discovery and Impact of the World's First Miracle Medicine—Sulfa Drugs<sup>\*1</sup>

Tsutomu Kobayashi<sup>\*2</sup>

(Received December 28, 2018)

#### 画期的とは 独創的とは

毎年多くの医薬品が上市される。なかにはピカ新、独創的、画期的と称賛される医薬品もある。しかしどんなに独創的であっても、現在、それらが開発されるにあたり、仮説、技術、手本は必ずある。

仮説というのは「この受容体を阻害すればこの病気に効くかもしれない」といった、それなりの合理的根拠のこと。技術というのは、ある酵素阻害物質をスクリーニングするためのロボットなど、創薬プラットフォームのこと。そして一番大切な手本があるというのは、数万検体のライブラリーがあればたいいヒットし、最適化すれば第一相試験まで行き、(ここからは非常に低い確率だが)運が良ければ上市する、こうした医薬品がいくつもあることをいう。

「独創的」とは、漢字を見て厳しく言えば、こうした手本や仮説がない状態で作られる薬のことであろう。また「画期的」という言葉をそのまま解釈すれば、時代を変えるという薬のことであろう。2つの形容詞を文句なしに得られる薬が1つだけ過去にあった。1930年代につくられたバイエル社のサルファ剤、プロントジルのことである。

#### 1. 1930年代

1935年、アメリカは本土とハワイの間に旅客輸送を開始し、デュボンがナイロンを作り、ドイツは初のアウトバーン路線を開通、日本では理研に原子核研究室ができ、海軍

は5隻目の空母として蒼龍が進水、芥川賞が始まり、阪神タイガースが発足した。物理、工学方面の科学、また文化は今と同じようであるが、医薬の点では大きく異なっていた。

天然物由来のアスピリンやモルヒネはあったが、アメリカでは婦人薬にはリディア・ピンカムの植物エキス、腫物と寄生虫にはモーゼ博士のインディアン根丸薬、糖尿病や認知症には無数の売薬が堂々と使われ、ラジウム添加水はがんや難治性疼痛に効くとされた。その一方で、伝染病はもちろんのこと、産褥熱、戦傷、切り傷、肺炎、丹毒、咽頭炎など、常在菌による感染であっても高熱を発し、老若問わず、しばしば帰らぬ人となった。医師はまともな医薬品を持たず、見守るだけで為すすべがなかった。感染症に対し、人類は縄文時代と同じだった。

私は1960年代に外で遊んでいて足に錆びた太い釘が深く刺さったが、信州の田舎では1930年代と同じ治療をされた。すなわち病院には行かず、祖父が家にあった乾燥ソテツの葉を粉にして、ご飯粒と一緒に練って患部に貼り付けた。このことから大昔からつい最近まで、治療法も医薬もほとんど変わらなかったことを実感している。

#### 2. 有機化学と化学工業の発展史

医薬品を作るには有機化学と化学工業が存在しなくてはならない。人類最初の化学実験は染料の抽出であろう。しかし数千年にわたり学問、産業の対象にはならなかった。

19世紀も半ば1854年になって、ようやくキニーネの分子

<sup>\*1</sup> 本稿は2018(平成30)年10月27日にメディアシップ 2階 日報ホールで開催された日本薬史学会2018年会における講演に補筆したものである。

<sup>\*2</sup> 日本薬科大学 *Nihon Pharmaceutical University*. 10281 Komuro, Ina-machi, Kitaadachi-gun, Saitama 362-0806.



式が $C_{20}H_{24}N_2O_2$ と定まった。まだベンゼンの構造式(1865)も炭素の正四面体構造(1874)もわからなかった頃である。1856年、18歳の学生だったイギリスのW. Perkinが分子式だけを見て、アリルトリジン $C_{10}H_{13}N$ を酸化的に重合させキニーネを合成しようとした。キニーネなどできるわけがないが、代わりに紫の色素モーブができた。

産業革命で綿織物が大量に出回り、新しい色を欲していた人々にモーブは大いに売れた。天然染料の供給が追いつかなくなっていた時代である。2年後の1858年にはPerkinの師匠A.W. Hofmannもアニリンから赤色素フクシンを合成する。こうなると、それまで学問あるいは趣味に過ぎなかった合成有機化学が金儲けになると皆考える。そして多くの会社が設立された。ドイツの戦前三大化学メーカーの設立当時の名前を見てみよう(表1)。社名にあるFarbenとは色素のこと。BASFの社名になるアニリンは色素合成の原料だった。スイス、ノバルティス社も、もともなったガイギーは染料合成で成長し、チバとサンドは染料合成のために設立された。

そうした会社では大学で有機化学を学んだ研究者が、より美しく、染まりやすく、退色しにくい新規化合物を、構造活性相関を考えながら次々と合成し始めた。医薬品もプラスチックもない時代、商品価値のある有機化合物というのは色素であった。

ちなみに1926年、ドイツの有力化学会社すべてが参加し設立されたI.G. Farben社は、ナチスのもとで火薬、人造ガソリン、人造ゴム、肥料、医薬品などあらゆるものを生産した巨大企業だが、社名はファルベンである。

### 3. 染料から医薬品へ

人類史上最大の殺戮者は細菌感染症であろう。ペスト、結核、ジフテリア、髄膜炎やコレラなどの伝染病はもちろん、産褥熱、手術熱、外傷感染、肺炎など常在菌による感染であってもしばしば重篤化、死亡した。ようやく19世紀の終わりになって、R. Kochらが原因となる病原菌を同定したが、治療手段は誰も持たなかった。先史時代と変わ

らず、なすすべもなく死んでいく本人と、家族、医療関係者は、太古の人と同じように治療薬を夢見た。

コッホの弟子P. Ehrlichは、色素が細菌や寄生虫を選択的に染めるのを見て、化学分子が選択的に目標と結合し、それを殺す可能性を想像する。1903年、500以上の色素をスクリーニングし、アフリカ睡眠病の寄生虫を殺すトリパンレッドに到達した。さらに1910年、梅毒にも有効なサルバルサンも創出、ヘキストから発売する。

それを見た多くの(染料)化学会社が医薬品開発に参入したが、あとが続かなかった。1911年、エールリヒの肺炎薬オプトチンも重篤な副作用で失敗した。感染症の薬物療法は不可能とみなされ、1920年代に化学会社は医薬品開発から撤退する。

### 4. バイエル社の成功

しかしバイエル社だけは研究を継続した。染料化学者として1884年入社したC. Duisbergはバイエルの実権を握ると、1911年、やはり染料化学者だったH. Horleinに医薬品部門を任せる。ヘルラインは、「新薬探索は週に1つか2つ合成しているようではだめだ」「合成医薬品は異なる専門分野の共同作業で生まれる」と、病理学者と有機化学者のチームを組織化した。1923年ゲルマニン(睡眠病)、1927年プラスモチン(マラリア)と寄生虫病薬にある程度成果を上げた後、いよいよ、人類悲願の抗細菌薬の開発に乗り出す。

彼は1927年、G. DomagkとJ. Klarerを採用する。ドーマクは細菌を弱らせる物質と免疫細胞を研究していた。彼は入社後、敗血症などの原因となる連鎖球菌、結核菌を含む6種類の病原菌に対し、インビボ、インビトロで効果を確認できるパネルアッセイ系を完成させた。そして1929年からスクリーニングを開始する。クラレルは教授職を囑望されていた天才染料化学者で、驚異的なスピードで化合物を合成しドーマクに送った。

しかし彼らは3年間、なんの成果も得られなかった。アクリジン色素のいくつかは試験管内で効いたが、ビボでは

表1 ドイツ三大化学メーカーの社名

バイエル	1863	Farbenfabriken vorm. Friedr. Bayer & Co. (1881)	
	1881	Farbenfabriken Bayer AGに変更	バイエル染料製造会社
ヘキスト	1863	"Teerfarbenfabrik Meister, Lucius & Co." in Höchst	ヘキストのタール染料工業
		Farbwerke Hoechst AG (国際市場で)	ヘキスト染料会社
BASF	1865	Badische Anilin- und Soda-Fabrik	バーデン・アニリン・ソーダ製造会社

AG: 株式会社, farben: 色素, fabrik: 作業場・工場

効かなかった。金化合物やキニン類もだめ。1931年からはアゾ色素を本格的に調べ始める。塩素、ヨウ素、ヒ素、ニトロ基を入れたり、炭素鎖の長さを変えたり、側鎖の位置を変えたりした。有効と思われ特許出願した化合物が、数か月後に再検すると効かないなど、研究は困難を極めた。1932年秋になってアイデアが尽きたクラレルはヘルラインに相談する。まったく成果の出ないプロジェクトへの不満だったのかもしれない。しかしヘルラインは染料化学者としての経験から硫黄原子を入れてみるようアドバイスする。10月、スルファニルアミドの形で硫黄を入れたKL-695が劇的に効いた。クラレルは年末まで猛烈に周辺化合物を合成、KL-730が選ばれた。

KL-730は1932年12月末に特許申請された。連鎖球菌 *Streptococcus* に効いたことからストレプトゾンと命名され、のちブドウ球菌 *Staphylococcus* にも効き、作用も速やかなことからプロントジルと改名される。バイエルは引き続き、周辺化合物のスクリーニングを進める一方、密かに周辺の臨床医に渡した。敗血症、丹毒、蜂窩織炎の瀕死の患者が副作用なく救われた。

人類史数千年にわたり、医薬とは、ほとんど素性怪しく、「急変しない疾患に対してのみ」、「信じる者だけ」が「効いた気のする」代物だった。しかしプロントジルは、はっきりとした構造式で表され、信じる信じないにかかわらず、必ず死ぬべきはずの動物にさえも劇的に効いた初めての抗細菌薬であった。

### 5. 薬効と色素の分離

1934年12月、バイエル特許が成立、公開されると、ようやくドーマクは論文発表した。隣国フランスのパスツール研にいた E. Fourneau はバイエルにサンプルを送ってくれるよう手紙を書いた。しかしヘルラインは拒否する。当時は物質特許がなく、保護されるのは製法だけ。もし他社が新たな合成法を発見すれば販売できるし、新たな誘導体を得れば莫大な利益となる。他社の目論見をそのまま許すほど御人好しではなかった。

フルノー研では、バイエルからサンプルがもらえないとわかると全力で特許の解説にとりかかった。独自に合成した化合物の薬効を確認し、ドーマクの論文からわずか3か月で発表した。新たな合成法をフランスの化学会社に教える一方、彼らもプロントジル誘導体のスクリーニングを開始する。そして35年11月、偶然に薬効が色素でなく分子の一部、無色のスルファニルアミドという単純化合物にあることを見出す。彼らは秘密主義のバイエルと対照的に、

論文を量産した。

スルファニルアミドは特許もなく、染料工業では原材料としてキログラム単位で扱われていた。何の制約もなく誰でも販売できる。重要なことは、抗菌作用が色素、すなわちアゾ結合をはさむ2つのベンゼン環構造と関係なくなったことだ。これで誘導体の展開が自由になった。フルノーらはスルファニルアミドから誘導体セプタジン合成し、1936年5月ローヌ・プーラン社がこれを発売した。

色素分子から離れられず、8年と数百万マルクをかけて苦勞したバイエル社は、黙ってみているしかなかった。

### 6. サルファ剤ゴールドラッシュ

イギリスでも、翌36年6月に L. Colebrook がプロントジルの優れた薬効を発表した。特許のない化成品に過ぎなかったスルファニルアミドが、次々と包装、販売され、10月にロンドンで売られたサルファ剤は36銘柄を数えた。

アメリカではブームが少し遅れた。感染症に効く薬など存在しない時代、情報があっても信じられず大して注目されなかったのである。しかし36年12月にルーズベルト大統領の息子が急性副鼻腔炎と診断された連鎖球菌感染が悪化、ひん死の状態になるも、サルファ剤で助かった。これ

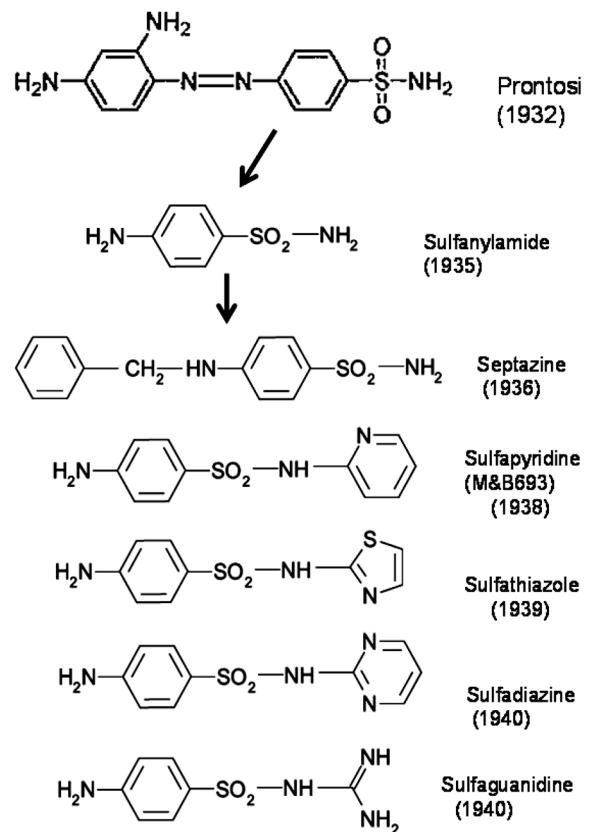


図 1

により需要が爆発する。1937年前半にはレダリー、リリー、メルク、スクイブなど大手から中小メーカーまで20銘柄以上が市場に出た。

サルファ剤は世界中に広がる。日本でも1937年7月にはゲリゾン（山之内）、テラポール（第一）が発売された。当時は動物実験も臨床試験もなく、もちろん認可制度もない。合成即発売、論文よりも薬が早く広まった。今では毒物でしかないストリキニーネや水銀剤を絶妙なさじ加減で使っていた医師たちは、まったく副作用なく劇的に効くことに驚き、まさに従来の「薬」の概念を変えさせられた。

一方でスルファニルアミド誘導体の研究も進んだ。バイエル社はもちろん、ローヌ・プーランのイギリス子会社 May & Baker 社をはじめ多くの会社が抗菌スペクトルを広げるべく新規化合物の合成を続けた。アメリカだけで1942年までに3,600以上の誘導体が合成され、そのうち30化合物が売られた（図1）。

## 7. 医薬品規制のはじまり

しかし、いくら夢の特効薬でも、規制のない状態で乱用されれば何かが起こる。1937年9月アメリカ、雨後の筍のようなサルファ製品の中で、マッセングル社は差別化を図ろうとプロントジルを甘いジエチレングリコールで溶かした。この製剤で死亡事故が起き、11月までに死者は105人に及ぶ。

それまで、野放し状態の危険な医薬品を規制しようという動きはあった。しかし、製薬業者の献金や売薬メーカーの広告費を得ていた政治家、メディアは、規制に後ろ向きだった。ザル法であった食品医薬品法（1906）の改正案はことごとくロビー活動で廃案となっていた。

しかし、この事件で1938年6月、一気に新しい医薬品規制法が成立し、FDAは強化された。10月、新薬として最初に承認申請されたのは、M&B社の提携先メルクのサルファ剤スルファピリジン（M&B 693）。審査過程は厳重で、12月、肺炎流行を前にメディア、医師たちが早期承認を迫ってもFDAは動じなかった。全米中立医師へのアンケート、ヒアリングが終わり、認可したのは法律による期限ぎりぎりの1939年3月だった。こうした医薬品規制法の強化や新たな制定は先進各国に及んでいく。サルファ剤がなかったら、そしてマッセングル事件がなかったら、医薬品の規制は始まらなかったであろう。

## 8. サルファ剤が変えたもの

規制法は本来消費者の保護を目的としたものであった。

しかし当局が新たなサルファ剤を厳しく審査する様を見て、製薬会社の形態に急激な変化が起きた。新薬には毒性、薬効の臨床試験が要求されるため、きちんと教育された生物学者と合成化学者、近代的な工場が必要となった。それができない会社はOTCやサプリメントの販売に向かい、「奇跡の万能薬」を売る商店は消えていった。

サルファ剤の登場は医師と患者の関係も変える。かつて医師は自らの無力さを知っていた。患者は死ぬか、自然治癒だった。彼らは治療よりも観察者として成り行きを予言し、控えめに家族を慰める存在であった。しかしサルファ剤以後、医師は自信を持ち、優秀で行動力がある、心のケアより技術を優先し、多忙、高収入な存在となった。一方、服用薬から治療法まで、もっと言えば神秘の水晶玉から祈祷師のお祓いまで、さまざまな選択肢を持っていた患者も、学会中心に決められたガイドラインをかざす医師に従うようになった。治療も出産も自宅ではなく、病院で行われるようになる。

創薬現場の意識も大きく変わった。誰でも合成できて構造式で書ける簡単な物質、すなわち神秘性を排除したサイエンスの成果が、不治の病を治し得るという前例を作った。この希望に向かって多くの製薬会社が設立され、あるいは研究所を拡大した。集まった研究者たちは、細菌感染症以外の疾患にも目を向けていく。最初はサルファ剤を飲んだ患者が頻繁に排尿に行くことから利尿薬が生まれた（図2）。そして、サルファ剤を生んだ、化合物デザイン→合成→動物実験→化合物デザイン→合成というサイクルを回す、まさに現在と同じ創薬スタイルが確立した。

サルファ剤によって医薬品そのものの概念も変わった。得体のしれない練り物、抽出液でなく、化学物質であるということは、誰もがきちんと濃度を設定でき、生化学実験ができるということだ。創薬より先行していた薬学、生化学的な基礎研究により、プロントジルが代謝分解されて薬効を発現すること（プロドラッグの概念）、細菌の葉酸合成におけるp-aminobenzoic acidと競合すること（代謝拮抗薬の概念）が発見された。これにより医薬品とは神秘的、ブラックボックス的なものでなく、科学の言葉で語られる作用メカニズムを持つものだということが当然となった。

## 9. サルファ剤の終焉

抗生物質の存在自体が知られていなかった1928年、A. Flemingはカビの細菌に対する阻止円を発見した。カビ抽出液を800倍に薄めても抗菌作用を示し、1929年結果を発表したが、まったく注目されなかった。彼自身も、医

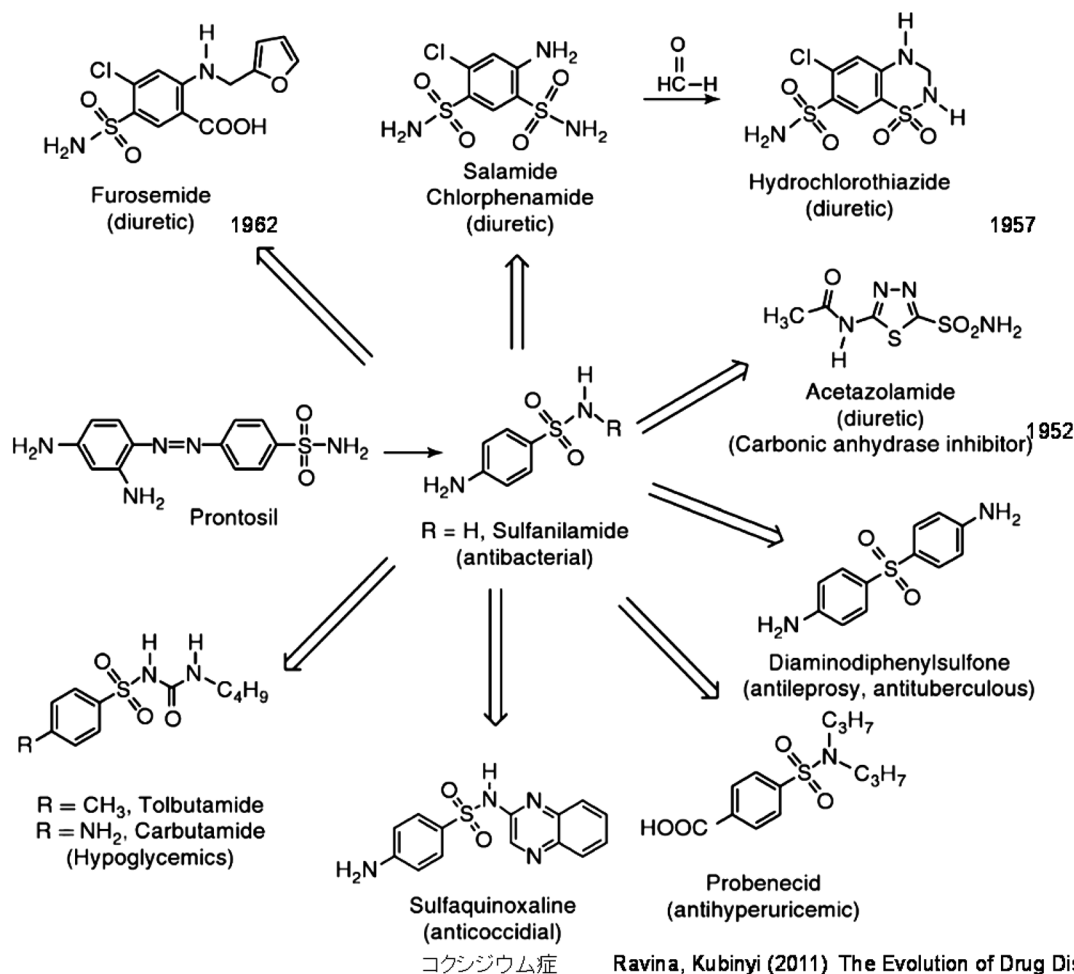


図 2 サルファ剤の研究から生まれた新薬

薬品より細胞培養のコンタミ防止や、微生物の単離に使えると述べている。当時、フレミングは抗菌医薬品としては鼻水のリゾチームのほうが有望と考えていた。これは、カビの培養液に夢のような医薬品となる物質が確実に溶けているというイメージを持ってなかったからだと思われる。はっきりわかっていたら（彼自身は無理でも）全力で精製に向かったであろう。

しかしサルファ剤の成功で、魔法の弾丸、化学物質による選択的抗菌作用が、現実的、具体的現象として認識されてくる。オックスフォードの H. Florey, E. Chain らは、リゾチームを使って細菌の細胞壁を研究していたが、1938年、フレミングのカビ培養液中のリゾチーム様物質に注目、精製するうち、優れた抗菌活性に気が付く。サルファ剤の成功が手本となり、1940年5月、連鎖球菌を感染させたマウスで、41年には敗血症の患者で薬効を確認した。彼らは10年前に開始すれば10年前に発見していたのではないかと

ペニシリンは戦火を避けアメリカで量産されたが、生産したのはサルファ剤で成長した（近代的）製薬会社であっ

た。その優れた抗菌作用と1945年のフレミングらのノーベル賞により、サルファ剤と1939年のドーマクのノーベル賞受賞は色あせた。

サルファ剤とペニシリンの成功をみた製薬会社は、ストレプトマイシンやクロラムフェニコール、テトラサイクリンなど次々と抗生物質を発見し、その大波は、サルファ剤を一気に過去のものにした。しかしサルファ剤がなければペニシリンや他の抗生物質の発見はもう少し後になっていたに違いない。自らの成功がその黄金期を短くするのはよくあることだ。

ドイツの研究者は戦後も他の国の人々よりペニシリンなど抗生物質に冷淡だったという。戦後2年ほど、ドーマクを含む多くの医師や研究者はペニシリンに対するサルファ剤の優位性を弁護し続けた。ドイツ人のこうした頑固さ、培養より有機化学を選ぶ国民性を、私は好きである。また、自由な発想ゆえに、いち早くスルファニルアミドに到達するも、その後のレースに負けてしまうフランス、原理の厳密性よりも臨床での実績を重んじる一方で新しいもの（か

びのスープ)にも目を向けるイギリス、民主主義と大量生産のアメリカ。サルファ剤の物語においても国民性が出ていて面白い。

## 10. おわりに

サルファ剤の偉大さは、もちろん、先史時代から1930年代まで一貫して細菌感染に全く無力であった人類を、奇跡のように救ったことにある。しかし忘れてはならないことがある。国家による医薬品の規制、医師と患者の関係、製

薬会社の創薬過程など、現在当たり前のように感じていることは、ほとんどサルファ剤に始まったことだ。その変化は徐々にではなく、劇的であった。個人的には、80年前、成果のないまま4年間、まったく海図のない孤独な航海を続け、ついにゼロから奇跡を生んだバイエルの人々とそれを育てたドイツに畏敬の念を覚える。医師を含め人々がサルファ剤を忘れても、創薬現場に身を置いていた私としては決して忘れることができない。

## Summary

For thousands of years, humans had sought miracle medicines. In the 1930s, people were generally the same as people today. But they were almost helpless in terms of treating bacterial infection. P. Ehrlich, watching synthetic dye molecules stain bacteria specifically and selectively, started the research for antibacterial agents, "magic bullets." Although he failed to reach the goal, the German dye company Bayer succeeded in utilizing his concept and approach. In 1932, after screening 3,000 compounds over a four-year period, they succeeded in the development of the antibacterial red-dye compound Prontosil. This medicine was welcomed by the world as a miracle drug. In 1935, after the non-patentable derivative sulfanilamide was discovered by the Pasteur Institute, it was synthesized by many companies and spread worldwide.

However, enthusiastic overuse of a medicine can cause something to go wrong. In 1937, diethylene glycol used as a solvent of Prontosil killed 105 people in the USA due to renal toxicity (i.e., Massengill elixir tragedy). In those days, toxicity data was not necessary for medicines. After this tragedy, the USA introduced a new strict law and empowered the Food and Drug Administration (FDA), and many countries followed this action. Interestingly, this regulation changed the pharmaceutical industry. In order to obtain official approval for a new drug, companies require biologists, chemists and modern laboratories to obtain safety and effectiveness data. If they are unable to do this, they must change from new-drug manufacturers to over-the-counter or supplements manufacturer.

The first strong medicine also changed the relationship between doctors and patients. Before sulfa drugs, doctors knew themselves to be powerless and were humble. But after the introduction of sulfa, they became self-confident against diseases and patients. Finally, Prontosil also reduced pessimism about medicines, dissipating the prevailing attitude that chemicals would never be able to cure most diseases. Thus, new pharmaceutical companies began utilizing the Bayer method to develop innovative drugs for treating many other diseases.

## 良寛に学ぶ—心身医学の立場から\*<sup>1</sup>

櫻井 浩 治\*<sup>2~\*4</sup>

### Learnings of Ryoukan—From the Standpoint of Psychosomatic Medicine\*<sup>1</sup>

Koji Sakurai\*<sup>2~\*4</sup>

(Received March 1, 2019)

#### はじめに

良寛は、生前橋崑崙著「北越奇談」に、「托鉢してその日の食に足るときは即ち帰る。食あまる時は鳥獸にわかち与ふ」として「実に近世の道僧なるべし」と紹介されている越後出身の江戸時代後期の禅僧である。

越後平野の中ほどの、佐渡ヶ島へ無宿者が金山労働に送られた港のある出雲崎で、1758（宝暦7）年、名主橋屋山本家の長男として生まれた。奉行所や処刑場があった所である。

18歳の名主見習いになったばかりの1か月半後に、突然両親には無断で出家。22歳より岡山倉敷の玉島にある円通寺（曹洞宗永平寺派）で修行し、禅僧として自立して良いという認可を受けて38歳頃郷里に帰った。以後、生涯自分の寺を持たず、真言宗系の寺の庵や神社の側庵に住し、冬は長く、今よりは遥かに深い雪に囲まれ、近くを過る信濃川は年に2度も起きた年もある程毎年のように洪水に見舞われ、貧窮を余儀なくされていた山里の村々を、門付けをして食を乞う「乞食」を「行」とする托鉢僧として過した。

しかしそうした日々の中を、生存中から偽物が出回ったといわれるほどの書や万葉調の和歌、それに規則に従わない独自の漢詩を多く残し、盆踊りに参加し、賭け碁をし、

子供らと遊ぶなどして庄屋や医師、村人らに親しまれ、出雲崎に近い島崎の木村家の裏庭の庵で、弟由之や40歳年下の法弟貞心尼らに看取られながら、1831（天保2）年、74歳で入寂。木村家の菩提寺、浄土真宗隆泉寺に葬られている。直腸がんであったと考えられている。

私は心身医学を専攻した精神科医である。

心身医学は、人が身体と共に精神を持つ存在である以上、その疾患に対して生物的側面だけを診て治療するのではなく、精神的側面も同時に配慮した心身一如、心身相関の全人的医療の実践を目標にした医学であり、「心療内科」という診療科目名は、この学会の要望で厚生省により認められたものである。

良寛については「百人居れば百人の良寛が居る」といわれるほど、多くの報告があるが、本論ではこの心身医学の立場から、良寛が当時としては長命ともいえる年齢まで生きた背景について考え、多少とも現代の我々に益するものがないか、考察してみたいと思う。

#### 1. 良寛のストレス

まず考えられるのは、上述したような環境での一人暮らしと「乞食の行」は、良寛にとっては覚悟の上で選んだ生き方であるとはいえ、多大なストレスを生じさせ得る状況下であった、ということである。

\*<sup>1</sup> 本稿は2018（平成30）年10月27日にメディアシップ2階 日報ホールで開催された日本薬史学会2018年会における講演に補筆したものである。

\*<sup>2</sup> 新潟大学名誉教授 *Professor Emeritus of Niigata University*. 8050 Ikarashi 2-no-cho, Nishi-ku, Niigata 950-2181.

\*<sup>3</sup> 新潟医療福祉大学名誉教授 *Professor Emeritus of Niigata University of Health and Welfare*. 1398 Shimami-cho, Kita-ku, Niigata 950-3198.

\*<sup>4</sup> 日本心身医学会名誉会員 *Honorary member of Japanese Society of Psychosomatic Medicine*.

その上、良寛の生涯は、家族・同胞、並びに親しい友人との死別の連続だった。生涯で経験する出来事の中で最高に強いストレスは最も頼りにしていた「配偶者の死」だとする説がある。こうした別れは喪失体験と呼ばれ、免疫の低下を誘発し、癌や血管障害など重篤な病を引き起こす要因になることがある、ともいわれている。

良寛は独り者であるから配偶者との別れはないが、両親とは修行中に、ついで二人の弟、二人の妹が次々に亡くなり、最後の身内は4歳年下の弟由之と19歳下の妹みかのみであった。そして少年期に通った塾時代からの歳下の親友佐一や、旅先の江戸へ、「天寒し 自愛せよ」という便りを送った佐一の姪維馨尼の死。同じ境遇で趣味も似て互いに泊まり合っていた年上の禅僧有願の死。

長く生きれば当然多くなる死別であるが、年下の同胞や親友の死は僧であった良寛にとってもストレスとなる出来事であったのだろう。国上山の庵を離れることを渋っていた良寛が、島崎の木村家の庭庵へ移ることを承諾したのは、年齢もあつたが頼りにしていた妹むらの死の翌年であったし、京都で学僧となっていて行方不明になった弟香の形見の品を生涯大事にしていたという話もあり、地方の俳諧師として名が知れていて京都で自死した父以南の俳句のいくつかを書き留めて、終生肌身離さず持っていた。佐一や有願の死を悼む痛切な漢詩も残っている。

封建制度の強かった時代で、長男でありながら家業の名主を継がなかったことも、両親には勿論、良寛に代わって名主を継いだ弟由之や、そうした兄を持った直ぐ下の妹むらへの申しわけなさと、親戚や村人の非難の目をいつも意識しながらの郷里での暮らしだったのではないかと、とも思う。

信濃川の氾濫が治まるのは、寺泊への人工分水路ができ、可動堰による治水が可能になる昭和の時代に入ってからのことである。それまでは越後平野は決して豊かな土地ではなかった。そのために上州、現在の群馬県下の宿場へ身売り同様の年季奉公に出て若くしてその地で果てた少女の姿も、良寛は見ている筈である。

いずれにせよ、こうした土地での托鉢の行は楽なものではなく、冬の病での孤独さをかこつ漢詩や、空の鉢を抱えて帰る漢詩、米びつに米がなくなつたと訴える手紙もある。

このように、良寛は様々なストレスを抱えて、越後での日々を送っていた。

## 2. 多病だった良寛

このような環境での良寛の健康や病への対応は、どのよ

うなものであったか。

良寛は、自らを「六十有余の多病の僧」と書く。「悪寒と高熱で脈も乱れている」とその病状を述懐した漢詩もある。

以下、谷川敏朗氏が集めて報告している70余名宛、総計267通の手紙とその解説を主たる参考にして述べていくが、確かに、残された手紙をみても、貰い物へのお礼に併せて、病気や身体に関する記載が目立つ。

たとえば庄屋解良家の当主叔問宛の手紙は20通あるが、「また風邪をぶり返した」などと半数近い8通に、体調不良を伝える内容が認められている。

手紙全体では、寒さをかこつと共に、風邪の他、火傷・眼病・捻挫・切り傷・痰・せんき（急な腹痛）・しけ（むくみ）・下痢・いんきんたむし、ひぜん（皮膚病）、などの病名が見られる。眠れない夜もあったようだ。

元々の体質もあるのだろうが、上述したストレスを背負つての托鉢の日々が、「多病の僧」にしていたとも考えられる。

## 3. 積極的な健康法

良寛が長く住んでいた国上山の麓、牧ヶ花に庄屋解良家があつた。ここの長男である解良栄重は、良寛が亡くなった時は22歳であつた。

その彼が書き残した「良寛禅師奇話」によれば、良寛は大柄で無口で、動作はゆったりとしていて、良寛が法要で泊つた日は、自然に家中が穏やかな雰囲気になつたという。

その良寛は「師能人ノ為メニ病ヲ看、飲食起居心ヲ尽クス 又能按摩シ 又灸ヲスル」とも書かれている。

ここに書かれている村人への病に対する具体的な対応は、残された手紙で良寛自身の病や健康への関りと共に知ることができる。

例えば「<sup>かんき</sup>寒気にて <sup>おこりそうろう</sup>せんき起候 処 かせゆいも（何首烏芋）夜、<sup>よなよな</sup>焼きてたべ <sup>つかまつり</sup>快気仕候」、<sup>くださるべく</sup>「やけと（やけど）の薬の製法を御しるし被下可候」などとあり、他にもしけにキウリの根をせんじて服用したら治つた、食欲がないので梅干を少し分けてくれ、淋病の薬を貰ってきたからあげる、などという内容の手紙もある。

「ひぜん」の薬の製法を教わつたからと、くるみ、しゃうが、湯花、<sup>さいかち</sup>荊角子などを、それぞれどのような状態のものを、どのくらいの量で、どのように混ぜるか、などと詳しく説明し、効用まで述べ、最後に「やでもおうでもつけさしやれといふことにはなく候」と付け加えている。「どうしてもつけるという訳ではない」というのだ。中には服用したが効かないので余りは返す、というものもある。

この他、谷川氏は三蔵円、三黄丸、福寿万寸金、金龍丸、万能膏、目の薬、痰の薬、などが手紙に出てくると報告している。

このように良寛は積極的に薬を使用している。

さらに興味深いのは「白幽子伝を弥御つとめ被遊候哉」（七彦宛）と言い、自分はこれを行った故か寒さもしのぎ易いようだ、と書いている手紙や、「比日話致候丹田を修し御試可被遊候」（證聴宛）という手紙があることである。「白幽子伝」の手紙には、あれこれ物に執着するな、など一般的な養生の心得の他に「気を常に内に満たすようにすれば、外部からの悪い影響は簡単には受けない」と述べている漢詩が添えられている。

ここにある「白幽子」や「丹田」という言葉は、良寛が生まれた前の年に出版されている白隠禅師著「夜舟閑話」に出てくるので、この本を指すのではないかと考えられている。この書は同じ禅宗の臨済宗の僧であった白隠が、激しい修行で心身に不調を来したものを、京都白川の仙人白幽から学んだ治療法で治った、とする本である。

その治療法は、呼吸の重要さの他に、臍下丹田に気力を溜め、足の裏の土踏まずへと充実させるイメージを用いる「内観の法」と、頭の上においた香りのよいチーズのような「軟蘇」が溶けて全身を流れ落ち、世の良医が作った薬湯に下半身を漬けている、というイメージを用いる「軟蘇の法」の2つが述べられている。

このようなイメージによる身体の調整は、現代の心身医学領域で、自らの意志では動かすことのできない自律神経の交感神経系の働きを同じ自律神経のリラックスした状態を引き起こす副交感神経系の働きへと自己暗示により移動させる「自律訓練法」と極めて似ているのである。

#### 4. 一般生活での配慮

次いで「良寛禅師奇話」に書かれている「飲食起居心を尽くす」ということについてみて見よう。

良寛には宗教家にとって如何に「食」が重要かということを書いた「請受食文」という文章があり、「食を受けないと肉体が調わない。肉体が調わなければ精神が調わない。精神が調わなければ徳は説けない」と書いている。そしてまた「つめを長く伸ばし、髪をもじゃもじゃにして入浴せず、炎天に身をさらし、五穀を食べない、などという修行は外道だ」と批判している

また、勘当された木村家長男周蔵への戒めか、ともいわれている遺墨には、「おりおりに足に灸すゆべし/油濃き魚喰うべからず/油もの喰うべからず/常に淡きものを喰うべ

し/大食すべからず/昼寝を長くすべからず/酒を温めて飲むべし/手足の爪切るべし/口そそぎ、楊枝使うべし/湯浴みすべし」という身体上の戒語が記されている。

他にも、味噌が塩辛いので換えてほしい、という手紙もある。お茶の効用に触れた「讚」も残っている。寺泊に住むすぐ下の妹へ下着などの洗濯を頼み、衣類なども十分に足りているからと返す、という手紙もある。

弟由之が49歳の時、5月に妻を亡くし、11月には町民に訴えられていた裁判で敗訴して家財没収所払いの処分を受け、すさんだ生活をしていた時に、人も「三十四十を越えては、おとろへゆく」ものなので、「大酒飽淫は実に命を切る斧なり」と戒め、その気になれば辞められる筈、とも説いている。年齢に合わせての健康も注意しているのだ。

このように、良寛は衛生上清潔であることを心掛け、禅僧としての心得か、良寛自身の経験からか定かではないが、現在にも通ずるような健康食を他者にも勧めている。

良寛は、「健康な精神は健康な身体に宿る」として身体面に対する健康を先ず考え、自分の経験を重んじた考えと行動をとっていた。

#### 5. ストレス回避のための「甘え」と「自尊心」と「役割意識」

しかし、先に述べたように、良寛は精神的なストレスもかなり多く抱えていたことを見ると、良寛の健康維持に、精神的な面での関りがまったく無関係であったとは考え難い。

したがって、こうした精神面からのストレスへの回避、あるいは緩和行動が、良寛にとってどのようになされているか、ということを見る必要がある。

私は精神的ストレスを回避したり緩和するためには「甘える」ことのできる環境がきわめて重要だと考えている。「甘え」については土居健郎氏の有名な理論があるが、私がここで言う「甘え」は、広辞苑にある「甘える」の意味の「慣れ親しんで媚びる。人の親切・好意を遠慮なく受け入れる」という中の、後者の意味での「甘え」である。

現代では、本人のストレス軽減のための機能を持つ人的・物質的支援組織を「サポートシステム」というが、サポートシステムは「甘える」ことが許される機関であり、人間関係である。兼好法師が「徒然草」に「良き友」としてあげている「物くるゝ友、医師、知恵ある友」は、このサポート機能の一面を実に的確に言い表していると思う。

良寛には良寛を尊敬し援護する庄屋や豪商、医師など、この良きサポート機能を持つ知識階層の人達がいた。



良寛は彼らから読みたいと思う古典や新しい書物を借りることができた。書字の手本となる内外の名筆家の本も見ることができた。良寛に元々素質はあっても、こうした書籍がなければ、独自の能筆家にも、優れた歌人や詩人にもなれなかっただろう。こうした気兼ねなく甘えることができた彼らがいたからこそ、米櫃に蓄えがなくなった厳しい冬も越せし、自分にできない本当に乞食をしている親子への援助も、葉の作り方を教えてやることもできたのだ。

考えてみれば、信仰上の意義があるとはいえ、「乞食（こつじき）の行」も村人の善意に甘える行為である。良寛が出家したこと自体、家族への「甘え」の行為だと思う。

だが、ただ甘えてばかりいたわけではない。先に述べたように自己達成の成果の還元として庄屋らに和歌・漢詩の指導をし、書で楽しませ、代筆で手紙を書くなどをし、相談にも乗っていた。病人の面倒を見、灸や葉の作り方や、イメージ健康法などを教えた。良寛は彼らにとっての「知恵ある友」であった。

子供と遊んだのも、多忙な親の代わりに相手になり、やがては上州群馬の宿場へ飯売り女として働きに出る子ども達への良寛にできる精一杯の行為であった。托鉢に出る時、頭陀袋に入れることを忘れてはならないためのメモ書きが残っているが、その第一のグループに「手毬・おはじき」があった。

だが良寛は自分が行ったことの原因をあれこれ言いふらすことはなかった。戒語に「おれがこうした、こうした」という一条のあるのを見ても、良寛はそのような行為を嫌ったことがわかる。

「自尊心」という言葉がある。自尊心とは自分の良し悪しをきちんと知っていて、特に優れた部分を正しく評価する心である。しかも他者からもその優れた部分が認められてこそ、確実な自尊心となる。

私はこの「他の誰でもない自分」という自尊心の存在も、ストレス回避の大きな力になる、と思っている。他者に甘えることができるのは、このお互いに認め合う自尊の心をしっかりと持ちあっているからである。甘えられることは自尊心を満足させることだ。

弟由之や妹むらが、終生変わらぬ愛情と尊敬の念を抱いてくれたことは、何にも代えがたい良寛の自尊心の支えになった。

晩年に妹むらの死の喪失体験を埋めるかのように現れた法弟真心尼にも、良寛は心行くまで甘えたようであった。

## 6. 自己表現の独自性

ストレス回避で次に思うことは、これも冒頭で述べたことであるが、良寛は書や詩歌による自己表現が豊かだったことである。しかもその表現方法では、従来の形にはまらない自由な創作を好んだことだ。

「良寛禅師奇話」に、良寛が嫌いなものは「書家ノ書」、「歌ヨミノ歌」だったと述べているのも、この独自性を尊ぶ気持ちの現われであろう。そうでなければ本当の自己表現はできないと考えていたのだろう。

「書」は40歳代から独自に学び、蘭学者で書家であった亀田鵬齋が「鵬齋は越後帰りで字が曲がり」といわれたような独特な草書を書き、漢詩についても作詩上の規則を守っていないことを承知していて、自分の漢詩を漢詩だと認めてくれる者だけと胸襟を開いて話したいと書き残している。それだけの自負心があったのだ。

豊かな自己表現を可能にする芸術を生んだのも、禅宗の思想を根底に置きながらも宗派にこだわらない仏教の根本を抑えた宗教観や生あるもの全て平等であるという信念を育んだのも、嫌なことは嫌だといえたのも、「他の誰でもない自分」というこの独自性があったのもであり、僧としての役割を含めてこのような何かに没頭できるものがあることが、良寛を覆う自然環境や人間関係からのストレスを緩和し、回避させたのに役立つのであろう。

## 7. 基本となる心情

良寛は、洪水や地震、宗教界の乱れ、困窮、若い娘の年季奉公、身分制度の不平等さなど、どうにもならない時代の世相や自然の猛威に憤慨もした。こうした緊張感も、ストレスを断ち切って、ストレスを緩和する一要素になったと思う。

これ等の良寛の心の在り方の背景には、これまで述べてきた健康への様々な配慮を含め、私は次の2つの基本的心情があると思っている。

1つは、国上山の海側の山腹の西生寺にある本邦で最も古いミイラとされている弘智法印の即身仏に感動し、とても弘智法印のようにはいかないがせめてもと書いた心情である。

それは「若し邪見の人、無義の人、長病の人、孤独の人、不遇の人、六根不具の人等々、不幸な人を見たら、先ず自分に何が出来るかを考えよ。もし何も出来なくとも、少なくとも憐れみの心、同情の心を持たねばならぬ。その気持ちさえ生じない者がいたら、その者は自分自身を恥じよ」と

いう檄文で、「弱者や不幸な人への憐憫の心」を持っていうのである。

今1つは、道元著「正法眼蔵」中の「真理を求める者が人を導くために行う四つの方法」の中に出てくる「愛語」という心である。良寛はこの一節を諳んじていたのか、片仮名混じりの遺墨を残している。

「愛語」というのは、「人に会った時に、慈愛の心を起こし、優しい言葉をかけ、暴言や悪言を用いず、徳があれば誉め、徳の無い人には哀れみ深くすること」であり、「愛語」は「愛心より起こり、愛心は慈愛から生まれる」というのだ。「慈愛の心」が発する「愛語」を尊ぶ精神である。

良寛はこうした2つの心情を自分の行動の本分とし、そうであるよう心掛けていたのだ。このことは彼が書き残した多くの「戒語」にもつぶさに反映されている。

先に述べた「甘え」も「自尊心」も、この2つの心情を基にし、関係する人々との相互作用で培われ育つのだと思う。

### 終わりに

良寛は寡黙の人であったというが、書や詩歌では能弁であった。同様に孤独な人ではなく、自他の健康に対しても積極的であった。

他者に慈しみと同情の心で接し、今何ができるかを考え、それに向けて全力を尽くすことを心掛けた。言葉を大事に使い、幅広い教養を身につけ、少数であれ、自分を理解してくれる人のいることを信じ、甘えることを厭わなかった。

こうした配慮と行動が、良寛の心身が健康であるために作用し、過酷な状況下でも長命を保させたのだ、といえるのだろう。

1828（文政11）年良寛71歳の時に、新潟の現在の三条

市に大地震が起きた。その時の与板・山田杜臯宛の見舞状に次のように書く。

「うちつけに死なば死なずてながらへて かかる憂き目を見るがわびしさ

しかし災難に逢ふ時節には災難に逢ふがよく候 死ぬ時節には死ぬが良く候 是ハこれ災難を逃るゝ妙法にて候」

一方解良叔問への手紙には、次のように心身両面へ配慮した行き届いた文面がある。

「御息も江戸へ発足被遊候由 時節がら御案じ可被遊候 さて御気分は如何候や 御治療被遊候にても可然候 酒食に御心付可被成候 物に届託せぬよふに可被成候

一つはとどこふり（心のとどこおり）かと思候へば 当年もわづかになり候ば 若菜摘むころ参上致 御清話可申上候 かしこ」

更に、良寛67歳の時の63歳由之への手紙に次のようなことを語りかけている。

「此あひの寒さいかゝ候（と）おもひ候処 便承安心 いたし候 力つくるまでは御用心可被遊候（後略）」

このような手紙に代表されるように、健康について心身両方に目を向けること。そして力尽きるまで、即ち命尽きるまで用心した上で、運命を受け入れること。

これが良寛の生涯を心身医学的に考察した上での良寛に学んだ私の結論である。

### 主たる参考文献

- 東郷豊治編著. 良寛全集 下巻. 東京創元社, 1959
- 谷川敏朗編. 良寛の書簡集. 恒文社, 1988
- 櫻井浩治. 乞食の歌—慈愛と行動の人良寛. 考古堂書店, 2006

## Summary

I analyzed the lifetime of the Zen priest Ryoukan (1758-1834) at the end the Edo era from the standpoint of psychosomatic medicine.

Ryoukan was attentive to health management and therapy of the body, and he avoided mental stress through practicing overreliance, self-respect and free self-expression. I determined that Ryoukan had compassion and affection as a background, thereby being able to avoid mental stress.

Furthermore, I mention that Ryoukan was an active fatalist with the view of health as seen from the unity of mind and body.

## 「たなべや薬」は島津義弘の秘薬か？処方・効能に基づく考察

乾 俊秀<sup>\*1</sup>, 松本佑子<sup>\*1</sup>Is “Tanabeya Medicine” a Secret Elixir of Yoshihiro Shimadzu?  
—Consideration Based on Formulation and Efficacy—Toshihide Inui<sup>\*1</sup> and Yuko Matsumoto<sup>\*1</sup>

(Accepted March 2, 2019)

## I. 緒 論

田辺三菱製薬の歴史は初代田邊屋五兵衛が1678(延宝6)年、大坂土佐堀一丁目の地で振出薬「たなべや薬」の調査販売の店舗を構えたことに始まるとされる<sup>1)</sup>。以降、薬種中買(現代用語では「仲買」が一般的だが、「道修町文書」の表記に従った。)仲間に加わるため道修町へと場所を移したものの、江戸時代を通じ明治中期に至るまで「たなべや薬」の販売を続けていた。同社には明治15年大阪府知事宛てに出した売薬営業鑑札の更新を願う書類が残されており、そこには「たなべや薬」の用法・効能および詳細な処方記載されている。さらに近年、大坂・堺の豪商、田邊屋道興が島津義弘より関ヶ原合戦後の退却を支援した礼として賜った島津家秘伝の薬方につき、興味深い記述が残されていることが明らかとなった<sup>2)</sup>。これら文書の対比および関連史料の検討により、「たなべや薬」が有名な島津退き口への貢献により田邊屋が授かった島津家秘伝の薬方に由来するとの検証を試みる。

## II. 史料の個別検討(方法および結果)

## 1. 「たなべや薬」の販売実態

創業当初から田邊屋の店先に出されていたと伝わる軒下看板(図1:田辺三菱製薬史料館)には、商品として「たなべや薬」と大書してあり、その脇には「第一さんぜんさんご打身によし」と効能が記載されている。初代田邊屋五

兵衛の商売実績については、その遺産分与に係わる複数の記録文書から知ることができる<sup>3,4)</sup>。すなわち、自身が家守を務めた土佐堀一丁目の借店(上田三郎左衛門所有)で薬種商を営み、1717(享保2)年72歳で隠居したが、店の商品や家財・屋敷を除いて都合2,000両(米価換算で1.5~2億円)以上の遺産を遺している。「たなべや薬」の調査販売を主な家業として、分家創業から一代で、安定して代々薬商を続けることができる蓄えを作ったといえる。

2代目五兵衛は先代から引継いだ店と同じ町内(土佐堀一丁目)に表口6間、裏行23間という立派な家屋を購入し家持となっている<sup>5)</sup>。また、2代目五兵衛は初代五兵衛の縁者である田邊屋妙寿の遺産相続に当たって、一時その財産を保管するなど手続き全般を差配している<sup>6)</sup>。後述の通り、土佐堀周辺には田邊屋妙寿など田邊屋の屋号で「たなべや薬」を商う店が複数存在したが、五兵衛はその中で中心的役割を果たしていたと判断される。

これらの「たなべや薬」を商っていた田邊屋については、江戸時代に刊行された大坂の買物案内に紹介されている。1748(延享5)年の改正増補難波丸綱目<sup>7)</sup>に「打身薬ならびに産後産前」として「江戸堀田邊屋橋筋 黒川大和大掾、田邊屋妙寿、田邊屋庄兵衛」の記載がある。「黒川大和大掾」とは初代五兵衛が朝廷御用を務めたことで賜った称号であり、五兵衛の田邊屋を指している。それを示す衝立看板(図2:田辺三菱製薬史料館)が残されている。所在地が江戸堀(土佐堀の南に隣接)とあるのは、3つの店舗を一括し

キーワード: たなべや薬, 処方, 島津義弘, 田邊屋道興, 山田流振薬

<sup>\*1</sup> 田辺三菱製薬株式会社 広報部史料館担当 *Mitsubishi Tanabe Pharma Historical Museum. Communication Department. Mitsubishi Tanabe Pharma Corporation. 3-2-10 Doshomachi, Chuo-ku, Osaka 541-8505.*



図 1 たなべや薬の軒下看板



図 2 黒川大和太掾の衝立看板

て表記する必要からであろう。

時代は下り 1832 (天保 3) 年発行の商人買物獨案内後編<sup>8)</sup>には、江戸堀三丁目の田邊屋妙寿・四郎右エ門の店と田邊屋妙寿・勝九郎の店が産前産後、打身などに効果があるとして「たなべや薬」の広告を載せている。妙寿・四郎右エ門の店は中国屋敷 (長州藩蔵屋敷) 西隣、妙寿・勝九郎の店は阿波殿橋北西南とあるので、江戸堀川北岸で現在のなにお筋の東西にあったようである。また、妙寿・四郎右エ門の店では「元和年中より売来り」と江戸初期、大坂の陣の直後から販売していたことを謳っている。

いわゆる道修町文書で明らかのように、この頃には田邊屋五兵衛は道修町に店を構え、薬種中買仲間への加盟を果たしている。しかし、「たなべや薬」の製造販売は場所を移しても続けており、1820 (文政 3) 年発行の商人買物獨案内<sup>9)</sup> および 1879 (明治 12) 年発行の浪花諸商独案内<sup>10)</sup> にそれを示す記載がある。

なお、「たなべや薬」がどの程度庶民に浸透していたのかを示す資料として、「大阪市中売薬店数望 (すもう)」と題された 1816 (文化 13) 年の印刷物、大坂の売薬の番付表がある。それによると、田邊屋薬は約 180 ある市中の売薬の中で東前頭 11 枚目に位置付けられている<sup>11)</sup>。

## 2. 「たなべや薬」の処方

五兵衛の田邊屋が「たなべや薬」の処方を文書として残しているのは、唯一 1882 (明治 15) 年 3 月 29 日付で大阪府知事の認可を受けた売薬営業鑑札出願書類のみである (図 3)。これによると、表 1 に示す 17 種の生薬を各分量

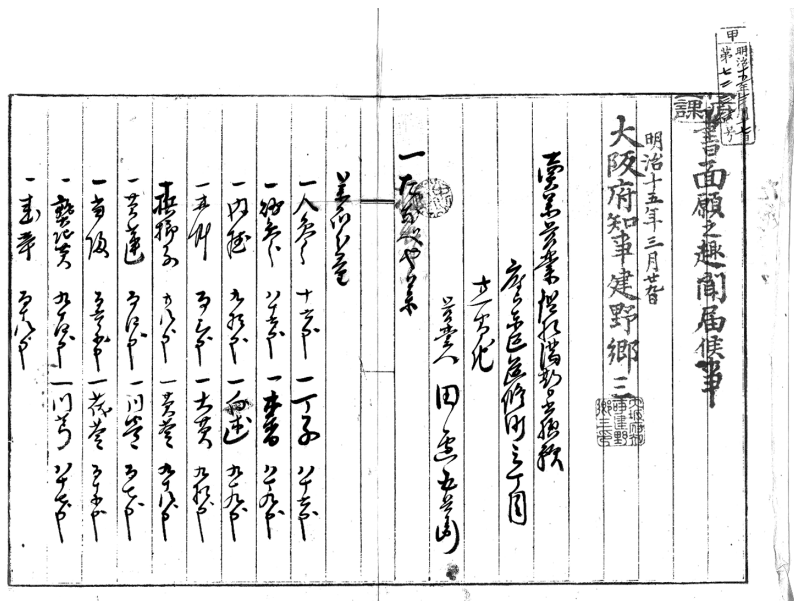


図 3 「たなべや薬」の売薬営業鑑札出願書類 (明治 15 年)

表 1 「たなべや薬」の配合生薬とその分量  
(明治 15 年の営業鑑札許可願より)

人参	○	16 匁	丁子	△	86 匁
沙参		86 匁	木香	○	89 匁
肉桂	○	90 匁	白朮	○	99 匁
甘草	○	103 匁	大黄	△	90 匁
檳榔子	△	28 匁	黄芩	△	98 匁
黄蓮	○	104 匁	川骨	○	107 匁
当帰	○	165 匁	茯苓		115 匁
熟地黄		94 匁	川芎	○	87 匁
圭辛	○	118 匁	( 計 1,575 匁)		

(○：山田流内薬基本形 △：山田流加味方 宗田氏論文<sup>23)</sup>による)

で調合し、この全量を 1,573 服に分け 2 服を 1 包とするとある。

1 包を 1 日量とし、布の袋に入れて白湯で煮出して飲み、主治効能は「産前産后、目まい、立ぐらみ、手足時どき痛む打身、婦人血ノ道、男女トモ上気、萬毒虫ノさし痛む、のぼせ頭痛によし(但、さし合、阿ふらけのもの)」とある。

配合されていた生薬は現在も漢方生薬として汎用されており、いずれも然るべき効能の認められるものである。「圭辛」は生薬名として他の資料で確認できなかったが、読みが共通する桂心(枝)を指すと思われる。「沙参」は江戸時代に道修町の薬種商でも薬草学の教本となっていた新校本草綱目(稲生若水編集)の記述に照らし、現在における我国の用例と同じく南沙参(キキョウ科のツリガネニンジン)であったと判断された。

また、田邊屋が書き残したものではないが、大坂の医者三宅意安が 1758(宝暦 8)年に記したとされる「延寿和方彙函」(1867 年書写)に「田邊屋振出薬」として「たなべや薬」の処方・効能の記述がある<sup>12)</sup>。効能は「打撲、折傷、疼痛、血脱或いは産後血暈、児枕痛、悪露上攻、胞衣不下を治す」とされ、処方是人参、川芎、地黄、萍蓬(川骨)、良姜、肉桂、黄芩、丁子、当帰、桂枝、甘草を等量(甘草は半量)、荒い粉末として熱湯で振出して服すとある。意安はこの処方を何人が作ったかは不明としているが、世に山田振薬と呼ばれているものに類すると判断している。なお、1793(寛政 5)年写本(1982 年大阪府立図書館で写しを入手;美しい仕上げで表紙および全頁小口に九思堂と表記があるため、販売あるいは公開目的で作製されたと推測される)でも、田邊屋振出薬に関する記述は全く同じであった。

### 3. (今井家) 由緒書：田邊屋道與が賜った島津の薬方 大坂・堺の豪商田邊屋道與が関ヶ原合戦を逃れた島津義

弘を屋敷に匿い、義弘の堺出帆と大坂で人質となっていた奥方達の救出を支援したことは、義弘に同行した島津家臣団の覚書や後世に島津藩などが纏めた公式記録により明らかにされている<sup>13~15)</sup>。しかし、島津家文書の中には道與が義弘支援の礼として島津家の薬方を賜ったという記録は見当たらない。

公開資料で唯一、道與が島津家の秘薬を伝授されたとの記述を認めるのは、相国寺 104 世の乾崖梵竺に関する記録文書である。乾崖梵竺は道與の曾孫に当たり、「相国寺史稿」の 1 つ「列刹機縁并目子」(慈照寺蔵)の「乾崖和尚開堂目子」と題される文書に「故慶長五年、於關原戰場爲盡至功、褒之祿之、欲及其功於無窮、居士固辭而不受、唯求授家秘神薬二方、公不獲默止、雖家傳之密方、自寫一卷附之」と曾祖父の道與に関する記述がある<sup>16)</sup>。すなわち、関ヶ原合戦で絶大な功のあった道與は褒祿を固辞し、ただ島津家秘伝の薬方の伝授を求めた。そこで、義弘公は自ら家伝の秘薬二方を一卷に書き写して与えたというのである。また、昭和初期に編集された「萬年山聯芳録」<sup>17)</sup>には薩摩藩と林光院(乾崖梵竺)の係わりが纏められており、義弘が 1605(慶長 10)年 9 月に道與の求めに応じて製薬の秘方を伝授したとの記述がある。

本題の(今井家)由緒書であるが、これは薩摩藩が相国寺の義弘像を国元へ引き取った際に道與の後裔として褒賞を与えた田邊屋彌佑<sup>18)</sup>の子孫の家(今井家、八尾市・大阪)に残されていたもので、先の相国寺史料の内容がより詳細に記載されている。誰が/いつ/何の目的で作成したかの記述はないが、図 4 に示すように関ヶ原以降の道與と義弘の親交を 73 行に渡り列举し「道与果て千五良在京……依って寿像林光院に遷座」と結ばれているので、乾崖梵竺が道與の賜った義弘像を相国寺林光院に納めた際に、その由来を記録したものと考えられる。

道與が賜った薬方二方についても触れており、その部分を図 5 に示す。意識すると、「御家に秘密の底薬と催生薬を伝授された。両方の名薬、(底薬は)筋切れ骨折が三年を経て治らないものはなく、催生は婦人の老若に拘らず横産逆産も平産にならないものはない、古今無双の聖方である。御親戚にも秘していたが、感激の余りこの二方を一卷に写し奥書、署名、御判まで押され慶長十年九月十九日御相伝」となる。すなわち、道與が関ヶ原退却を支援した礼として島津義弘より 2 つの薬方を伝授され、それぞれ筋切れ骨折の回復に効果のあるものと逆子など胎児の位置異常を直すものだったということである。

また、この由緒書には島津兵庫入道(義弘)が田邊屋道

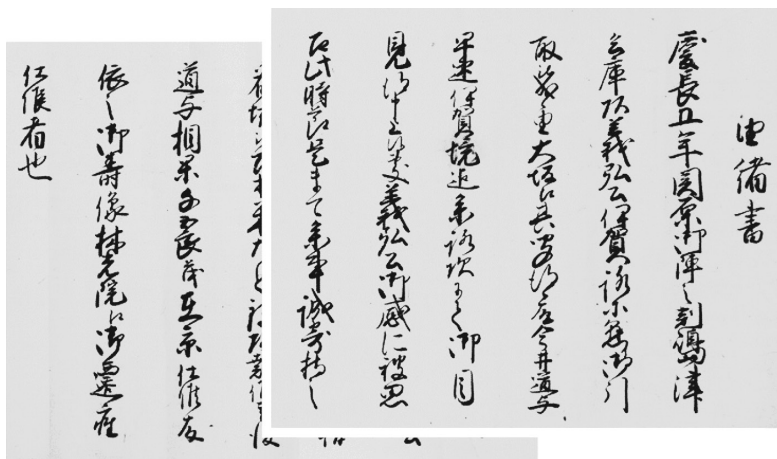


図 4 (今井家) 由緒書

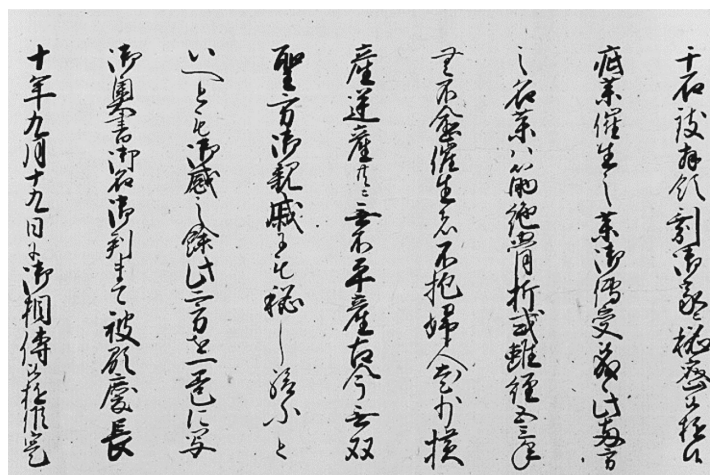


図 5 (今井家) 由緒書：薬方に関する記述

與に宛て、「右薬方、頻りの懇望により授与する。努めて他見あるまじきもの也」と記した慶長十年九月十九日付の奥書(写し)も添えられている(図6)。残念ながら、当の薬方を記載した書付は存在せず、由緒書にも処方内容の記載はない。

### III. 考 察

現在に残されている「たなべや薬」の処方から、これが関ヶ原合戦時の功績により島津義弘から伝授された秘伝の薬方に由来すると判断できるか?というのが本稿の主題である。ただ、予め確認しておかなければならない点がいくつかある。1つは、江戸初期の田邊屋創業以来200年以上の歴史を持つ「たなべや薬」の処方を、その終末期の明治15年の営業鑑札出願書類で特定して良いか、その間に処方の変更はなかったのかである。また、田邊屋道與と初代

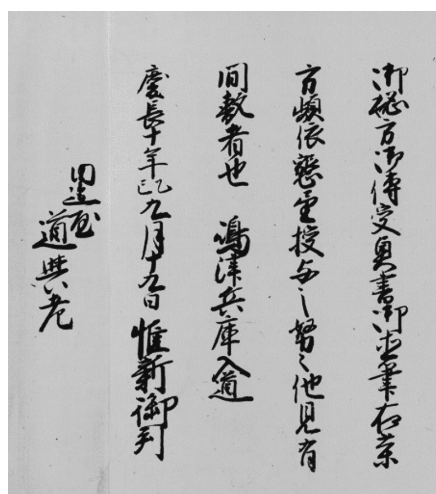


図 6 島津義弘の薬方伝授奥書(書写)

田邊屋五兵衛の繋がりがどこまで明らかになっているかも、大きな要素になる。そもそも、五兵衛が道興の直系の子孫であれば、家業の基盤ともいえる薬方を受け継いでいるのは当然で、疑問の余地はなくなる。

明治15年に田邊五兵衛商店が使用した処方（営業鑑札出願書類）を、200年以上販売を続けてきた「たなべや薬」の処方の特定しているとして、島津義弘から伝授された処方と比較することは、結論からいうと問題はない筈である。一般に「葛根湯」「八味地黄丸」など銘を持つ漢方処方、原典に記載されて以来、同じ調合が守られている。一部の調合薬を変更して変方を考案した場合は、新たな名称が付けられる。和方の扱ひも同様で、三宅意安の「延寿和方彙函」は田邊屋振出薬を含む115の和方（漢方の変方を含む）を収録し、江戸末期まで写本等を通じて多くの医師がこれを利用したようである。薬方は本と共に生き続け、同書に記載された音應丸の処方等は現在に至ってもほぼ同じ処方です販されている。

五兵衛の田邊屋は初代五兵衛の時代に黒川大和太掾の称号を頂き、この名称で看板を上げている。「たなべや薬」も処方薬として高い評価を受け、最高権威のお墨付きを得たことになるため、看板を守る意味でも田邊屋がその調合（処方）を内々に変更したとは考え難い。仮に若干の変更を加えていたとしても、それは当初あった義弘秘伝の薬方との関連性を薄めた筈で、明治期の処方に義弘の秘薬との関連性が認められれば、それは初代五兵衛が販売を開始した時から存在したと考えられる。

現在、初代田邊屋五兵衛が田邊屋道興の直系の子孫であることを直接証明する史料は残っていない。ただし、道興と朱印船貿易に名を残す田邊屋又左衛門は、関ヶ原合戦の翌年正月は年賀のために<sup>19)</sup>、道興が薬方を賜った慶長十年九月は朱印船貿易のために<sup>20)</sup>、共に薩摩で行動を共にしていた可能性が高い。活動期の年齢から、道興の後継者が又左衛門だったと推測される。また、田邊屋又左衛門は土佐堀一丁目に大きな屋敷を構えていたとされ、その場所から中之島に架かる橋は当時田邊屋橋と呼ばれていた<sup>21,22)</sup>。鎖国により貿易家としての将来を閉ざされた又左衛門の縁者が、その地で又左衛門の蓄えを基に薬商に転じ、「たなべや薬」を販売した一統の田邊屋を興したと考えられる。手元に道興が遺した島津義弘の秘伝の薬方があったとすれば、当然の帰結であろう。初代田邊屋五兵衛の家系の詳細な検討は別の機会に譲るが、他にも道興と五兵衛の血縁を示唆する史料があり、五兵衛が道興の曾孫である可能性が高い。さらに本稿で「たなべや薬」が義弘の薬方に由来す

ると証明できれば、五兵衛が道興の直系の子孫とする有力な根拠となる。薬方の繋がりと家系の繋がりは表裏一体で、いずれか一方が証明できれば相互に補強し合うことになり、本報で薬方上の関連を明らかにする意義は大きい。

さて、「たなべや薬」の処方を検討する。三宅意安がいみじくも「延寿和方彙函」で記載した通り、「たなべや薬」は山田流振薬の流れをくむものと見做された。山田流振薬の成り立ちと派生については、元日本薬史学会幹事の宗田一氏が論文に纏めている<sup>23)</sup>。源流は定かではないが、古くは1574（天正2）年尼子流「三子集」に載る「濃州山田流振薬」を初めとした、よく似た処方の薬方群がある。吉益流安楽湯、金瘡善鬼流内薬、伴越前流黄芩湯、竜王湯などで、その基本になるのが山田流振薬ということである。山田流相伝書によると、処方は人参、川芎、木香、肉桂、桂心（枝）、川骨、当帰、白朮、黄蓮、甘草の10薬種を内薬基本形とし、症状に応じて大黄、巴豆、黄芩、前胡、柴胡、檳榔子、丁子の加味方を加減するとある。

明治15年の「たなべや薬」の処方はこの内薬基本形10薬種を全て含み、同じく山田流加味方の大黄、黄芩、丁子、檳榔子を加えたものであった。その他の加味方として熟地黄、茯苓、沙参が加わるが、正に山田流振薬の流れに沿ったものである。山田流振薬は戦国武将の三好、松永の戦時携帯薬であったともいわれ、各派の金瘡医（戦傷とそれに付随する病気を対象とした）が手負いおよびそれが転じた出産の失血に用いる妙薬として記録している。加味方として加えられた丁子、檳榔子は、山田流相伝書や尼子流で筋切れに効果があるとされている。金瘡医術に造詣の深かった義弘は進んでこのような書物を手に入れ、その情報を家伝の薬方に取り入れていたのではないか。

（今井家）由緒書に道興が義弘から伝授されたと記載される2つの薬方、「痲薬」と「催生」もそうした家伝の薬方の一部と思われる。「痲薬」は筋切れ、骨折の薬で書物の記述に従い丁子および檳榔子が調合され、「催生」は横産、逆産を直すために大黄が調合されたのではないか。大黄には子宮収縮作用があることが知られており、一般的に妊婦には禁忌とされている。当時そのような知識はなかったであろうが、義弘は経験から知っていたのではないか。「催生」の効能および誕生を促すという意味の名前は、ぴったりと当て嵌まる。すなわち、明治15年に田邊五兵衛商店が用いた「たなべや薬」の処方は、島津義弘が当時得られた金瘡医術の知識で処方した薬として妥当なものであり、なおかつ由緒書の記述にも合致している。

「催生」「疵薬」という二薬方を合わせ「たなべや薬」としたことは、看板に記された産前産後、打身という一見関連なさそうな2つの効能から推察できるが、元々別の薬方を合わせて1つの売薬としたのは何故か。理由は定かでないが、「たなべや薬」が発売された1600年代後半は我国売薬の黎明期（本格化は幕府が奨励した享保年間以降）にあり、田邊屋は商いし易い方法を採用したと思われる。競合する売薬が少ないため品数を増やす必要はなく、庶民には幅広い効果を持つ方がよい薬と捉えられたのではないか。

「延寿和方彙函」に記載された処方、実際に田邊屋が使用した処方と少なからぬ差があるのは何故か。三宅意安がどのようにして調べたか不明だが、入手した「たなべや薬」を目視で調べても調合薬種の分量までは分からないだろう。おそらく店の者や薬を利用した者の話を総合して記述されたと思われるが、効能が具体的に詳細なものに対し、処方では粗雑な印象を受ける。道與は義弘から決して薬方を余所には漏らしてはならないと言われている。一般的に考えても薬商が看板商品の処方を口外する筈はなく、薬方の由来も不明としているので、田邊屋が差し支えないと判断して提供した不十分な情報を基に記述したと判断される。意安の記述では、「たなべや薬」の薬効を特徴付けると思われる檳榔子、大黃が抜けているのは単なる偶然だろうか。

初代五兵衛が創業から一代で大和掾の称号を得られたというのも稀有なことである。あるいは、島津家と関係の深かった五撰家の一つ、近衛家を通じて働き掛けがあったのではないか。また、初代五兵衛の縁者である妙寿の遺産相続文書に、相続対象の1つとして「状箱一ツ内に薬の方入り」とある。厳重に取り扱われているので、これこそ島津義弘が自ら書き写したという薬方だったのかも知れない。ただし、いずれも想像の域を出るものではない。

#### IV. 結 論

「たなべや薬」の処方は山田流振薬の流れをくむものであった。すなわち、内薬基本形とされる10薬種を全て含み、さらに同流加味方の丁子、檳榔子、大黃、他が加えられていた。山田流振薬は戦国時代から多くの金瘡医に利用され、相伝書等により広まっていた。金瘡医術を活用した島津義弘もこれを取り入れ、自身の経験も交えて丁子、檳榔子を加えた筋切れ骨折の薬、大黃を加えた出産の薬等、症状に合わせた秘伝の薬方を作っていたと思われる。田邊屋道與が関ヶ原合戦の功績により義弘から伝授されたと記録される2つの薬方、「疵薬」「催生」は正にこのような薬方であり、処方および効能が整合していることから「たなべや薬」

が島津家秘伝の薬方に由来する可能性は高いと判断された。

#### 利益相反

開示すべき利益相反はない。

#### 参 考 文 献

- 1) 田辺製薬株式会社編. 田辺製薬三百五年史. 田辺製薬株式会社, 1983. p.3
- 2) (今井家) 由緒書. 個人蔵. 推定1710年頃作成. 本報Ⅱ-3項
- 3) 掛目安表書. 田辺三菱製薬史料館蔵, 1722
- 4) 田辺製薬株式会社編. 田辺製薬三百五年史. 田辺製薬株式会社, 1983. p.13
- 5) 永代賣渡申家屋敷之事. 田辺三菱製薬史料館蔵, 1726. 田辺製薬三百五年史, 1983. p.14
- 6) 一札之事. 覚:妙寿跡式. 田辺三菱製薬史料館蔵, 1737 (推定)
- 7) 志田垣与助撰. 改正増補難波丸綱目下之二. 浪華・渋川与市等5書店, 1748. 早稲田大学図書館蔵書. [http://archive.wul.waseda.ac.jp/kosho/ru04/ru04\\_03769/ru04\\_03769\\_0004/ru04\\_03769\\_0004\\_p0022.jpg](http://archive.wul.waseda.ac.jp/kosho/ru04/ru04_03769/ru04_03769_0004/ru04_03769_0004_p0022.jpg) (accessed 8 May 2018)
- 8) 商人買物獨案内後編. 浪華・中川五良兵衛等5書店, 他, 1832
- 9) 商人買物獨案内. 浪華・中川五良兵衛等5書店, 1820
- 10) 杉岡政治編. 浪花諸商独案内. 大阪・杉岡政治, 1879. 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/view/jpegOutput?itemId=info%3Aandljp%2Fpid%2F803735&contentNo=37&outputScale=4> (accessed 9 May 2018)
- 11) 田辺製薬株式会社編. 田辺製薬三百五年史. 田辺製薬株式会社, 1983. p.26
- 12) 三宅意安. 『田邊屋振出薬』. In: 三宅意安 (編). 延寿和方彙函2巻. 1758(1867年書写). 京都大学貴重資料デジタルアーカイブ. <https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00001328#?c=0&m=0&s=0&cv=17&r=0&xywh=-1906%2C-1%2C9827%2C4016> (accessed 3 May 2018)
- 13) 『伊地知増也贈于三原九兵衛一卷』 島津兵庫頭歸國之事. In: 鹿児島県維新史料編纂所(編). 鹿児島県史料旧記雑録後編3. 鹿児島県, 1983. p.660-1
- 14) 『今井市兵衛入道松閑願書』. In: 鹿児島県維新史料編纂所(編). 鹿児島県史料旧記雑録後編3. 鹿児島県, 1983. p.662-3
- 15) 『島津兵庫頭義弘関原陣始終大概之記』. In: 北川鉄三(校注). 戦国史料叢書第2期第6島津史料集. 人物往来社, 1966. p.327-39
- 16) 『乾崖和尚開堂目子』. In: 相国寺史料編纂委員会(編). 相国寺史料第4巻(相国寺史稿4). 思文閣出版, 1988. p.151-2
- 17) 『萬年山聯芳録; 第六世乾崖梵竺』. In: 相国寺史料編纂委員会(編). 相国寺史料別巻(万年山聯芳録). 思文閣出版, 1997. p.90-1
- 18) 『(二五八) 今井道與』. In: 堺市役所(編). 堺市史第7巻別編. 堺市役所, 1930. p.386-8
- 19) 上井経兼. 『経兼日記』. In: 鹿児島市史編さん委員会(編).



- 鹿児島市史第3巻, 鹿児島市, 1971. p.298-306
- 20) 金地院崇伝. 『異國御朱印帳』. In: 異国叢書第10巻, 駿南社, 1931. p.273-309
- 21) 明暦元年大坂三郷町絵図: 大阪歴史博物館所蔵. 大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター, 大阪歴史博物館(編). 大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター, 2008. p.18
- 22) 新板撰津大坂東西南北町嶋之図. 岡山県立図書館電子図書館システム. <http://digioka.libnet.pref.okayama.jp/detail-jp/id/kyo/M2004092521514541993> (accessed 3 May 2018)
- 23) 宗田 一. 日本の売薬 (152), 山田流振薬 (振出し) 考. 医薬ジャーナル. 1989; 25 (9): 233-7

### Summary

Tanabeya Medicine, a herbal medicine to treat bleeding at the time of childbirth, as well as to treat bruises, was sold in the Tanabeya Store for over 200 years, since its establishment until the middle of the Meiji Era. We compare formulations and indications, and discuss whether or not this medicine was one of the special elixirs introduced by Yoshihiro Shimadzu as a result of his contributions to the Battle of Sekigahara. The Imai Family's ancestry letter, in which records show a close relation between Doyo Tanabeya and Yoshihiro Shimadzu, mentions that Yoshihiro initiated Doyo into two elixir formulations: a medicine for wounds such as rupturing of the muscle and fractures, and a medicine for malposition childbearing. The formulation of Tanabeya Medicine was listed in the application letter for a business license issued in 1882. This paralleled that of Yamada-ryu (Yamada School) Decoction, a medicine for wounds acquired during battle, as recorded by some war medicine doctors during the Warring States Period, and for bleeding at the time of childbirth. That is, Tanabeya Medicine was primarily composed of 10 basic ingredients found in Yamada-ryu Decoction plus the addition of cloves, areca nuts and rhubarb, for which the oxytocic action had an effect on muscle and tendon ruptures. The indications of the medicine are consistent with the content of the Imai Family's ancestry letter. Given that Yoshihiro Shimadzu had a rich knowledge of war medicine, the results suggest that Tanabeya Medicine seems likely to be a special elixir of the Shimadzu Family initiated by Yoshihiro Shimadzu.

Key words : Tanabeya Medicine, Drug formulation, Yoshihiro Shimadzu, Doyo Tanabeya, Yamada-ryu Decoction

## 文献資料と現地調査によるサフラン栽培法の変遷検証：竹田式栽培法の特質

高浦（島田）佳代子<sup>\*1,\*2</sup>，高橋京子<sup>\*1,\*2</sup>，渡部親雄<sup>\*3</sup>Development and Benefits of Saffron Cultivation Methods Invented in Taketa City  
—Investigation through literature and field studyKayoko Shimada-Takaura<sup>\*1,\*2</sup>, Kyoko Takahashi<sup>\*1,\*2</sup> and Chikao Watanabe<sup>\*3</sup>

(Accepted May 13, 2019)

## 1. 背 景

アヤメ科のサフラン *Crocus sativus* L. の雌蕊は、古来、香辛料として珍重されるとともに、日本薬局方の初版から収載されている生薬である。サフランは加工の煩雑さから高値で取引され、経済性の高い農作物であるが、現在は国内消費量の大半が輸入で賄われており、2017年の財務省貿易統計では1,779kgのサフランが輸入され、そのほとんどをスペイン産とイラン産が占めている<sup>1)</sup>。

一方、日本国内でもわずかに栽培が行われており、その8割以上を産出しているとされるのが大分県竹田市である。竹田市では、諸外国で一般的に行われている露地栽培ではなく、日本独自の手法である室内栽培（竹田式）が行われてきた。日本では、1886年頃、神奈川県の添田辰五郎氏がサフラン栽培を開始し、1903年に吉良文平氏が大分県竹田市の玉来地区に種苗を導入、その後竹田式を考案し、実践したとされる<sup>2,3)</sup>。天候に左右されず、かつ採取作業が容易で生産効率の高い本手法により高品質のサフランを供給してきたが、現在では農業従事者の高齢化や減少、また国産品に比べて安価な輸入サフランの流入により、一時期は500kg近くあった生産量が近年では30kg以下に激減している<sup>2)</sup>。地域の農業活性化や失われつつある農業技術の継承が喫緊の課題である。

そこで、本研究では、サフラン栽培法に関する文献の網羅的調査を行った。文献に記述された栽培方法の変遷から日本におけるサフラン栽培の歴史を検証するとともに、竹田式の特徴とその利点を考察した。また、現地にて公文書等の資料調査を行うとともに、篤農家への聞き取り調査を継続して行い、地域における竹田式の形成について検討した。

## 2. 方 法

国立国会図書館デジタルコレクション掲載の明治期以降の文献、並びに昭和期以降の学術論文・データベースからサフランの栽培方法の記述を含む文献を網羅的に抽出した。さらに、記載されている栽培方法・技術の詳細な記録の解析を行った。

また、大分県立先哲史料館、大分県公文書館、竹田市立歴史資料館、竹田市農政課、大分県農業協同組合豊肥事業部において大分県地方史研究資料収集および取材調査を実施し、竹田式の開発・伝播の経緯を検証した。また、竹田市玉来地区のサフラン栽培篤農家である渡部親雄氏に2015年11月以降、竹田式の歴史や現在の栽培方法等につき2018年度まで継続的に聞き取り調査を行った。

キーワード：サフラン、竹田式栽培法、篤農家、現地調査

<sup>\*1</sup> 大阪大学総合学術博物館 The Museum of Osaka University. 1-13 Machikaneyama-cho, Toyonaka, Osaka 560-0043.

<sup>\*2</sup> 大阪大学大学院薬学研究科 Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Osaka University. 1-6 Yamadaoka, Suita, Osaka 565-0871.

<sup>\*3</sup> 大分県竹田市サフラン生産者 Saffron Producer of Taketa, Oita. Taketa, Oita.

### 3. 結果と考察

#### 3.1 サフラン栽培法記述の歴史検証

対象とした資料群より、サフラン栽培方法記述の悉皆調査を行った結果、1904～2015年刊行の文献39件に当該記述を発見・抽出した。著者・編者の背景は、薬草・栽培研究会、農学関係者、医薬学関係者や公的機関・省庁等と広範囲にわたっていた(表1)。サフランは食品としても用いられるが、今回調査した39件全てにおいて薬用としてのサフランについての記述があり、薬用に資するサフラン生産に重きを置いた資料が大部分を占めた。このため、後述のように高品質なサフラン生産を志向した詳細な記述を多く抽出することができた。

サフランは最終的に雌蕊部分のみを利用するが、その収穫の方法については、「此の際花瓣もろとも摘で仕舞ふと茎葉の発育を妨げて球根の繁殖力を弱めるといふ嫌がある」<sup>12)</sup>「従来は花の儘摘み取りて後夜業等に雌蕊を撰り分くる栽培者多かりしも斯くすれば必ず多少雄蕊の花粉を附着すべく亦花瓣の為に成分香氣等を吸収せらるる虞あり」<sup>18)</sup>等の理由から1925年頃までは摘花をせず畑で直接収穫することが推奨されていた。しかしそれ以降では「雌蕊のみ摘み来る如く説く人もあるが此くは圃場で非常に手間取り尚ほ且つ雨天又は夜間に行ふ訳には行きませんから」<sup>25)</sup>「今回の採取に當り既に採蕊を終れる花と然らざるものとの判別容易ならざるの不利あり且天候等の事情により迅速に収穫を終らざる可らざるが如き如合殊に大面積の栽培には行ひ難し」<sup>31)</sup>の記述に表れるように作業効率を重視し、摘花した後、屋内で収穫するとの記述が主流となる。また、収穫の時期については、「其二日目ノ花ヲ採取スルハ三日目ノ者ヨリ光沢、香氣ニ於テ優ルガ為ナリ、開花日ノ雌蕊ハ直立シテ見分ケ難ク又収穫量少ナキヲ以テ収穫スベカラズ」<sup>8)</sup>「開花当日採取せるものは重量に不利あり(中略)開花の翌日のものは前者より稍日方増加するものにして三日目に到り全く雌蕊の懸垂せるものは重量に於て二日目に増減なきものなり(中略)然るに一面其品質を比較するに開花当日の採取物最も品質良好にして二日目の採集物之に次ぎ品質前者のごとく良好ならざるもサフランとして十分の品位を失はず三日目の物に至りては品質頗る下等とす故に採取の適期は開花の翌日即二日目に摘蕊するを最も適当とす」<sup>18)</sup>などの記述が多く見られ、かつては収量の観点から開花2～3日目の収穫が推奨されていたが、現在は後述の花粉付着を避ける目的から、開花当日または開花直前の収穫が推奨されている<sup>39,42)</sup>。

また、サフランの品質を左右する作業工程について、「雄蕊ノ花粉ヲ附着スルヲ以テ品質ヲ損ス又雨上リ等ノ節ハ品質劣等ナルヲ以テ降雨ノ徴アレバ急ギテ取蕊スベシ」<sup>11)</sup>のように、雨天時の取蕊作業をあげている文献が28件(71.8%)、取蕊時の柱頭への花粉付着をあげている文献が21件(53.8%)見られ、これらの要因が経験的にサフラン品質を低下させると考えられていたことを明らかにした。この雨天時の作業や花粉付着を避けるべきとの記述は平成以降の文献にも散見され<sup>39,40,42)</sup>、現在に至るまでの共通認識であることがわかる。

さらに、加工・選別については「品質良好の品を得んとするには雌蕊の基脚部たる白色の部分を除く事必要にして」<sup>18)</sup>、「花柱の分岐点以下の黄色部分を多く着けたるもの或は花粉を附着するは不良なり」<sup>31)</sup>等、雌蕊基部の黄色・白色部位の除去が高品質性の獲得に必要なものとした資料が24件(61.5%)で見られた。現行の日本薬局方(第十七改正)においても、生薬としてのサフランの性状として、「花柱の黄色部10.0%以上を含まない」ことが純度試験の項に明記されており<sup>43)</sup>、これらの記述から、サフラン栽培方法については年代を経ることにより改良の痕跡が見られるが、品質保持の必要条件としては概ね明治初期より現代と同様の認識が存在していたことを示した。

#### 3.2 竹田式栽培法の利点

今回調査を行った資料について、特に1940年以前の資料では国内の主要サフラン栽培地として神奈川県、兵庫県、佐賀県、広島県などがあげられており、大分県に関する記述はほとんど見られない。昭和の初め頃、兵庫県氷上郡和田村(現:山南町)では薬用サフランが盛んに栽培(露地栽培)され、一時は生産量が全国の約8割を占めたとされている<sup>24,44)</sup>。寺院を中心に大規模栽培を開始し、明治43年には大阪衛生試験所より局方適合品の報告を得ているが<sup>25)</sup>、現在では産地として知られていない。球茎を腐敗させる病害が蔓延して数年でサフラン栽培が全滅したとされ、複数の文献にその旨が記載されていた<sup>31,35,44)</sup>。終戦後もサフラン栽培復興の動きがあったが、この時も約半数が腐敗している<sup>44)</sup>。また、日本におけるサフラン栽培導入の地ともされ、主産地であった神奈川県についても、同様の腐敗病の影響で栽培が減少していったとされる<sup>31)</sup>。このように、欧米諸国や導入直後の日本で行われていた露地栽培は大規模栽培が可能である一方、病害で全滅するリスクをはらんでいる。

今回調査を行った文献資料に記された栽培方法は大半が露地栽培に関するもので、竹田式(文献上は室内栽培、籠

表 1 明治期以降のサフラン栽培記述

文献	書名	発行年	著者	雨天時 <sup>a</sup>	花粉 <sup>b</sup>	採取時期 <sup>c</sup>			摘花 <sup>d</sup>	黄色部 <sup>e</sup>	露地/室内
						1日目	2日目	3日目			
1 (4)	薬用草木栽培法	1904	農学士 原田東一郎	—	—	—	—	—	—	—	
2 (5)	薬用サフラン栽培法	1911	伊藤寿男	○	○	—	◎	○	△	○	
3 (6)	薬用植物栽培及利用法	1911	宮下正男	○	○	—	◎	○	×	—	
4 (7)	培養詳説家庭の花弁果樹	1913	農学士 河南休男	—	○	—	○	○	—	—	
5 (8)	日本薬草採取栽培及利用法	1915	沖田秀秋著, 白井光太郎校閲	○	○	—	◎	○	×	○	
6 (9)	実用薬草栽培法	1916	川村九淵校訂, 薬草研究会編	○	○	—	○	○	—	○	
7 (10)	確實有利金儲策	1916	日下雍山	○	○	—	○	○	—	○	
8 (11)	薬用 サフラン培養法	1917	薬剤師 加藤忠左	○	○	—	◎	○	△	○	
9 (12)	薬草栽培と増収法	1917	農学士加藤孝三郎	—	○	—	○	○	×	—	
10 (13)	薬草売買取引法	1918	帝国薬草研究会	○	—	—	○	○	—	—	
11 (14)	重要薬草栽培と其販売法	1918	万代虎蔵	○	—	—	—	—	△	—	
12 (15)	一坪の庭で多く出来る薬草栽培の秘訣	1918	東京薬草栽培研究会	—	—	—	—	○	—	—	
13 (16)	農家副業 薬用植物栽培法	1919	農学士 岡村猪之助	○	○	—	◎	○	×	○	
14 (17)	薬草と毒草の図解	1919	竹生太一	○	—	—	○	○	△	—	
15 (18)	実地 薬用サフラン栽培法	1919	有賀正三	○	○	—	◎	○	×	○	露地
16 (19)	実験 薬用サフラン栽培法	1919	平川全篤	△	—	—	○	○	○	○	
17 (20)	知事や大臣の収入よりも多い実験栗の栽培	1920	田原郷造	○	○	—	○	×	×	—	
18 (21)	文化農村青年利殖策	1922	遠藤雨寛	—	○	—	◎	○	—	○	
19 (22)	薬草栽培法	1925	農業教育会	○	○	—	○	—	△	○	
20 (23)	農界四大富源	1925	蘇華山人	○	—	—	◎	○	—	○	
21 (24)	薬草サフラン栽培法	1926	田園学人	○	—	—	—	—	○	○	
22 (25)	収益増大 サフランと黄蓮の栽培	1926	中岡朝一	—	—	—	○	—	○	○	
23 (26)	田園趣味家庭園芸詳説	1926	植田善蔵	—	—	—	—	—	—	○	
24 (27)	家庭副業案内	1927	商店界社	○	○	—	○	—	○	○	
25 (28)	総合的農業経営と水田裏作	1931	新潟県農事試験場佐渡分場	○	○	—	—	—	○	○	
26 (29)	誰にも出来る薬草栽培と薬草療法	1934	家庭医学研究会	○	—	—	—	—	—	—	
27 (30)	さふらんノ栽培	1934	刈米達夫	—	○	○	○	—	○	○	
28 (31)	薬用植物栽培法	1937	刈米達夫	○	○	—	—	—	○	○	
29 (32)	薬草の利用と栽培法	1941	谷本亀次郎	○	—	—	—	—	—	—	
30 (33)	サフランの籠栽培に就いて	1944	末松正雄	○	—	—	—	—	○	—	室内
31 (34)	薬用サフランの栽培法	1950	高原良樹	○	○	○	○	—	○	—	露地
32 (35)	薬用植物栽培法 (4)	1950	神尾信治	△	—	○	—	—	○	○	露地 室内
33 (36)	薬用サフランの栽培	1951	田窪正雄	○	○	○	—	—	○	—	露地
34 (37)	新しい薬用植物栽培法	1970	日本公定書協会	○	—	◎	○	×	△	○	露地 室内
35 (38)	薬用植物栽培全科	1972	藤田早苗之助	○	—	◎	○	×	○	○	露地 室内
36 (39)	薬用植物 栽培と品質評価 Part 4	1995	厚生省薬務局	—	○	◎	○	×	—	○	室内
37 (40)	新しい薬用植物栽培法 採取・生薬調製	2002	佐竹元吉・飯田修・川原信夫	○	—	◎	○	×	△	○	露地 室内
38 (41)	株式会社栃本天海堂 創立60周年記念誌	2010	株式会社栃本天海堂	—	—	—	—	—	○	—	
39 (42)	大分県竹田市におけるサフラン栽培の調査報告	2015	渥美聡孝ら	—	○	開花直前	—	—	○	○	室内

<sup>a</sup>雨天時の品質劣化についての記述あり：○、一部：△、なし：—

<sup>b</sup>花粉付着による品質劣化についての記述あり：○、なし：—

<sup>c</sup>採取時期について最適と記述：◎、適当：○、採取可：△、不適：×、記述なし：—

<sup>d</sup>摘花後の収量について、適切と記述：○、可能：△、不適：×、記述なし：—

<sup>e</sup>黄色部 (又は白色部) の混入を避ける旨の記述あり：○、なし：—

栽培とも表記される)に関する記述の初出は1944年の末松らによる資料<sup>33)</sup>であった。これ以降、特に1950年代から60年代にかけて竹田式の栽培方法や露地栽培法との比較に関する研究結果が多く報告されている。黒谷らは、室内栽培の利点として①花を風雨から守れる②労力を集約できる③球茎の消毒が容易④芽かきにより小球茎の発生防止をあげている<sup>45)</sup>。また、1970年代の薬用植物栽培法関連書籍では、室内栽培と露地栽培を比較した上で、露地栽培の利点として①球根の増殖率が高く、一般に良球が得られ、②連続置き掘え栽培ができること、また室内栽培の利点としては①天候・時間に左右されず採花作業が能率的に行え、②土地の利用期間を短縮し、水田裏作として栽培が可能であり、③病害の発生が少なく、④植え付け前に側芽を摘むことで、分球することを防ぎやすいことなどをあげている<sup>37,38)</sup>。竹田式は、これらの利点を備えたことで、竹田市を随一のサフラン栽培地に押し上げたと考えられる。

吉良文平氏は後にも述べる通り、1910年前後に竹田式を考案・実践したとされるが、竹田式の文献初出は1944年<sup>33)</sup>である(表1)。実際、1961年の文献でも「室内栽培に関する文献は末松によるもののほか見当たらないようである」<sup>46)</sup>と記されており、竹田式が多くの利点を備えた栽培方法であるにもかかわらず、その詳細が活字化・周知されるまでに30年以上が経過していたことが明らかとなった。そこで、竹田市における栽培の歴史を検証するため、実地調査を行った。

### 3.3 大分県竹田市におけるサフラン栽培の歴史検証

大分県竹田市で実地調査を行い、竹田市農政課所蔵の吉良氏子孫の資料より、改めて吉良文平氏の足跡と竹田式開発の経緯を検証した。同課所蔵の1986年に吉良文平氏の孫、禎一氏が記した「吉良文平略伝」によると、吉良文平氏は1861(文久元年)年に誕生し、1882年に家督を相続した。その後、1889年には養蚕を開始している。1903年に、添田辰五郎氏から球根の分譲を受け、栽培を試みたが病害や枯死により数年で消滅してしまった。1906年、1907年には大量に球根を購入して栽培の研究に本格的に着手し、1908年には「帝国実益蜂起之原文」と題するパンフレットを作成し、サフラン栽培の啓蒙活動を行っている。さらにそこから数年後、たまたま植え残りの球根に花が咲いていたことから着想し、養蚕で使用した「バラ」を利用して竹田式を開始したという。このように、吉良文平氏は竹田式の開発者として知られ、その邸宅の庭先(当時)には「吉良文平翁頌徳碑」が建てられ、今でもその功績が顕彰されている。

竹田市農政課収蔵資料からは、さらに竹田のサフランや竹田式を取り上げた新聞や雑誌記事計13件を発見した(表2)。このうち、年代の判明している記事は12件で、1953年が4件、1954年が3件、1955年が2件、1964年が3件と10年以上にわたっており、大分新聞、大分合同新聞等の地方紙の他、朝日新聞、読売新聞、日本経済新聞等も見られた。後に述べるサフランの球根分譲や竹田式の紹介、副業として推奨する内容などで、いずれも、先述の栽培法初出の資料<sup>33)</sup>より後に掲載されたものであった。1955年の記事には「生産見込み300斤」との記述もあり、1斤=600gで換算すると、この段階で180kgものサフランが生産されていたことがわかる。

また、大分県公文書館所蔵資料所蔵の公文書約4万2千冊、行政資料約2万5千冊<sup>47)</sup>より、「農村工業一件綴 昭和31年度」として、1956年4~6月の8件の文書類を発見した(表3)。これも前述の新聞記事類同様、室内栽培初出文献より後の文書である。富山県へのサフラン種球の分譲に関して、「玉来サフラン生産組合長」として吉良文平氏の養子である吉良保氏の氏名が宛先に見られる。これは、吉良氏子孫がサフラン栽培やその種苗の普及に尽力したことを示している。

さらに、前述の竹田市農政課所蔵資料によると、1977年には「竹田市サフラン生産出荷組合」が結成され、生産振興により力が注がれるようになった。この組合での活動により、1977年の組合結成当初10haであった栽培面積がわずか3年で2ha拡大し、生産者も300名を数え、1984年には花芯生産量が250kgに到達したとされる<sup>48)</sup>。同組合

表2 竹田市農政課所蔵資料

掲載日	書誌名	記事タイトル
1953/08/15	これからの農村	特撰サフラン 球根分譲
1953/08/15	これからの農村	新発見! サフランの室内栽培法
1953/11/07	大分合同新聞	農芸
1953/11/13	大分合同新聞	農芸
1954/01/15	農村工業副業情報	薬草サフランの屋内栽培
1954/11	朝日新聞	サフラン王国へ 最盛期
1955/11/07	大分新聞	サフランの生産好調 竹田
1954/11/21	大分新聞	いま搬出に大童
1955/11/16	アサヒグラフ	雌しべの高貴葉
1960/06/16	読売新聞	薬草「サフラン」
1961/03/23	読売新聞	製品が清潔で良質
1964/11/10	日本経済新聞	副業にもってこい
不明		サフラン王国へ

が結成されたことで、サフラン栽培面積や生産量など詳細なデータも集約されるようになり（図1）、より戦略的な生産振興が行えるようになったものと考えられる。

また、我々はこの「竹田市サフラン生産出荷組合」でかつて組合長を務めた渡部親雄氏に2015年度以降、継続的に竹田市におけるサフラン栽培や竹田式の栽培手法の詳細等につき聞き取り取材を行ってきた。渡部氏はサフラン農家としては3代目だが、先代より受け継いだ際は栽培層もない状態で各家それぞれの方法でサフランを栽培していたという。渡部氏は2004～2015年にかけて組合長を務め、

生産者や行政と協力してサフラン栽培に関する情報を蒐集・体系化し、サフランの栽培層を作成するとともに、栽培講習会を行ってきた。このように、渡部氏は秘匿される傾向にある地域特有の栽培手法を、内外の生産者に対して発信し、広く生産振興および栽培技術継承を行うための活動に貢献してきたことを、これまでの聞き取り調査で確認した。

これらの資料と取材結果より、1910年頃に開発された竹田式は、吉良文平氏が発案した後、種球提供に協力した子孫と玉来地区の生産者・農協関係者の栽培技術改良により

表 3 農村工業一件綴 昭和31年度

日付	差出人	宛先	件名
1956 4.24	富山県農林部長	大分県農林部長	薬用「さふらん」種球分譲方について
1956 5.7	特産課長	竹田市松本君が園 サフラン生産組合長工藤豊 竹田市玉来サフラン生産組合長 吉良保 臼杵市井村 衛藤直	薬用「サフラン」種球分譲について（依頼）
1956 5.7	大分県特産課長	臼杵市 衛藤直	薬用「サフラン」種球分譲について（依頼）
1956 5.7	大分県特産課長	玉来サフラン生産組合長 吉良保	薬用「サフラン」種球分譲について（依頼）
1956 5.1	竹田市玉来サフラン組合 吉良保	特産課長	薬用「さふらん」種球分譲について（回答）
1956 5.18	大分県農水産部長	富山県農林部長	薬用「さふらん」種球分譲について（回答）
1956 6.13	富山県農林部長	大分県農林部長	薬用「さふらん」種球分譲方について
1956 6.18	農水産部長	富山県農林部長	薬用「さふらん」種球分譲について（回答）

大分県公文書館所蔵資料「農村工業一件綴 昭和31年度」より作成

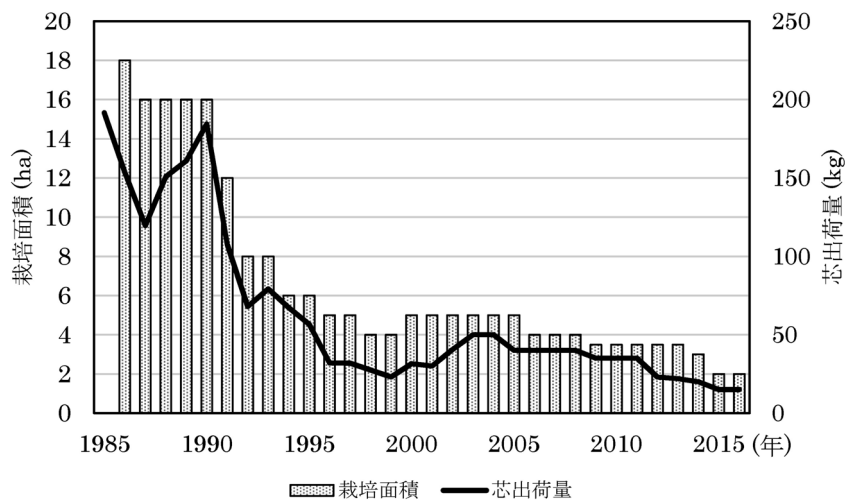


図 1 竹田市におけるサフラン栽培の推移  
データは竹田市農政課より提供を受けた。

確立され、竹田市内外に広められたことを明らかにした。

こうした地域連携で隆盛を極めた竹田市のサフラン栽培であったが、花芯価格の低下と円高等の影響で安価なスペイン産サフランの輸入量が増大したことにより生産量が大幅に減少し、1992年には生産量が100kgを下回り<sup>48)</sup>、現在ではわずか30kg程度となっている(図1)。文献により量や年代がまちまちであるが、昭和初期には日本国内で少なくとも最大5,000斤のサフランが生産されていたと考えられ<sup>19,25,35,49)</sup>、これは前述と同様の換算方法で3,000kgと、現在の年間輸入量を上回る。即ち、かつてと同様の規模で栽培を行うことができれば、国内におけるサフランの自給も可能であると考えられる。竹田市で考案され、培われてきた竹田式は、当時の露地栽培の欠点を補い、かつ水田裏作が可能で土地利用効率を最大限に引き上げる手法として、考案者の子孫や地域の農業技術者たちに培われてきた篤農技術である。今後、安全で高品質な国産サフランの安定供給のため、これらの技術の記録・保存と維持・継承が必須であると考えられる。

#### 4. ま と め

明治期以降のサフラン栽培方法の文献調査により、栽培・収穫方法が年代を経ることで改良されたことを確認した。品質保持については、現代の知見と共通する記述が多く見られ、導入初期から品質について適切な認識がなされていたと考えられる。一方で、病害に弱く、天候に品質が左右されやすい露地栽培の欠点を補い、さらに土地利用効率を高める手法である竹田式が、明治期に考案されたのち、考案者の子孫や地域の農業技術者によって確立・周知されたことを明らかにした。

#### 謝 辞

本研究遂行に当たり、貴重な資料や情報のご提供・ご教示をいただいた竹田市市長 首藤勝次氏、竹田市農政課 後藤芳彦氏、同 前原文之氏、大分県農業協同組合豊肥事業部 野田竜治氏、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 後藤一寿博士、岡山大学大学院社会文化科学研究科・文学部 講師 東野将伸博士に深謝する。また、取材にご協力いただいた渡部氏ご親族の皆様方に深く感謝申し上げます。本研究は公益財団法人 日本食品化学研究振興財団 平成29年度研究助成、同平成30年度研究助成、同31年度研究助成およびJSPS 科研費2018-2020年度基盤研究C [代表者] 課題番号:18K01102、2017-2020年度基盤研究B [分担] 課題番号:17KT0079による支援を受けた。

#### 利益相反

開示すべき利益相反はない。

#### 引用文献

- 1) 財務省貿易統計. <http://www.customs.go.jp/toukei/info/> (accessed 24 June 2018)
- 2) 株式会社栃本天海堂. 「日本のサフランの産地～大分県竹田市現地レポート」 [https://www.tochimoto.co.jp/genryo/genryo\\_info/sanchi/safuran.html](https://www.tochimoto.co.jp/genryo/genryo_info/sanchi/safuran.html) (accessed 24 June 2018)
- 3) 竹田市誌編集委員会編. 竹田市誌. 第2巻. 竹田市. 2009. p. 277-8
- 4) 原田東一郎. 薬用草木栽培法. 大学館. 1904 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/839894> コマ番号 67 (accessed 26 June 2018)
- 5) 伊藤寿男. 薬用サフラン栽培法. 有隣堂. 1911 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/839892> (accessed 26 June 2018)
- 6) 宮下正男. 薬用植物栽培及利用法. 大学館. 1911 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/839893> コマ番号 85-91 (accessed 26 June 2018)
- 7) 河南休男. 培養詳説 家庭の花弁果樹. 大学館. 1913 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/951746> コマ番号 123-124 (accessed 26 June 2018)
- 8) 沖田秀秋. 日本薬草採取栽培及利用法. 大倉書店. 1915 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/931603> コマ番号 88-91 (accessed 26 June 2018)
- 9) 薬草研究会編. 実用薬草栽培法. 長久社書店. 1916 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/953501> コマ番号 119-124 (accessed 26 June 2018)
- 10) 日下雅山. 確実有利金儲策. 修文館. 1916 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/921445> コマ番号 24-26 (accessed 26 June 2018)
- 11) 加藤忠左. 薬用サフラン培養法. 加藤忠清堂薬局附属サフラン培養園. 1917 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/931626> (accessed 26 June 2018)
- 12) 加藤孝三郎. 薬草栽培と増収法. 大盛堂書店. 1917 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/931629> コマ番号 41-45 (accessed 26 June 2018)
- 13) 帝國薬草研究会編. 薬草売買取引法. 三学社. 1918 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/905266> コマ番号 19-22 (accessed 26 June 2018)
- 14) 万代虎蔵. 重要薬草栽培と其販売法. 殖産協会出版部. 1918 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/931634> コマ番号 10-13 (accessed 26 June 2018)
- 15) 東京薬草栽培研究会編. 一坪の庭で多く出来る薬草栽培の秘訣. 盛陽堂. 1918 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/957371> コマ番号 9-11 (accessed 26 June 2018)
- 16) 岡村猪之助. 農家副業 薬用植物栽培法. 実業之日本社. 1919 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/931659> コマ番号 28-35 (accessed 26 June 2018)

- 2018)
- 17) 竹生太一. 薬草と毒草の図解. 竹生英堂. 1919 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/956452> コマ番号 75-79 (accessed 26 June 2018)
  - 18) 有賀正三. 実地薬用サフラン栽培法. 宮沢書店. 1919 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/958431> (accessed 26 June 2018)
  - 19) 平川全篤. 実験薬用サフラン栽培法. 平川サフラン園. 1919 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/908679> (accessed 26 June 2018)
  - 20) 田原郷造. 知事や大臣の収入よりも多い実験栗の栽培. 日本図書出版. 1920 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/964554> コマ番号 74-78 (accessed 26 June 2018)
  - 21) 遠藤雨寛. 文化農村青年利殖策. 春江堂. 1922 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/970347> コマ番号 64-65 (accessed 26 June 2018)
  - 22) 農業教育会編. 薬草栽培法: 除虫菊・薄荷・サフラン. 農業教育会. 1925 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/917999> コマ番号 5-11 (accessed 26 June 2018)
  - 23) 蘇華山人. 農界四大富源. 日本農声時論社京都分社. 1925 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/913949> コマ番号 12-24 (accessed 26 June 2018)
  - 24) 田園学人. 薬草サフラン栽培法. 新播磨社. 1926 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1019330> (accessed 26 June 2018)
  - 25) 中岡朝一. 収益増大サフランと黄蓮の栽培. 米本書店. 1926 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/924740> コマ番号 10-35 (accessed 26 June 2018)
  - 26) 植田善蔵. 田園趣味 家庭園芸詳説. 駸々堂書店. 1926 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1018873> コマ番号 30 (accessed 26 June 2018)
  - 27) 商店界社編. 家庭副業案内. 商店界社. 1927 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1465471> コマ番号 137-140 (accessed 26 June 2018)
  - 28) 新潟県農事試験場佐渡分場編. 総合的農業経営と水田裏作. 1931 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1214960> コマ番号 61-63 (accessed 26 June 2018)
  - 29) 家庭医学研究会. 誰にも出来る薬草栽培と薬草療法. 崇文堂出版部. 1934 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1111007> コマ番号 69-70 (accessed 26 June 2018)
  - 30) 刈米達夫. さふらんノ栽培. 植物研究雑誌. 1934; 10: 184-7
  - 31) 刈米達夫, 若林榮四郎. 薬用植物栽培法. 養賢堂, 1937. p. 398-414
  - 32) 谷本亀次郎. 薬草の利用と栽培法. 泰文堂. 1941 国立国会図書館デジタルコレクション. <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1046543> コマ番号 216 (accessed 26 June 2018)
  - 33) 末松正雄. サフランの籠栽培に就いて. 薬事科学. 1944; 16: 5-6
  - 34) 高原良樹. 薬用サフランの栽培法. 農業世界. 1950; 45: 102-6
  - 35) 神尾信治. 薬用植物栽培法 (4) サフラン, アミガサユリ, アサガホ, エビスグサ. 薬用植物と生薬. 1950; 3 (1/2): 40-7
  - 36) 田窪正雄. 薬用サフランの栽培法. 農産. 1951; 5: 8-9
  - 37) 財団法人日本公定書協会編. 新しい薬用植物栽培法 採取法・調製法. 廣川書店, 1970. p. 148-55
  - 38) 藤田早苗之助. 薬用植物栽培全科. 農山漁村文化協会. 1972. p. 136-45
  - 39) 厚生省薬務局. 薬用植物 栽培と品質評価 Part 4. 薬事日報社, 1995. p. 27-36
  - 40) 佐竹元吉, 飯田 修, 川原信夫. 新しい薬用植物栽培法 採取・生薬調製 第2版. 廣川書店, 2002. p. 138-45
  - 41) 株式会社栃本天海堂 創立 60 周年記念誌. 栃本天海堂, 2010. p. 243-52
  - 42) 渥美聡孝, 長谷川暢大, 和田哲哉, 大塚 功, 垣内信子. 大分県竹田市におけるサフラン栽培の調査報告. 薬用植物研究. 2015; 37 (1): 13-21
  - 43) 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団, 第十七改正 日本薬局方. じほう, 2016
  - 44) 山本和太郎, 尾松滝雄, 高見和光. 薬用サフランの球茎腐敗病に関する研究 第1報 種々な植物上及び土壌中における菌核病菌とフザリウム病菌の腐生繁殖に就いて. 兵庫農科大学研究報告. 1954; 1: 64-70
  - 45) 黒谷吾市, 木村久吉, 中尾 弘. サフランの生態に関する研究. 金沢大学薬学部研究年報. 1954; 4: 38-48
  - 46) 川谷豊彦, 藤田早苗之助, 久保木憲人, 斎藤和子. サフランの室内栽培と露地栽培の比較. 衛生試験所報告. 1961; 79: 137-45
  - 47) 大分県公文書館. <https://www.pref.oita.jp/site/346/siryousyukai.html> (accessed 11 Mar 2019)
  - 48) サフラン百年祭実行委員会. サフランシンポジウム資料 (2003. 11. 2, 大分県竹田市)
  - 49) 川瀬 清. 国産薬用植物の生産状況の比較. 生薬学雑誌. 1957; 11: 12-3



## Summary

Taketa is a city in Oita, Japan, which is known as the major production area of saffron (the stigma of *Crocus sativus* L.) and where the “Taketa-Saffron Cultivation Method” was developed. This characteristic cultivation method was invented around 1910 in Taketa in order to produce high-quality saffron. This method involves blooming saffron indoors without soil and water in contrast to being cultivated and harvested outdoors in major saffron-producing countries such as Spain and Iran. Approximately 80% of domestic saffron is produced in Taketa, but the number of saffron producers is decreasing because of economic conditions and Japan’s aging society.

In this study, we investigated the history of the saffron cultivation method development in Japan and clarify the benefits of the Taketa-Saffron Cultivation Method. We thoroughly surveyed various literature written about the saffron cultivation methods used in Japan and found that the essence of harvesting and processing skills—almost the same as current know-how such as “avoiding harvesting in rainy weather” and “removing the yellow and white part of the stigma”—were already recognized. However, most of the literature discussed outdoor cultivation methods, and the Taketa-Saffron Cultivation Method had not been published for more than 30 years after its invention. Our field study and interviews conducted in Taketa revealed that the inventor’s offspring made efforts to spread the seedlings. Additionally, we verified that experienced farmers formed a union to encourage and improve the Taketa-Saffron Cultivation Method. It is necessary to record and inherit this unique method, which was developed by the inventor’s offspring and local farmers to ensure a stable supply of domestic high-quality saffron.

Key words : Saffron, Taketa-Saffron Cultivation Method, Experienced farmer, Field study

## 薬剤師活動に示唆を与えるキリスト教の愛と仏教の慈悲

奥田 潤<sup>\*1,\*2</sup>, 森本和滋<sup>\*3</sup>

### Suggestions for Pharmacist Activities from Love in Christianity and Mercy in Buddhism

Jun Okuda<sup>\*1,\*2</sup> and Kazushige Morimoto<sup>\*3</sup>

(Accepted February 19, 2019)

#### I. はしがき

前報「宗教薬学」<sup>1)</sup>において、2006（平成18）年から薬剤師は病棟で患者と接するようになり、患者をより深く理解するため、今後薬学教育6年の中でより深く宗教を学ぶことになると、筆者（J.O.）は述べた。薬剤師は、薬の専門家であるが、薬は病気を治すために患者に投与するものであり、患者に寄り添う心をもつことが医療従事者として求められる。

薬学の分野では臨床薬学が重要視されるようになり、それにつれて、薬学生に対する人文社会薬学の教育として、6年間の教育の中で倫理学、心理学、コミュニケーションなどの教育が始まった。しかしその中心課題である「愛」について学生に教えることは少ない。

その理由は、愛が人間の根源に関することでありながら、学問の成り立ちから考えると、愛をとり扱う宗教は、母体が宗教系である薬科大学を除いて殆んど教えられず、一般の薬科大学では基礎薬学教育に重点がおかれ、愛は心理学の感情論の中で僅かに触れられるのみであることによる。

後述の愛の定義的説明で述べるごとく、愛の範囲は広く、愛を定義することは不可能に近く、多くの識者が定義をしていない。また学問のしくみの中でその位置を特定することができない。そのため愛を討議の対象とすることが少な

かった。そこで、まず愛の宗教として世界でもっとも信者の多いキリスト教と、愛の類語である慈悲を重要視する日本の仏教をとり上げ、比較検討した。（J.O.）

#### II. 愛の起源<sup>2)</sup>

東西の大陸を問わず、人間が生まれた時から、家族愛、部落愛が存在していたと思われる。その理由は当時の大家族、一部落の人数が少なく、仲間の一人が病気や怪我で欠けたりすると、その部落の存続がむずかしくなり、病気や怪我をした仲間を回復させるために必死になって看護した。すなわち、仲間の存在は自分の存在にとって不可欠であることに気づいたと思われる。その時、家族や部落には賢い長老がいて、自分の経験や先人の口伝えによって、さまざまな草木、鉱物の医学薬学的知識を貯えており、病人、怪我人を観察し、看護し、内用薬、外用薬を調合して与えていたものと考えられる。その長老は、現在の僧侶、薬剤師、医師の三役を兼業していたに過ぎない。

家族や仲間に対する愛の歴史は、人間の誕生と共にこのように古い。この愛は、家族的血縁や地縁共同体における本来の関係を固める絆そのものであり、種族保存的、排他的側面をもち、閉じた社会を形成しやすかったと考えられる。（J.O.）

キーワード：キリスト教の愛、仏教の慈悲、薬剤師活動、患者への愛と慈悲、通俗愛と利己的愛

<sup>\*1</sup> 名城大学(薬学部)名誉教授 *Professor Emeritus of Meijo University, Faculty of Pharmacy, Meijo University. 150 Yagotoyama, Tempaku-ku, Nagoya, Aichi 468-8503.*

<sup>\*2</sup> 日本薬史学会名誉会員 *Honorary member of Japanese Society for History of Pharmacy. 自宅：〒468-0026 名古屋市天白区土原3-1110.*

<sup>\*3</sup> 日本薬史学会、薬学博士、D. Min (実践神学博士) *Japanese Society for History of Pharmacy.*

### III. 愛の定義的説明

多くの識者は、愛を定義することはできないと述べている。その理由は、「愛は人間性の規定対象ではなく、人間を根本的に定める領域にある。」<sup>3)</sup>からによるという。学問のしくみ<sup>1)</sup>における愛や幸福という言葉の位置づけは不明で、自然科学、人文科学、社会科学、文化芸術のほとんど全項目にまたがるため、筆者 (J.O.) は愛を総合人間科学 (Integrated human science) という部門を新設してその中に含め、研究するのが望ましいと考える。

#### A. 哲学者による愛の定義的説明

a. 哲学者石谷二郎<sup>4)</sup>は、強いて定義するとすれば、〈愛は生を育む力、異なるものを結びつける契機〉としているが、〈同時に愛がいつも生を育み、幸福をもたらすとはいえず、偏った一途な愛が思考を妨げ、異なるものを排除し、時には自らを、他人を不幸に陥れることもあり、愛は十分命とりになる〉と述べた。

b. 哲学者宮本久雄<sup>3)</sup>は、愛は定義できないが、愛の特徴について次のように記述した (アンダーラインの部分は筆者 (J.O.) が加筆した)。

愛は明らかに情緒、感情、意志、志向的性格を帯びているが、他者との関係を示すことが多い。

#### 1. 他者が人間である場合

1) 肉親愛、家族愛、父母の愛、夫婦愛、兄弟愛、同志愛、友愛、恋愛、性愛、同性愛、師弟愛、患者に対する愛

2) 自己愛 (ナルシシズム)

#### 2. 他者が神仏である場合

キリスト教による愛、仏教による慈悲など

#### 3. その他の対象への愛

芸術への愛、真理への愛、学問 (薬学) への愛、山川草木への愛、郷土愛、祖国愛、博愛、動物愛など

#### 4. 相手が実在しない愛

幻想愛、虚無的 (ニヒリスティックな) 愛、融合愛

#### 5. 抽象化、類型化した愛

バイオフィリア (生命愛)、ネクロフィリア (向死愛)、サディズム、マゾヒズム、独占愛、利己愛と利他愛、偏愛、貪愛 (よくばり)

こうした愛の多様性は種々の愛を生み、愛をつくったり、破綻させたりする。

#### B. 心理学者による愛の定義的説明

心理学者 Sternberg<sup>5,6)</sup>は、愛は親密性、情熱、コミットメント (関与) の3点を三角形の頂点に配置した形で表現

できるとし、愛の三角理論と名づけた。この理論は、恋愛感情のみでなくその他の愛についても表現できるとした。

#### C. 宗教信者による愛の定義的説明

##### a. キリスト教信徒による定義的説明

今崎秀一<sup>7)</sup>は、「愛とは、ある人に対し好感を感じ、その人とのより多くの接触を欲し、その人をよしとしてその人のために尽し、これらによって自ら満足を感じる対人関係である。」とした。

##### b. 仏教学者による定義的説明

中村 元<sup>8)</sup>は、「慈悲とは、菩薩が衆生をあわれみ、いつくしむ心を用いる。万人に対する愛、いつくしみと同情を意味する。」とした。(J.O.)

### IV. 宗教における愛と慈悲

前報<sup>1)</sup>において、キリスト教は愛を、仏教においては慈悲を標榜していることを述べた。以下2宗教における愛、慈悲について説明したい。

#### 1. キリスト教における愛

愛は、聖書において、神と人間についていわれている事柄のうち最も深い、究極的なことである<sup>9)</sup>。

##### 1) 旧約聖書・新約聖書における愛の記載と意義

旧約聖書、新約聖書は、カトリック教会とプロテスタント諸教会の共同訳聖書実行委員会が1989年9月刊行された新共同訳聖書 (1993年版)<sup>10)</sup>を用いた。

聖書コンコーダンス<sup>11)</sup>で「愛」、「愛する、愛す」の登場箇所を解析すると、2つの言葉の合計は、旧約聖書 263 箇所、新約聖書 264 箇所に存在した。

その内訳は、以下のような数字になった。

「愛」

旧約聖書：41 箇所 (内訳：雅歌 14, 箴言 5, イザヤ書 5, 他)

新約聖書：105 箇所 (内訳：ヨハネの手紙一 13, エフェソの信徒への手紙 11, コリントの信徒への手紙一 10, 他)

「愛する、愛す」

旧約聖書：222 箇所 (内訳：詩篇 45, 雅歌 38, 申命記 24, 他)

新約聖書：159 箇所 (内訳：ヨハネによる福音書 35, ヨハネの手紙一 17, ローマの信徒への手紙 10, 他)

#### A. 旧約聖書

旧約聖書には、種々の愛が記載されている (表1)。「創世記」にはイサクとリベカ、ヤコブとラケルの結婚が記されている。「レビ記」には、「自分自身を愛するように隣人

表 1 旧約聖書に書かれた愛についての記載例<sup>9)</sup>

書名	章	節	〔見出し〕愛の記載（一部省略した）
創世記	24	67	〔イサクとリベカの結婚〕彼はリベカを迎えて妻とした。イサクは、リベカを愛して、亡くなった母に代わる慰めを得た。
	29	30	〔ヤコブの結婚〕こうして、ヤコブはラケルをめとった。ヤコブはレアよりもラケルを愛した。そして、更にもう七年ラバンのもとで働いた。
レビ記	19	18	〔聖なる者となれ〕復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように、隣人を愛しなさい。わたしは主である。
申命記	6	5	〔唯一の主〕あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。
	10	18, 19	〔神が求められること〕孤児と寡婦の権利を守り、寄留者を愛して食物と衣服を与えられる。あなたたちは寄留者を愛しなさい。あなたたちもエジプトの国で寄留者であった。
	15	1 12 14	〔負債の免除〕七年目ごとに負債を免除しなさい。 〔奴隷の解放〕同胞のヘブライ人の男あるいは女が、あなたのところに売られて来て、六年間奴隷として仕えたならば、七年目に自由の身としてあなたのもとを去らせねばならない。 あなたの羊の群れと麦打ち場と酒ぶねから惜しみなく贈り物を与えなさい。それはあなたの神、主が祝福されたものだから、彼に与えなさい。
	17	1	〔正しい礼拝〕いかなる欠陥であれ傷のある牛や羊を、あなたの神、主にいけにえとしてささげてはならない。それはあなたの神、主のいとわれることである。
ルツ記	1	1～18	〔ナオミの家族愛〕モアブから故国ユダに帰ることになったナオミが、死んだ息子二人の嫁にモアブへ帰るよう諭す家族愛。
		8	〔ルツの決意〕故国ユダに帰る道すがら、ナオミは二人の嫁に言った。「自分の里に帰りなさい。あなたたちは死んだ息子にもわたしにもよく尽くしてくれた。どうか主がそれに報い、あなたたちに慈しみを垂れてくださいますように。どうか主がそれぞれに新しい嫁ぎ先を与え、あなたたちが安らぎを得られますように。」
雅歌	1～8	1, 2	〔おとめ、若者の歌〕長編の恋歌がつづられ、花嫁や花婿の深い愛は、神の愛を表現されている。 ソロモンの雅歌。どうかあの方が、その口のくちづけをもってわたしにくちづけしてくださるよう。
イザヤ書	49	15	〔シオンの回復〕女が自分の乳飲み子を忘れるであろうか。母親が自分の産んだ子を憐れまないであろうか。たとえ、女たちが忘れようとも わたしがあなたを忘れることは決してない。
ホセア書	11	1, 8	〔神の愛〕まだ幼かったイスラエルをわたしは愛した。エジプトから彼を呼び出し、わが子とした。 ああ、エフライムよ お前を見捨てることができようか。イスラエルよ お前を引き渡すことができようか。

旧約聖書はイスラエルの民と神の間の契約であるが、種々の愛が取り上げられた。

を愛しなさい。」とあり、「申命記」には、「あなたの神、主を愛しなさい。」とある。「ルツ記」、「イザヤ書」には家族の愛が書かれ、「雅歌」には聖書には珍しく、若い男女の恋歌がつづられているが、花婿をキリストとして雅歌を神秘主義的な恋歌と理解する研究者もいる。

「ホセア書」には「神の愛」が示されている。

#### B. 新約聖書

新約聖書における愛の記載は表2に示した。愛の第一の掟として、マタイ、マルコによる福音書に「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くしてあなたの神である主を愛しなさい。」とある。このイエスの言葉は、旧約聖書・申命記6章5節（表1）で、神が語られたものである<sup>12)</sup>。

第二の掟としてマタイ、マルコによる福音書に「隣人を自分のように愛しなさい。」と書かれている。このイエスの言葉は、旧約聖書・レビ記19章18節（表1）で、神が

語られたものである<sup>12)</sup>。

第一、第二の掟と同様な内容の愛が、ヨハネによる福音書に、第一の掟と同様な内容の愛がローマの信徒への手紙にも書かれ、第二の掟と同様な内容が、ガラテヤの信徒への手紙、コロサイの信徒への手紙、ヨハネの手紙一にも書かれている。

コリントの信徒への手紙一には、「愛は忍耐強い、愛は情け深い、ねたまない。」など15項目にわたって愛について詳しく説明されている。「愛」を「キリスト」に置き換えるとその意味が良く理解できる。「信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは愛である。」と書かれている。

キリストの愛が人々を引きつけるのは、ローマの信徒への手紙に書かれているように、「キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対

表 2 新約聖書に書かれた愛についての記載例<sup>9)</sup>

書名	章	節	〔見出し〕愛の記載（一部省略した）
マタイによる福音書	5	44	〔敵を愛しなさい〕しかし、わたしは言うておく、敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。
	22	37～40	〔最も重要な掟〕イエスは言われた、「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」
マルコによる福音書	12	28～34	〔最も重要な掟〕（上述のマタイの福音書 22 章 37～40 節と同じ）。
ルカによる福音書	6	27～29	〔敵を愛しなさい〕しかし、わたしの言葉を聞いているあなたがたに言うておく、敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしなさい。悪口を言う者に祝福を祈り、あなたがたを侮辱する者のために祈りなさい。あなたの頬を打つ者には、もう一方の頬を向けなさい。上着を奪い取る者には、下着をも拒んではならない。
	10	30～37	〔善いサマリア人〕あるサマリア人は、追いはぎにより服をとられ、殴りつけられ、半殺しにされた人を、手当し宿に連れて行って介抱した。翌日銀貨 2 枚を宿の主人に渡し『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います。』と依頼した。イエスは「わたしの隣人とは誰ですか」の問いに対し、上記のサマリア人の話をした。
ヨハネによる福音書	13	34	〔新しい掟〕あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛しなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。
	15	9	〔イエスはまことのおどりの木〕父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。
	15	12, 13 16	〔イエスはまことのおどりの木〕わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛しなさい。これがわたしの掟である。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。
ローマの信徒への手紙*	5	5 8	〔信仰によって義とされて〕希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。 しかし、わたしたちが罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。
	8	28 33 35	〔将来の栄光〕神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。 〔神の愛〕だれが神に選ばれた者たちを訴えるでしょう。人を義としてくださいるのは神なのです。 だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができましょう。艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。
	13	8～10	〔隣人愛〕互いに愛し合うことのほかは、だれに対しても借りがあってはなりません。人を愛する者は、律法を全うしているのです。「姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな」、そのほかどんな掟があっても「隣人を自分のように愛しなさい」という言葉に要約されます。 愛は隣人に悪を行いません。だから、愛は律法を全うするものです。
コリントの信徒への手紙一*	13	4～8 13	〔愛〕愛は忍耐強い。愛は情け深い、ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。愛は決して滅びない。 それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。
ガラテヤの信徒への手紙*	5	13, 14	〔キリスト者の自由〕兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい。律法全体は、「隣人を自分のように愛しなさい」という一句によって全うされるからです。
	5	22, 23	〔霊の実と肉の業〕これに対して、霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。これらを禁じる掟はありません。
	6	2	〔信仰に基づいた助け合い〕互いに重荷を担いなさい。そのようにしてこそ、キリストの律法を全うすることになるのです。
コロサイの信徒への手紙*	3	12～14	〔日々新たにされて〕あなたがたは神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されているのですから、憐みの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを救ってくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。これらすべてに加えて、愛を身につけなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです。

表 2 続き

書名	章	節	〔見出し〕愛の記載（一部省略した）
ヨハネの手紙一	3	11	〔互いに愛し合いなさい〕なぜなら、互いに愛し合うこと、これがあなたがたの初めから聞いている教えだからです。
		16	イエスはわたしたちのために、命を捨ててくださいました。そのことによって、わたしたちは愛を知りました。だから、わたしたちも兄弟のために命を捨てるべきです。
	4	7	〔神は愛〕愛する者たち、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。
		10	わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、私たちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。
		12	いまだかつて神を見た者はいません。わたしたちが互いに愛し合うならば、神はわたしたちの内にとどまってくださり、神の愛がわたしたちの内ですべてなされています。

新約聖書は、人類の救世主イエス・キリストと神と人々の新しい契約であり、イエスが求める愛は、他者を助け、敵にさえも援助の手を差し伸べる愛である。

\*ローマの信徒への手紙、コリントの信徒への手紙一、ガラテヤの信徒への手紙は、パウロ自身によって、コロサイの信徒への手紙は、パウロとテモテによって書かれた。

する愛を示されました。」と説いている（表2）。

第二の掟はさらに一步踏み込んで、マタイによる福音書には、「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。」と書かれている（表2）。

キリストに「愛とは何か？」を尋ねたとき、キリストは「善きサマリア人のような人」と譬えを用いて答えている（ルカによる福音書）。

復活のキリストの声を聞き、回心し、使徒となったパウロは、愛の伝道の中心的役割を果し、ローマの信徒への手紙、コリントの信徒への手紙、ガラテヤの信徒への手紙など13通の手紙を書いた<sup>13)</sup>。彼は、キリストにある神の愛の確信 (the assurance of God's love in Christ) に到達した思いを、ローマの信徒への手紙8章28節に記したものと考えられる<sup>14)</sup>（表2）。

## 2) 愛の種類

### (1) 神愛 (agapē, アガペー)

アガペーは、ギリシャ語で、「私にとって何より大事な」という主体的な判断と選択を表現する<sup>15)</sup>。主体的に接触的に尊重する愛、特に神が愛する場合に限るわけではなく、人間が愛する場合にも、また対象の如何を問わずに用いられる。後述のフィリアとの相違は「愛する主体の態度」の相違である。アガペーが重要視されるのは、実は、キリスト教の誕生後のことで、近代に至ると、愛は理性との関係から考察されていくことになる。

キリスト教の愛の概念で、アガペーとは、キリストの受肉<sup>註1)</sup>による人間との連帯を意味し、アガペーは、神から人間への下降的愛といわれる。下記のエロースと異なり、精神的な神聖な愛を言う。具体的には〈神が人に対してもつ

愛〉、〈人が神に対してもつ愛〉、〈人間の間の犠牲的な兄弟愛〉、〈他者を生かそうとする他者中心の愛〉などをいう。ユダヤ教、キリスト教では神の愛を意味するとされた<sup>16)</sup>。

### (2) エロース (erōs)

エロースには、2つの意味がある。①元来、プラトン (B.C. 428/427~B.C. 348/347) の哲学でいうエロースは哲学的情熱を意味し、人間存在の超越的動態を開示する。②ギリシャ神話「愛の神」を意味するが、後世、①の超越のエロースが無視され、情念のエロースのみが強調されるようになった。エロースは、新約聖書ではどこにも語られていない<sup>16)</sup>。

### (3) 友愛 (フィリア, philia)

ギリシャ語で、自然発生的な人情、友愛、愛の情を意味する<sup>15)</sup>。精神的価値観を共有する者同士の友情で、アリストテレス (B.C. 384~322) によると、友愛は、相手を善美する自己の分有として愛する (自己愛) であるという<sup>16,17)</sup>。(K.M., J.O.)

### 3) キリスト教における愛の賛美<sup>7)</sup>

いわゆる恋愛賛美とは大きな違いがある。聖書の愛の記述は教えであり、戒めである。キリストによって示された教えは、信者にとって納得できるものであり、最高の教戒である。そこには信仰の立場からする純粋な愛他的愛、無私の愛が説かれている。これは一般の人々にとって実施するのは難しい道である。

恋愛や母性愛は自然に発現する欲望としての愛情であり、愛着である。上述のキリスト、聖書によって示された愛の教えは、思索・祈り・精進によって得られる道徳的理想的なものであり、キリストに対する誓いである。

よりよき社会は愛他人の人格と愛他的行為なくしては成立

<sup>註1)</sup> 受肉：神の子、イエス・キリストが人類の救済のため地上に現れたという、キリストの秘儀をあらわす概念。

しない。社会が成立するためにはある程度以上の愛他的連帯が必要である。(K.M., J.O.)

#### 4) 薬剤師としてのキリスト画 (17~20 世紀)<sup>18,19)</sup>

調剤室で薬剤師の象徴である天秤をもった薬剤師としてのキリスト像が画かれ始めたのは 1630 年頃からである。

薬剤師としてのキリスト画は、バイエルン (南ドイツ地方) に 35 点、オーストリア地方に 23 点、アルザス・スイス地方に 31 点、その他の国に 9 点 (ハンガリー 1 点、ソビエト 2 点、アメリカ 2 点、フランス 2 点、スウェーデン 1 点など) の計 98 点が判明している。

17 世紀前半~20 世紀にかけて薬剤師としてのキリスト図像が増えていった背景には、これらの画が教会などに掲げられ、調剤室にある神秘的な薬壺の表面にキリストの言葉である信仰、希望、愛などの言葉を書き入れ、キリスト教の布教に用いられたと思われる。このことは当時の薬剤師が人々から尊敬され、結果的にキリストの名のもとに薬剤師の地位も向上していったものと考えられる。

現在ドイツ・ギュツセンスタットのセント・ミハエル教会に所蔵されている薬剤師としてのキリスト画 (高さ 80 センチ、幅 65 センチ) は、1670 年に画かれたもので、薬局の調剤室の中に立つキリストが左手に天秤をもち、調剤台の上の薬壺には薬物の名でなく、ワイン、水、薬、グラジオラス、アンゲリカ、忍耐、十字根、精神、正義、平和などの言葉がラベルに書かれ、背景の壁には「こちらに来て金を払うことなくブドウ酒、ミルクを買いなさい。疲れた者、重荷を負った者はだれでも私のもとに来なさい。私が休ませてあげよう」と書かれている。

また、ドイツ・ハイデルベルグの薬博物館が所蔵している 18 世紀後半の油絵 (高さ 90 センチ、幅 71 センチ) では、薬壺が並んだ棚の前にキリストが立ち、左手に天秤をもち、調剤台の上には紙がたれ下り、「神の言葉に耳を傾け、愛を保つ者は幸いなり。」と書かれ、下の紙には「総べて重荷を負える者、われのもとに来て、われ汝を救わん、われを呼べ、われ汝らの願を聴き届けん、探せ、さらば見出さん、願え、さらば見出さん、戸を叩け、さらば戸が開かれるであろう。」と書かれている。同様な言葉が新約聖書：マタイ 7-7 にある。(J.O.)

#### 2. 仏教における愛と慈悲

##### 1) 仏教の歴史<sup>20,21)</sup>

釈尊 (仏陀、ブッダ) の生存の年代が、仏教の始まりであることはいままでの<sup>注2)</sup>にもかかわらず、「今からお

よそ 2500 年前」といった大雑把な表現に頼らざるを得ないほど異説が多く、未だに定説と呼べるようなものは存在しない。ブッダは自らの教えを文字として残したのではなく、専ら口承によって伝達され、詩の形に古マガダ語でまとめられ、やがて A.D. 1 世紀頃に経蔵 (経典)、律蔵 (戒律)、論蔵 (解説) の「三蔵」にまとめられた (図 1)。

「三蔵」はパーリ語に翻訳され、紀元後保守的な「個人の悟り」として上座部仏教となり、スリランカ、ビルマ、タイなどに伝来した。これは南伝仏教ともいわれる。

一方、「三蔵」はサンスクリット語に翻訳され、進歩的な在家仏教者が「衆生の救い」を信仰の基本として、保守的な上座部仏教から独立し、般若経、華嚴経、維摩経などを作成し、菩薩団が大乗経典を成立させた。以後、B.C. 3 世紀にパキスタン、B.C. 1 世紀~A.D. 1 世紀に漢訳されて中国、A.D. 4 世紀に朝鮮、A.D. 538 年に日本へ大乗仏教 (北伝仏教) として伝来した。(J.O.)

##### 2) 仏教における愛と慈悲の意義<sup>22~25)</sup>

###### A) 愛

「愛」は「慈悲」と同類の言葉であるが、両者は異なる性格をもつ。愛の典型的なものとして恋愛、性愛などがあるが欲を伴っている。インドでは恋愛も欲望も共に kāma という語で表現されていて両者の間に差はない。

恋愛は、人間の生理的状態と共に変化し、或る年齢に達するまで、そのことがなく、青春時代に最高となり、或る年齢から以後恋愛から遠ざかる。したがって全生涯を通じて見られる現象ではない。恋愛は相手に独占欲を強くもっていて、もしも愛している相手に裏切られると激しい憎しみに転ずることがある。愛は憎しみと背中合わせであり、いかなる愛もその中に憎しみを可能性として蔵している。愛が深ければ深いほど、憎しみの可能性も大きくなる。それは愛は本質的に自己を愛することを中心としているからである。

愛は働く範囲が<sup>うと</sup>疎い者より親しい者に働く。自分の次に家族、次に友人、組織の人間、同郷人を愛し、さらに広げると世界の人々を愛するというのは最後の理想であろう。

###### B) 慈悲

慈悲は愛憎の対立を超えた絶対の愛で、人を憎むということがない。したがって相手を傷つけることはない。自分の心の中で愛のみを生かし、憎しみを与えないようコントロールしている。慈悲は愛が純粋化されたもので、母が子に抱く愛情のうちに認められる。

<sup>注2)</sup> ブッダ (Buddha) : 中村 元説によると、北方伝説ではブッダの説法は B.C. 約 428~383 年にわたって行われたという (ブッダは 35 歳で悟りを開き 80 歳で死去したという説がある)。

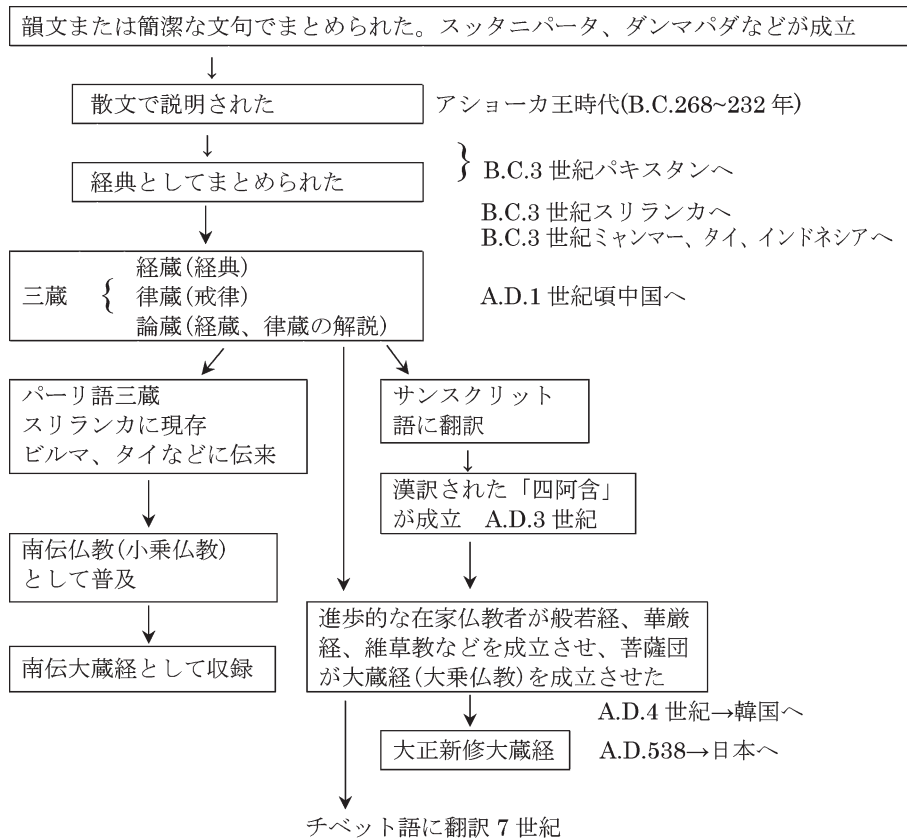


図1 ゴータマ・ブッダ\*の説法<sup>21,25)</sup>

\*ゴータマ・ブッダ：北方伝道によると、彼の説法はB.C.約428～383年にわたって行われた<sup>19)</sup>という。  
 図1は中村 元訳：ブッダのことは〔スッタニパータ, Suttanipāta (たていと, 経の集成の意)], 岩波書店 (1991), p. 437の図に加筆した。

慈悲の“慈”は「真実の友愛, 他人に樂を与える純粋な友情」を, “悲”は「生きとし生けるものの不利益と苦を除去しようと欲すること」と, 解釈されている。慈悲と喜(他者を幸福にする喜), 捨(すべてのとらわれを捨てること)の4つの心〔慈悲喜捨〕が無限なことを「四無量心」と称し, 仏教の徳目を構成する。

### 3) 仏教の原始聖典における愛と慈悲

ブッダが生前行った教えは, 前述のように専ら口承によって伝達され, 記憶しやすいよう詩句の形にまとめられた。その最も古い三書として, パーリ語で書かれたスッタニパータ (Suttanipāta), ダンマパダ (Dhammapada), ウダーナバルガ (Udānavarga) がある。これら三書のなかに愛と慈悲についての教えが書かれている。いずれも中村 元訳がある。

#### (1) スッタニパータ<sup>21)</sup>

「スッタ」とは「たていと」, 「経」の意味であり, 「ニパータ」は集成の意である。全8章1149詩句のうち, 愛についての4詩句を抜粋して示した(表3)。36, 337節には愛情が生ずると苦しみ, 禍が生ずることが書かれている。慈

悲については149, 150節には母が子にもつ心が慈しみで, 全世界に対し, あらゆる方向に障害, 怨み, 敵意のない慈しみの心で行うよう説いている。

#### (2) ダンマパダ<sup>25)</sup>

ダンマパダはパーリ語で書かれた仏典のうちで最も有名なものと思われ, パーリ語の大蔵経のうちに収められ, 南方仏教として南方アジア諸国に伝わっている。短い詩集で423詩句よりなり, 全体は26章に分かれている。この仏典は漢訳され「法句経」として有名である。「ダンマ」とは「法」と訳され, 「パダ」は「ことば」という意味で「真理のことば」と訳されている。

ダンマパダにおける第16章の愛の記載は, 愛すると憂いや恐れが生ずる。愛から離れたならば憂いや恐れは生じないから愛を恐れる必要はないと説いている(表4)。妄執<sup>もうしゅう</sup>とは迷いによる執着のことである。第24章の愛執<sup>あいしゅう</sup>の詩句334, 335では愛(愛欲)をなすがままにすると憂いが増大すると説き, 詩句355では享樂に執着すると愚者は他人を害するように自分をも害するようになるという。



表 3 スッタニパータ<sup>21)</sup>における愛、慈悲の詩句（抜粋）

第1 蛇の章 3. 犀の角	
36	交わりをしたならば、愛情が生ずる。愛情にしたがってこの苦しみが起こる。愛情から禍の生ずることを観察して、犀の角のようにただ独り進め。
149	あたかも母が己の独り子に命を懸けても護るように、一切の生きとし生ける者どもに対して無量（慈しみの）の心を起こすべし。
150	また全世界に対して無量の慈しみの心を起こすべし。上に、下に、また横に、障害なく怨みなく、敵意なき慈しみを行うべし。
第2 小なる章 10. 精励	
337	愛すべく喜ばしい吾欲の対象を捨てて、信仰心によって海を渡る。勤勉によって苦しみを終滅せしめる者であれ。

表 4 ダンマパダ<sup>25)</sup>における愛の詩句（抜粋）

第16章 愛するもの（209～234 詩句）	
212	愛するものから憂いが生じ、愛するものから恐れが生ずる、愛するものを離れたならば、憂いは存在しない。どうして恐れることがあろうか？
213	愛情から憂いが生じ、愛情から恐れが生ずる。愛情を離れたならば憂いが存在しない。どうして恐れることがあろうか？
214	快樂から憂いが生じ、快樂から恐れが生じる。快樂を離れたならば憂いが存在しない。どうして恐れることがあろうか？
215	欲情から憂いが生じ、欲情から恐れが生ずる。欲情を離れたならば憂いが存在しない。どうして恐れることがあろうか？
216	妄執から憂いが生じ、妄執から恐れが生ずる。妄執を離れたならば憂いが存在しない。どうして恐れることがあろうか？
第24章 愛執（334～359 詩句）	
334	恣 <small>ほしほま</small> のふるまいをする人には愛執 <small>あひしやう</small> が蔓草 <small>つたぐさ</small> のようにはびこる。林のなかで猿が果実 <small>ここのみ</small> を探し求めるように（この世からかの世へと）あちこちにさまよう。
335	この世において執着のもとであるこのうずく愛欲のなすがままである人は、もろもろの憂いが増大する。……雨が降ったあとにはビーラナ草がはびこるように。
342	愛欲に駆り立てられた人々は、わなにかかった兎のように、ばたばたする。束縛の絆にしばられ執着になずみ、永いあいだくりかえし苦悩を受ける。
354	教えを説いて与えることはすべての贈与にまさり、教えの妙味はすべての味にまさり、教えを受ける楽しみはすべての楽しみにまさる。妄執をほろぼすことはすべての苦しみにうち勝つ。
355	彼岸にわたることを求める人々は享楽に害われることがない。愚人は享楽のために害われるが、享楽を妄執するがゆえに、愚者は他人を害うように自分をも害う。

(3) ウダーナヴァルガ<sup>25)</sup>

「ウダーナ」とは、ブッダが「感興（興味）を催したとき表明されたことば」の意味で、「ヴァルガ」は「集まり」を意味する。その内容は「ダンマパダ」、「スッタニパータ」などから対応する諸々の詩句を集めたものである。中村元訳の「ウダーナヴァルガ」は、ベルンハルト出版本を翻訳したもので、本書は33章、979詩句よりなる。第2章愛欲、第3章愛執、第5章愛するものから7詩句を選んで表5に示した。いずれも〈愛による憂いを避けるために愛

欲を捨て、愛するものをつくるな〉と説く。(J.O.)

V. キリスト教の愛と仏教の愛・慈悲の比較

1. キリスト教の愛

増谷<sup>26)</sup>は、『キリスト教における「愛」の実践は、一口にこれをいえば、神の愛の模倣として行われる。それは、人間的、動物的な愛を、いかに純粋にし、いかに高めたからとて、到底、いたり及ぶことのできぬものと考えられる。ゆえに、人間的愛が「エロース」と呼ばれるのにたいして、

表 5 ウターナバルガ<sup>25)</sup>における愛の詩句 (抜粋)

第2章 愛欲	
1	愛欲よ。わたしは汝の本（もと）を知っている。愛欲よ。汝は思いから生じる。わたしは汝のことを思わないであろう。そうすれば、わたしにとって汝はもはや現れないであろう。
12	もしも一切の安楽を受けようと欲するならば、一切の愛欲を捨てねばならぬ。一切の愛欲を捨てた人は、実り窮（きわま）り無い楽しみを受けて、栄えるであろう。
14	欲望によっては満足することがないから、明らかな知恵をもって満足するほうが勝れている。明らかな知恵をもって満足した人を、愛執が支配することはできない。
第3章 愛執（あいしゅう）	
13	しかしこの世でその愛執を捨てて、移りかわる生存に対する愛執を離れたならば、その人はもはや輪廻しない。その人には愛執が存在しないからである。
18	愛執は苦しみの起る根源である。この危ない患いを知って、愛欲を離れ、執着して取ることなく、修行僧は気をつけながら遍歴すべきである。
第5章 愛するもの	
3	世間の憂いと悲しみ、また苦しみはいろいろである。愛するものに由って、ここにこの一切が存在しているのである。愛するものが存在しないならば、このようなことは決して有り得ないであろう。
4	それ故に、愛するものがいかなるかたちでも決して存在しない人々は、憂いを離れていて、楽しい。それ故に、憂いのない境地を求めるならば、命あるものどもの世に、愛するものをつくるな。

神的愛は、「アガペー」と名づけられる。それは、愛の種類を異にするものと考えられているのである。』と述べている。

新約聖書は、イエス・キリストを通して与えられる神と人間との決定的な出会いと、各人にとってその意義を物語る書である。

新約聖書、マタイによる福音書にあるように、①「第一の掟は、神である主を愛しなさい。」、②「第二の掟は、隣人を自分のように愛しなさい。」とあり、また「敵を愛しなさい。」と説いている。コリントの信徒への手紙一 13章は、一般に愛の讃歌といわれている。③愛の説明が15項目にわたって書かれている（表2）。

一般に、現在の通俗文芸の中で理解されている愛の理念からみると、通俗の愛は、愛他的であるよりも、自己中心の利己的愛である。現世では、愛が崩壊し、愛が欠如することがある。しかし、キリスト教では、憎しみを生活から除き去ることができるのは「愛」で、「愛」によって憎しみを征服できると説く。イエスの言葉「敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にいなさい。」（ルカによる福音書6:27）（表2）は、多くの人々を憎しみの呪縛からの解放を導いて来た。

キリスト教の愛は、「アガペー」、純粋な愛他的愛、無私的愛である（表6）。（K.M., J.O.）

## 2. 仏教の愛と慈悲

仏教では、憎しみのある愛と憎しみのない慈悲が説かれる。愛は表面の美しさが見うけられるのに対し、裏面には憎しみがあり、愛が強ければ強いほど、一度愛が破れると憎しみも激しくなり、死をもたらすことすらある。

仏陀（ブツダ）が生前、愛から生ずる憎しみを除去する方法について語った言葉は、パーリ語に翻訳され、「南伝大蔵経」の小部經典第5部に収められている「スッタニパータ（經典集）」<sup>21)</sup>の第36詩句に「交わりをしたならば愛情が生ずる。愛情に従って苦しみが起こる。愛情から禍の生ずることを観察して、犀に角が一本しかないように他人に煩わされることなく、ただ一人でも自分の確信に従って暮らすようにせよ。」とある（表3）。「交わり」とは会うこと、声を聞くこと、身体に触れること、会話、享樂の5種類と解釈されている。握手もいけないことになる。また「ダンマパダ（真理のことば）」<sup>25)</sup>は小部經典（第一部）に「法句教」として収載されている。愛の詩句212（表4）には「愛する者から憂いが、恐れが生ずるが、愛する者から離れたら憂いは存在しなくなる。どうして恐れることがあろうか。」と書かれ、同様の詩句が続く。ウターナバルガ（感興のことば）の詩句第2章愛欲1（表5）に示されたように、「愛欲は、汝は思いから生ずるので、これから汝のことを思わないようにする。」とある。

表 6 通俗愛, キリスト教の愛と, 仏教の愛・慈悲の比較<sup>26)</sup>

愛 (表)	憎しみ (裏)
A. 通俗的, 自己中心の利己的愛	→ 愛が激しければ激しいほど相手と別れた時, 憎しみは激しくなり, 死をもたらすこともある.
B. キリスト教の愛 神, イエス・キリストと人間との間の契約であり, 教えであり, 戒めである. キリスト教の愛は純粋な愛他的愛, 無私の特種な愛である. 通俗的愛は殆ど語られない.	→ 愛の実践は, キリストの愛を模倣として行われる. キリストの愛では, 憎しみは生まれない. 「敵を愛し, あなたがたを憎む者に親切にきなさい。」は, 憎しみからの解放をもたらす力を有する.
C. 仏教の愛・慈悲	
a. 愛 通俗的愛を否定 仏陀は生前, 自己中心の利己的愛 (通俗愛) を排除するよう, 多くの教え (真理のことは*など) を言い残した.	→ 通俗的愛では憎しみを生ずる
b. 慈悲 “慈”は〈真実で純粋な友情を与えること, “悲”は不利益と苦を除去しようとする〉を意味する. “慈悲”とは哀れに思い, 深い愛情をもって相手を救いたいと思う無私の心をいう. 仏教の根幹である.	→ 慈悲から憎しみは生じない

\*ダンマパダ (Dhammapada)

仏教では, 愛の言葉の裏面には憎しみがあることから, 憎しみのない慈悲 (mercy) という言葉を用いることになった. 仏教では, 通俗的愛については憎しみを生ずるので, 通俗的愛から離れるように説き, 憎しみを生じない慈悲を仏教の根幹にすえている (表 6). (J.O.)

## VI. 愛を実践した人々

### 1. 日本薬学会の巨星・石館守三 (1901~96)

1901年青森市に, 喜久造, みきの三男として生まれた. 1925年3月東京帝国大学医学部薬学科卒業. 強心剤ピタカンファー<sup>29)</sup>, ハンセン病の特効薬プロミンの創製<sup>30,31)</sup>, 国立衛生試験所に蒞かれた癌研究の種<sup>28)</sup>, SMON (スモン病)・キノホルム販売禁止の英断<sup>28)</sup>, 日本薬剤師会長として医薬分業に貢献<sup>28)</sup>, アジア薬剤師連合学術大会 (FAPA) への貢献<sup>28)</sup>, 病めるアジアの民衆のためにキリスト教医療協会の創設等<sup>27-32)</sup>, まさに薬学の巨星と称せられるに相応しい生涯<sup>27,28)</sup> を, 1996年7月18日終えられた.

石館博士の自伝「はまなすのこみち—私の歩んだ道—」の巻頭には, 自筆で, 「愛はすべてを完成する (Love conquers all) 守三」と明記されている<sup>29)</sup>. コロサイの信徒への手紙3章14節の言葉の一部 (表2アンダーライン) であり, 博士の愛称聖句であったと考えられる.

日野原重明博士は, 弔辞の中で, 『石館守三先生は家族によるこの上ない愛のケアを神様からの賜物として感謝して受けつつ, 学生時代からの先生のもっとも愛称する新約聖書ヨハネによる福音書 (14章6節) 「私は道であり, 真

理であり, 命である. 私を通らなければ, だれも父のもとに行くことができない.』の言葉をそのまま実践されてキリストをつかわされた神様のもとにいかれたと信じます.』と述べた<sup>32)</sup>.

### 2. いのちをみつめて生きた文化勲章受賞ドクター・日野原重明 (1911~2017)

1911年山口県に生まれる. 京都大学医学部卒業, 同大学院修了. のちにアメリカのエモリー大学に留学. 聖路加国際病院の内科医, 医長を経て, 同病院理事長, 名誉院長. 1973年, ライフ・プランニング・センター創設. 長年の医療活動や, 医学教育・看護教育に貢献したことが認められ2005年文化勲章を受章した<sup>33,34)</sup>.

日野原先生は, 「たった一度の人生だから」<sup>34)</sup>の星野富弘氏との対談の中で, 『私は父が牧師でしたから, 聖書を読むことを子どもの時から教わりました. 私の心にいちばん残っているのが, 小学校一年生か二年生のクリスマスに暗唱したコリント人への手紙第一の十三章です. その中でも, 「最も大切なものは愛である.」という言葉 (表2アンダーライン). 子どもの時に覚えたこれらの聖書の言葉がずっとのちまで私を導いてくれました.』と語っている.

2005年刊行の「わたしが経験した魂のストーリー」<sup>33)</sup>で, 『わたしは五十八年にわたる長い医師としての生活の中で, 多くの患者さんやその家族から身体的な苦痛やこころの悩みを打ち明けられました. 自分がもっとも不幸だと思われる人でも, これらの患者の痛々しい経験を聞きますと, まだまだ自分は底ではないという感じをお持ちになるのでは

ないかと思えます。』、また、『癌で子供を失った人、あるいはもう治らない膀胱がんの末期の患者さんに何らかの力を与えられるのではないのでしょうか。患者さんたちにとっては、苦しみながらも光を求めて最後まで生き続けた人の話はそれを聴くだけでも励ましになるのです。もっといいことは、その人が自分のそばに座って、手を握ってくれることです。そうすれば、重荷と恐ろしさ、苦しさが軽減します。薬では解消されない痛みを和らげ、その人がいのちを全うすることが出来るように助けるのです。』と述べている。

「75歳を過ぎてから第三の人生が始まる。今までしたことのないことをやってみよう。」、「いのちの授業」を通して、「いのちとは、あなたの持ち時間です。どう、じぶんらしく使いますか?」と問い続けて<sup>35)</sup>、2017年7月18日105歳の生涯を終えた。(K.M.)

### 3. 道元(1200~1253、鎌倉前期)と愛語<sup>36~38)</sup>

日本の曹洞宗の開祖で、「正法眼蔵」を22年間にわたって執筆した。

道元は1200(正治2)年京都で生まれ、1212(建暦2)年、比叡山延暦寺で修行、ついで建仁寺に栄西を訪ね、同寺の明全と1223(貞応2)年宋へ行く。

1225(嘉禄元)年、25歳で宋の天童山(浙江省)で如浄に参して法統を受け継ぎ、帰国し、日本に曹洞宗を伝えた。1233(天福元)年、33歳の折京都深草に興聖寺を建立、「正法眼蔵」の執筆を始める。

「正法眼蔵」とは禅で、仏法の神髄のことをいう。「正法」とは正しい仏の教え、「眼蔵」とは、眼はあらゆるものを照らし、蔵はあらゆるものを包むという意味である。道元はその45巻に「菩提薩埵四攝法」を執筆した。

「菩提」とは真理、「薩埵」とは真理を求める人のことで、それには「四攝法(四つの徳)」が書かれ、(1)布施(与えること)、(2)愛語(やさしい言葉をかけること)、(3)利行(人のために自分を忘れて尽くすこと)、(4)同事(助け合って生きること)が必要であると説いた。

1244(寛元2)年大仏寺(後に永平寺と改名、越前)を建立し、1253(建長5)年病中「正法眼蔵」の最後の巻「八大人覺」を執筆、病氣療養のため京都へ行き、8月28日に入寂した。遺骨は永平寺に葬られた。

自筆の「正法眼蔵山水経」は全久院(愛知・豊橋市)に、「正法眼蔵仏性」は永平寺に重要文化財として保管されている<sup>39)</sup>。

### 4. 慈悲の人・良寛(1758(宝暦8)年~1831(天保2)年、江戸後期~同末期)<sup>40~42)</sup>

2018年10月27日日本薬史学会年会(年会長 新潟薬科

大学学長 寺田 弘先生)が新潟市で開催され、新潟大学名誉教授櫻井浩治先生による特別講演「良寛さんに学ぶ一心身医学の立場から」が行われ、翌日の薬史ツアーでは、櫻井先生がガイドを務められ、良寛さんゆかりの史跡を訪れた。

これらを通じ、良寛の生存中に度々信濃川の大水害があり、半年近く雪が降り、日本海の荒波と、佐渡からの冷たい北風により住民が苦しむ中であって、良寛はやさしく住民に接し、子供たちと仲良く手毬つきして遊んだ心根を偲んだ。

良寛は1758(宝暦8)年、越後(新潟)の佐渡を望む日本海岸、出雲崎の名主山本家に生まれた。父以南は近くの与板の出身、母秀子は佐渡相川の出身であった。1775(安永4)年17歳で光照寺で剃髪、1779(安永8)年21歳の時、国仙和尚に従い得度、良寛と名乗り、備中玉島(岡山倉敷の近く)の曹洞宗円通寺に赴き、曹洞禅を修行する。

1796(寛政8)年38歳の時越後に帰り、国上山の五合庵を中心に空庵を転々とし、一所不定の生活をした。1826(文政9)年68歳の折、島崎家の邸内庵に移住。1827(文政10)年69歳の時、29歳の法弟貞心尼が良寛を訪れ和歌の交流があった。1830(天保元)年72歳の時、病(直腸ガン?)に罹り、翌1831(天保2)年1月73歳で示寂。このような生涯を送った良寛は、どのようにしてやさしい心をもつようになったかの理由として、

- 1) 生来春風のような温かい心の持ち主で、その慈悲の心が住人、子供の心をつかんだ。
- 2) 21歳から38歳まで曹洞宗円通寺で曹洞禅を修行した。そこで上述の道元の「正法眼蔵四攝法」を学び、布施、愛語、利行、同事の心を身につけたと思われる。良寛は頭陀袋にいつも手毬をしのばせていたといわれる。
- 3) 良寛は漢詩、和歌、書道に秀でた禅僧であった。などが考えられる。

良寛が残した多くの歌から筆者が3首を選んだ。

- この里に手まりつきつつ子どもらと、遊ぶ春日は暮れずともよし
- いざ子ども山べに行かん桜見に、明日ともいはば散りもこそせめ
- 形見とて何か残さむ春は花、夏ほととぎす、秋はもみじ葉

(J.O.)

## VII. おわりに

著者森本 (K.M.) は、50 年間キリスト教徒としての歩みを重ね、40 年余、成人科の聖書教師を担当してきた<sup>43)</sup>。

森本は、ここ十年余 (2009~2018 年)「若い学生に期待するもの：使命感と責任感の醸成」のタイトルで 5 医療系大学 (岐阜薬科大学、名城大学薬学部、京都大学医学部 I.Z.M. (Every Intention in the Zenith of Medicine) 総会、長崎大学医学部原研大学院、昭和薬科大学) や東日本矯正医療センター准看護師養成所で講義や講演を重ねてきた。その中で、フランシス・ケルシー博士、石館守三博士、コフィ・アナン元国連事務総長等の生き方から、医療関係者として患者に接する際には、使命感と責任感がいかに大切かを教えて来た<sup>28,30,44,45)</sup>。

講義後のレポートで残した 1 人の学生の言葉<sup>28)</sup>を紹介して終わりとして、「私は、今回の講義で一番、石館守三博士の言葉が心に残った。互いに自主的に責任を分担しつつ」というところが、奥が深いと感じた。現在の日本は、一人に責任を押し付けようという傾向にあると思う。しかし医療の現場では、ひとりにすべてを任せて、責任を押し付けるのではなく、何人ものが、たび重なる確認をして、ミスを防ぐ。そうすれば自然と責任の分担をしていることと同じことになるということではないかと考えた。この考え方は、講義を聞くまで全く考えたことがなかった。そうした心構えで、何人かが確認することによって、患者さんの安心も得られることを学んだ。」

学生が感銘を受けた、「互いに自主的に責任を分担しつつ」は、イエスの言葉「互いに愛しなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」(ヨハネの福音書 13: 34) (表 2 アンダーライン) であり、石館が人生の糧としていた言葉と考えられる<sup>29)</sup>。(K.M.)

一方、筆者奥田 (J.O.) は、薬師如来 (像) の研究を通じて、25 年間仏教の慈悲の考えに触れる機会が多くあった。しかし、仏教徒ではないが、仏教の研究者である。今回、本論文を執筆するために聖書を読み、キリストの愛についても理解することに努めた。

最後に愛について広い立場で考えるべき 2 点について述べる。

1) 世界の宗教を信者の多い順に並べると、キリスト教>イスラム教>ヒンドゥー教>中国民間宗教 (儒教、道教など)>仏教>ユダヤ教の順になる<sup>1)</sup>。

今後外国人が来日し、働く人々が増加する傾向にある。宗教はそれを信ずる人にとって絶対的な意味をもち、医療現場においても宗教の違いにより、輸血などについて問題が生ずる。薬剤師は、宗教別に“愛”の意義を知っておく必要がある。

2) 学問は四大項目である自然科学、人文科学、社会科学、文化芸術から成るが、愛はそれらの中項目にもない。人文科学の中項目である宗教や、心理学のなかで小項目として“愛”がやっと論じられている。さらに愛は人文科学の哲学、倫理学、歴史学の小項目にもなり、社会科学の中項目である社会学、政治学、法学、教育学などの重要な小項目となる。その他、文化芸術の中項目である文学、音楽学、美術学、映画学、写真学の小項目でもある。

そこで、本論文 III で述べたように、“愛”は総合人間科学 (Integrated human science) という大項目を立て、“愛”を中項目として総合的に討議し、今後理解すべきであると考える。

今後、薬剤師は“薬学への愛 (本文 III-A-3)”を考えると共に、愛はこのように広い範囲の言葉であることを意識して、医療の現場で患者のために働いていただきたい。

なお、宗教について初歩的に学びたい方は、文献<sup>46)</sup>を参照して欲しい。(J.O.)

## 謝 辞

英文要旨の作成について御援助いただいた名城大学薬学部 Mark Rebeck 准教授に厚く御礼申し上げます。

## COI の表明

筆者は、本稿に関して表明すべき COI (利益相反) はない。

## 引用文献

- 1) 奥田 潤. 人文社会薬学 1. 宗教薬学. 薬史学雑誌, 2017; 52 (1): 71-83
- 2) 奥田 潤. 有史以前の医薬学. In: 奥田 潤, 西川 隆 (編). 薬学史事典. 薬事日報社, 2016. p. 607
- 3) 宮本久雄. 愛. In: 広松 涉ほか (編). 哲学・思想事典. 岩波書店, 1998. p. 1-3
- 4) 石谷二郎. 愛. In: 思想の科学研究会 (編). 新版哲学論理用語事典. 三一書房, 2015. p. 15
- 5) Sternberg RJ. A triangular theory of love. *Psychological Review*. 1986; 93: 119-35
- 6) 金政裕司. 愛とは何か. In: 無藤 隆ら (編). よくわかる心理学. ミネルヴァ書房, 2007. p. 106
- 7) 今崎秀一. キリスト教における愛の理念. 桃山学院大キリス

- ト教論集. 1970. p. 75-93
- 8) 中村 元. 仏教語大辞典 (15 版). 東京書籍, 2008. p. 573
  - 9) 聖書辞典. 新教出版社, 1987
  - 10) 日本聖書協会. 聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき. 1993
  - 11) 新エッセンシャル聖書コンコーダンス. いのちのことば社, 2006
  - 12) The HOLY BIBLE English Standard Version Containing the OLD and NEW TESTAMENTS, CROSSAY BIBLES, A Division of Good News Publishers, Wheaton, ILLINOIS, 2002
  - 13) フランシス・ブランケンベーカー. イラスト早わかり聖書ガイドブック. いのちのことば社, 2005
  - 14) Bromiley GW. Theological Dictionary of the New Testament edited by Gerhard Kittel and Gerhard Friedrich translated by Geoffrey W. Bromiley, Abridged in one volume by Geoffrey W. Bromiley. William B. Eerdmans Publishing Company, Stuttgart, Germany : The Paternoster Press, 1985
  - 15) 織田 昭. 新約聖書ギリシャ語小辞典. 教文館, 2002
  - 16) 桑原真美. アガペー・エロース・フィリア. In: 愛の探究 (片倉 望編). 三重大学出版会, 2017. p. 73-84
  - 17) 相澤康隆. アリストテレスの友愛論. In: 愛の探究 (片倉 望編). 三重大学出版会, 2017. p. 57-72
  - 18) 奥田 潤. 中世ヨーロッパにおける“薬剤師としてのキリスト画”. 薬史学雑誌. 2001 ; 26 (2) : 175-9
  - 19) 奥田 潤. 薬剤師としてのキリスト画. In: 薬学史事典 (奥田 潤, 西川 隆編). 薬事日報社, 2016. p. 653
  - 20) 奥山直司. 2. 仏教. In: 宗教の事典 (山折哲雄監修). 朝倉書店, 2012. p. 26-63
  - 21) 中村 元訳. ブッダのことば—スッタニパーター. 岩波書店, 1991. p. 437
  - 22) 中村 元. 愛. 仏教思想研究会編 (代表中村 元). 仏教思想 1. 平楽寺書店, 1975
  - 23) 中村 元. 慈悲. 平楽寺書店, 1973
  - 24) 田路 慧. 愛と慈悲. 仏教思想における「愛」の諸相. 岡山県立大学短期大学研究紀要第六巻. 1999. p. 1-15
  - 25) 中村 元訳. ブッダの真理のことば (ダンマパダ). 感興のことば (ウダーナヴァルガ). 岩波書店, 1978
  - 26) 増谷文雄. 仏教とキリスト教の比較研究. 筑摩書房, 1972. p. 246
  - 27) 蝦名賢造. 石館守三伝—勇ましい高尚なる生涯. 新評論, 1997. p. 1-101
  - 28) 森本和滋. 勇ましい高尚な生涯 石館守三博士—没後 20 年, 生誕 115 年. 薬史学雑誌. 2016 ; 51 (1) : 1-4
  - 29) 石館守三. はまなすのこみち—私の歩んだ道—. 非売品. 廣川書店, 1988. p. 1-101
  - 30) 森本和滋. 宮田直樹. 文献と証言から石館守三博士のプロミン合成法を探る. 薬史学雑誌. 2018 ; 53 (1) : 19-28
  - 31) 山田光男. 石館守三—ハンセン病撲滅から薬学を目指す— In: 奥田 潤, 西川 隆 (編). 薬学史辞典. 薬事日報社, 2016. p. 329, 330
  - 32) 北原和夫. 同志会百年史—基督教学生寮百有余年の歩み—. 同志会, 2009. p. 94
  - 33) 日野原重明. わたしが経験した魂のストーリー. キリスト教視聴覚センター, 2005. p. 43, 174-5
  - 34) 日野原重明, 星野富弘. たった一度の人生だから. いのちのことば社, 2006. p. 69-70
  - 35) 日野原重明. いのちと平和の話をしよう. 朝日新聞出版, 2015
  - 36) 中村 元ほか編. 道元. In: 仏教辞典. 卷末中国主要仏教遺跡図. 岩波書店, 1989. p. 605, 606.
  - 37) 正法眼蔵本山縮刷版. 鴻盟社, 1952.
  - 38) 酒井大岳. 正法眼蔵の愛語に学ぶ. あさお社, 1986
  - 39) 文化庁. 正法眼蔵. In: 国宝・重要文化財大全. 書跡上巻. 毎日新聞社, 1998. p. 674.
  - 40) 中村 元ほか編著. In: 仏教辞典. 1989. p. 833
  - 41) 櫻井浩治. 乞食こつじきの歌. 考古堂書店, 2006
  - 42) 吉野秀雄. 良寛和尚の人と歌. 弥生書房, 1972
  - 43) 森本和滋. 「贖い」について. 聖書と精神医療. 2016 ; 35 : 82-91
  - 44) 森本和滋. 使命感と責任感の醸成の視点からみた新制薬系大学における薬学倫理教育の歩みとこれから. 薬史学雑誌. 2012 ; 47 (1) : 31-43
  - 45) 森本和滋. フランシス ケルシー博士 (Frances O. Kelsey, MD, PhD) の生涯から教えられるもの : 若き時代に醸成された使命感と責任感. 薬史学雑誌. 2017 ; 52 (1) : 21-9
  - 46) 塩尻和子, 津城寛文, 吉永千鶴子 (編著). 図解宗教史. 成美堂出版, 2008

## Summary

In this report, popular love, love in Christianity, and mercy in Buddhism were studied and compared.

1. Popular love : Self-first love. When there is disappointment in the love shown, the deeper the love is, the more violent the hatred shown ; leading to death on rare occasion.
2. Love in Christianity : Christianity is a connection between God, Jesus Christ, and a person. Love in Christianity is expressed by the words of Jesus Christ, "You shall love the Lord your God with all your heart and with all your soul and with all your mind. This is the great and first commandment." (Mathew 22 : 37-38). He also said, "And a second is like it. You shall love your neighbor as yourself." (Matthew 22 : 39)
3. Mercy in Buddhism : In Buddhism, popular love is not recommended, because popular love includes hate as a part of love. However, mercy is the basis of Buddhism and contains the qualities of affection, compassion and sympathy.

For patients, pharmacists should know each original meaning of popular love, love in Christianity, and mercy in Buddhism.

Key words : Love in Christianity, Mercy in Buddhism, Pharmacist Activities, Love and Mercy for Patients, Popular Love and Self-first Love

本邦北限と南限の薬師如来像<sup>\*1</sup>奥 田 潤<sup>\*2,\*3</sup>Northernmost and Southernmost Statues of Yakushi Buddha<sup>\*4</sup> in Japan<sup>\*1</sup>Jun Okuda<sup>\*2,\*3</sup>

(Accepted April 2, 2019)

## I. はしがき

薬師如来の経典はインドで作られたが、唐の玄奘<sup>げんじょう</sup>（602～664 A.D.）が訳した「薬師瑠璃光如来本願経一卷」の中に、薬師如来が発した「十二大所願」があり、第六願に「諸根具足」、第七願に「除病安楽」を掲げている。

日本には仏像としての薬師如来像は、国宝 14 像を含め重要文化財（重文）だけでも 290 像近くあり、その約 90% は木造である。不空（705～774 A.D.）が訳した「薬師如来念誦儀軌<sup>ねんじゆぎき</sup>」には「薬師如来像の左手に薬器を持たせる」とあり、それ以後日本では薬師如来像に薬壺をもたせるようになった。しかし、薬壺は通常、壺<sup>かたまり</sup>で容器の形になっておらず、唯一の例外は周防国分寺（山口）の薬師如来像（重文）の薬壺で、その中に生薬などの内容物が入っていて、筆者らが分析して報告した<sup>1-5)</sup>。このように、薬師如来は薬劑師にとってもっとも関係の深い現世利益の仏である。

## II. 本邦北限と南限の薬師如来像の選定基準と方法

今回、北限と南限の薬師如来像の所在と作像年とその意義などを調べた。国宝、重文、県・市・町の文化財の指定を受けた尊像を候補として、未指定の尊像は不明な点が多く調査の対照から除外した。

調査方法は直接訪問、アンケートによる調査のほか、資料 1（新全国寺社仏像ガイド、美術出版、2006 年）と資料

2（文化庁：国宝・重要文化財大全、毎日新聞社、1998～2000 年）により該当尊像を選出した。

選定基準は表 1 に示した。すなわち、第 1 に当該尊像の所在（県・市・町・村名）の地理的位置を地図上に求め、その緯度を概測した。第 2 に尊像の学問的重要度を表 1 の 2 の 1～5 項目について調査した。

尊像が県・市・町指定の文化財である場合、県・市・町の庁舎の教育委員会に文化財保護課があるので、「〇〇県の文化財」という書物から関係部分の写真、説明文をコピーしていただいて他の資料との整合性をはかった。

## III. 本邦北限の薬師如来像

## 1. 北海道地区の仏像の調査

北海道網走支所の報告によると、旭川と北見の中間地点にある白滝からの出土品（細石刃核、舟底形石器など）は 15,820 年前±400 年の旧石器時代のもと考えられることから北海道の歴史が長いことが判明した。その後、本邦人とアイヌ人との接触、北海道南部松前への本邦人の移住があり、1868（明治元）年に明治政府が発足し、1886（明治 19）年になって札幌に北海道庁が設置され、北海道の開発が緒についた<sup>6)</sup>。北海道の開発の遅れは宗教の布教の遅れともなり、北海道の主なる寺院とその尊像は表 2 に示したが薬師如来像はない。

キーワード：本邦北限の薬師如来像、本邦南限の薬師如来像、薬師如来像、虫害、文化財

<sup>\*1</sup> 2019 年 2 月 16 日金城学院大学栄サテライトで行われた日本薬史学会中部支部例会で発表した。

<sup>\*2</sup> 名城大学薬学部名誉教授 *Professor Emeritus of Meijo University, Faculty of Pharmacy, Meijou University*. 150 Yagotoyama, Tempaku-ku, Nagoya, Aichi 468-8503.

<sup>\*3</sup> 日本薬史学会名誉会員 *Honorary member of Japanese Society for History of Pharmacy*. 自宅：〒468-0026 名古屋市天白区土原 3-1110

<sup>\*4</sup> Buddha of healing ともいう。



表 1 本邦北限と南限の薬師如来像の選定基準

1. 地理的条件	当該薬師如来像の所在……緯度
2. 当該薬師如来像の学問的重要度	1) 所蔵寺院・信者 2) 当該薬師如来像の作像年代、作像場所 3) 有形文化財指定の有無 国宝>重要文化財>道・県・市・町指定文化財 (無指定は除外) 4) 周辺の薬師如来像 5) 像形 (1) 左手と願・右手施無畏、法量(像高 cm) (2) 左手に薬器(壺)(不空 705~774 A.D.)の有無 (3) 脇侍:日光菩薩像、月光菩薩像の有無 (4) 眷属:四天王,十二神将の有無

表 2 北海道の仏像\*

高野寺(函館市)	大日如来坐像(重文,推定平安末)
善光寺(伊達市)	釈迦如来立像 聖観音坐像(道指定)
天融寺(恵庭市)	阿弥陀如来像(鎌倉)(道指定)
阿吽寺(松前町)	不動明王(道指定)
光善寺(松前町)	阿弥陀如来像(道指定)
他に阿弥陀如来像(未指定4像)などがあるが、薬師如来像はない	

\*資料1,資料2によった。

## 2. 本邦東北地方の北限の薬師如来像の調査

上述のごとく北海道には薬師如来像は存在せず、北限の薬師如来像は東北地方に存在することが予想された。表3に青森県、秋田県、岩手県の薬師如来像を、表4に宮城県、山形県、福島県の尊像を緯度の高い北から低い南への順に並べた。

1) 北限-1位の尊像:青森県七戸町の山屋薬師如来立像  
本尊像は図1で示したごとく虫害による朽像であり、両手、両足を欠失しているが、緯度がもっとも高く40°42'にあり、眷属である十二神将(三像が残存)も朽像である。本像(桂)の作像年は平安後期(1086~1184年)といわれ、像高三尺の立像で瑞龍寺の所蔵であるが、七戸町教育委員会が七戸町の有形文化財として保護している。最近青山学院大学文学部の浅井和春教授が、本像の作像方法を調べ、その作像年は「南北朝以降の14世紀後半のものである」と鑑定している。今後本像の木質資料が得られ、<sup>14</sup>Cの分析が行われれば、年代の確定ができると考えられる。現在同像は同町西方の山屋の薬師堂に安置されている(資料1~9頁,他文献<sup>7~10)</sup>より)。なお七戸町は青森県太平洋側八戸市から北西約35kmの内陸にある。

2) 北限-2位の尊像:青森県弘前市長勝寺の薬師如来三門本尊

本尊像は図2<sup>11)</sup>で示したごとく166.7cmの立像で青森県教育委員会指定の有形文化財である。位置は青森市より西南に35km近くの距離にある弘前市(緯度は40°35')に

表 3 東北地方の薬師如来像(I)

県名	寺名	市町名	緯度*	像名	像造年	薬壺	像高	脇侍・眷属	指定
青森県	北限-1 瑞龍寺 1558	七戸町	40°42'	山屋薬師如来立像 朽像	平安後期** 室町前中期	両手足 欠失	三尺 90.9cm	十二神将 朽像	町指定
	北限-2 長勝寺 1528→1610	弘前市	40°35'	薬師如来三門本尊	1628年 江戸前期	無	166.7cm	無	県指定
秋田県	北限-3 長楽寺 860	男鹿市	39°52'	薬師如来坐像	1592年 桃山時代	有	81.0cm	有	県指定
	観音寺	横手市	39°18'	薬師如来立像	平安時代	有	69.1cm	不明	県指定
岩手県	市立博物館 (旧万蔵寺)	北上市	39°16'	薬師如来坐像	11世紀 平安後期	有	72.0cm	無	県指定
	黒石寺	奥州市 (水沢)	39°08'	薬師如来(坐)像	862年 平安前期	有	126.0cm	有	重文
	中尊寺	平泉町	39°00'	薬師如来(坐)像 (金色院) 薬師如来(坐)像 (願成就院)	平安時代 平安時代	無 有	266.0cm 273.3cm	無 有	重文 重文

\*概測値 \*\*平安後期説と室町前中期説がある。

表 4 東北地方の薬師如来像 (Ⅱ)

県名	寺名	市町名	緯度*	像名	像造年	薬壺	像高	脇侍・眷属	指定
宮城県	双林寺	栗原市	38° 44'	薬師如来 (坐) 像	平安時代	無	119.4 cm	有	重文
山形県	本山慈恩寺	寒河江市	38° 22'	薬師如来三尊 (坐) 像	1310 年 鎌倉時代	無	69.4 cm	有	重文
	立石寺	山形市	38° 14'	薬師如来坐像	1205 年 平安前期	有	129.7 cm	無	重文
福島県	中善寺	喜多方市	37° 38'	薬師如来 (坐) 像	鎌倉時代	有	87.9 cm	有	重文
	浄泉寺	喜多方市	37° 38'	薬師如来 (坐) 像	平安時代	有	183.3 cm	有	重文
	勝常寺	湯川村	37° 32'	薬師如来三尊像	平安時代	有	141.8 cm	有	国宝

平安時代前期 (794~929), 中期 (930~1085), 後期 (1086~1184), 鎌倉時代前期 (1185~1274), 後期 (1275~1332), 室町時代前期 (1333~1392), 中期 (1393~1466), 後期 (1467~1572), 桃山時代 (1573~1614), 江戸時代前期 (1615~1660), 中期 (1661~1750), 後期 (1751~1829), 末期 (1830~1867).

\*概測値



図 1 北限-1 山屋薬師如来像 (瑞龍寺, 七戸町・青森)

あり, 1628 (江戸前期) 年以前に作像 (寄木) されたものである。本尊像は薬壺を持たない左手が発見されたため, 阿弥陀如来像か釈迦如来像ではないかと憶測されている。筆者が重要文化財 (Important cultural property, ICP, 重文) の木造の薬師如来像 217 像について薬壺を持たない像を調べたところ 26 像 (11.98%) あることが判明した。長勝寺の 166.7 cm の薬師如来三門本尊は薬壺を持たない薬師如来像と考えることもできる。

3) 北限-3 位の尊像: 秋田県男鹿市長楽寺の薬師如来像 男鹿半島の南岸西端近くの船川門前の山の中腹に建つ長楽寺の境内の宝物殿に, 本尊薬師如来坐像 (81.0 cm, 図 3)<sup>12)</sup>, 日光菩薩, 月光菩薩, 十二神将が展示されている。北緯 39° 52' の位置にあり, 秋田県教育委員会指定の有形文化財



図 2 北限-2 薬師如来三門本尊 (長勝寺, 弘前市・青森)

である。本像 (桧) は薬壺を左手に持ち, 1592 (桃山時代) 年につくられている。最近漆箔が施され, 美しい像となっている。

4) 北限の薬師如来 3 像とその他の周辺薬師如来像との関係

表 3, 4 から明らかなように

①北限-1 は緯度が 40° 42' にあり, 七戸町指定の文化財である。

②北緯 40° 35' より 39° 16' の地域に, 北限-2, -3 を含め 4 像の尊像があるが, いずれも県 (青森, 秋田, 岩手) の指定の文化財である。

③その南の 39° 08'~37° 38'までの地域には 8 軀の薬師如来像が存在しているが、すべて重文に指定されている(岩手, 宮城, 山形, 福島県)。

④さらに南の 37° 32'に存在する尊像は、福島の勝常寺の薬師如来像であり国宝に指定されている。

①~④に示したごとく、緯度で東北地方を 4 地域に分けた場合、その文化財の重要度が町指定→県指定→国・重文指定→国宝指定の 4 つに偶然分類された。この分類は、各薬師如来像が設置された平安~室町時代には緯度の知識はないことから、その意義は全くないのかもしれないが、①、②の地域は夏期の虫害を含め冬の気象条件が厳しく、重文の木像を保持することが難しく、重文の薬師如来像がないのかもしれない。③の黒石寺(39° 08')以南に重文が多く、国宝(勝常寺)もあり、東北地方としてこのように、一見整理された配置になっていることは希有なことと考えられる。



図 3 北限-3 薬師如来坐像(長楽寺, 男鹿市・秋田)

#### IV. 本邦南限の薬師如来像

##### 1. 九州地方の薬師如来像

表 5 に示したごとく、福岡県には 5 軀、佐賀県には 3 軀の重文がある。長崎県には薬師如来像は存在しない。おそらくキリスト教が布教された影響であろう(表 6)。大分県には龍岩寺、大善寺に重文の木造薬師如来像各 1 軀があり、いずれも 3m 近くの坐像である。三重町の菅尾磨崖仏として薬壺をもつ薬師如来坐像一軀(174.5 cm)の石仏(重文)があるが、いずれも緯度は高い。

1) 南限-3 位の尊像：熊本県八代市医王寺の薬師如来像  
緯度は 32° 30'の位置にある重文の薬師如来立像は像高 63.0 cm 室町時代の作といわれている。資料 II (彫刻上巻 p.98, 図 4)

2) 南限-2 位の尊像：宮崎県 西都市 木喰五智館の薬師如来坐像

緯度は 32° 06'にある。聖武天皇が 741 (天平 13) 年に「国分寺建立の詔」を發し、国分寺が国ごとに建てられ、日向の国に国分寺が建立されたが、江戸時代に衰退した。その頃木喰上人(1718~1810 年)が訪れ、復興させたが、火災からの復興も成し遂げ、1792 (寛政 4) 年から 2 年かけて 77 歳の時に五智如来像を完成させた。木喰上人とは米穀を絶ち、木実を食した真言宗の僧のことをいう。五智如来像として、釈迦如来像(北)、阿弥陀如来像(西)、大日如来像、薬師如来像(294 cm, 東, 図 5)、宝生如来像(南)はいずれも 3m 近くの坐像が作像された<sup>13)</sup>。日向国分寺跡に木喰五智館がつくられ、五智如来像が展示されている(宮崎県指定有形文化財)。

表 5 九州地方の薬師如来像 (I)

県名	寺名	市町名	緯度*	像名	像造年	薬壺	像高	脇侍・眷属	指定
福岡県	鈴熊寺	吉富町	33° 36'	薬師如来坐像	平安時代	有	87.5 cm	不明	重文
	福岡市美術館	福岡市	33° 35'	薬師如来(立)像	平安時代	有	198.1 cm	有	重文
				薬師如来(坐)像	平安時代	有	87.5 cm		重文
	国分寺	太宰府市	33° 31'	寺伝薬師如来(坐)像	平安時代	無	90.3 cm	無	重文
南湊寺	朝倉市	33° 23'	薬師如来(坐)像	平安時代	有	70.7 cm	有	重文	
佐賀県	東光寺	玄海町	33° 27'	薬師如来(坐)像	平安時代	有	89.1 cm	無	重文
	常福寺	小城市	33° 16'	薬師如来(坐)像	平安時代	有	82.7 cm	十二神将	重文
	蓮巖院	鹿島市	33° 06'	薬師如来(坐)像	平安時代	有	84.8 cm	有	重文

\* 概測値

表 6 九州地方の薬師如来像 (Ⅱ)

県名	寺名	市町名	緯度*	像名	像造年	薬壺	像高	脇侍・眷属	指定
長崎県				(ナシ)					
大分県	龍岩寺	宇佐市	33° 34'	薬師如来 (坐) 像	平安時代	有	303.0cm**	無	重文
	大善寺	宇佐市	33° 34'	薬師如来 (坐) 像	鎌倉時代	有	278.8cm**	無	重文
	菅尾磨崖仏	三重町	32° 58'	薬師如来 (坐) 像	平安時代	有	174.5cm	無	重文
熊本県 南限-3	医王寺	八代市	32° 30'	薬師如来 (立) 像	室町時代	有	63.0cm	無	重文
宮崎県 南限-2 南限-1	木喰五智館	西都市	32° 06'	薬師如来坐像	1793年 江戸後期	有	294.0cm**	無	県指定
	王楽寺	宮崎市	31° 54'	薬師三尊像	鎌倉時代	有	85.5cm	有	重文
鹿児島県 沖縄県				(ナシ) (ナシ)					

\* 概測値 \*\* 大坐像



図 4 南限-3 薬師如来立像 (医王寺, 八代市・熊本)



図 5 南限-2 薬師如来坐像 (木喰五智館, 西都市・宮崎)

3) 南限-1 位の尊像：宮崎県宮崎市<sup>おうらくじ</sup>王楽寺の薬師三尊像  
鎌倉時代の作像で、竹篠山にある王楽寺 (31° 54') に薬  
壺を持つ薬師如来像 (85.5cm) が脇侍である日光菩薩・  
月光菩薩像と揃って重文の指定を受けている (図 6)。  
十二神将も備えられている。王楽寺は、最澄が 805 (延暦  
24) 年帰国後天台宗を開き、九州を巡錫中に開山したとい  
われている。1830 (文政 30) 年の火災や廃仏毀釈の法難  
により 1871 (明治 7) 年に一時廃寺となったが、三尊像は  
守られ、寺院は 1883 (明治 16) 年に再建された<sup>14)</sup>。

王楽寺より南の鹿児島県、沖縄県には薬師如来像は存在  
しない (表 7)。

鹿児島県では激しい廃仏毀釈のため仏像が少ない。

また、九州には国宝の薬師如来像は存在せず、国宝の尊  
像を拝観するためには奈良、京都まで訪れる必要がある<sup>1)</sup>。

## V. 考 察

日本の最北端北海道には薬師如来像はない。開発が遅れ、  
明治政府が 1868 (明治元) 年にできてから、20 年近く経  
て 1886 (明治 19) 年に札幌に北海道庁が設置された。北  
海道には薬科大学が 3 校あるので、薬学生が薬師如来像の  
存在を知らない学生が多いのではと危惧される<sup>15)</sup>。

本州北限の薬師如来像を探したところ、北限-1 の尊像  
は青森県七戸町指定の有形文化財 (山屋薬師如来像) であ  
ることが明らかになった。この尊像は両手、両足が欠失し  
た朽像で、眷属である十二神将も朽像であり、1990 (平成 2)  
年に七戸町教育委員会によって文化財として指定されて、  
さらなる虫害より救われたといつてよいであろう。本像の  
材質は桂で軽質な木材といわれ、虫害を受けやすかったと



図 6 南限-1 薬師三尊像 (王楽寺, 宮崎市・宮崎)

表 7 鹿児島, 沖縄の仏像

鹿児島	
感応寺 (出水市)	十一面千手観音, 四天王立像 (無指定)
大慈寺 (志布志市)	仁王像 (無指定)
一乗院跡 (南さつま市)	仁王像 (2 軀) (無指定)
沖縄本島	
護国寺 (那覇市)	聖観音菩薩像 (無指定)
石垣島	
桃林寺 (石垣市)	仁王像 (2 軀) (無指定)

思われる。このような朽像を保護されている七戸町教育委員会に特に敬意を表したい。

日本の薬師如来像が国宝・重文として指定されるのは、保存状態のよい鎌倉時代以前に作像されたものが多いが、文化財の保護のあり方を巡って一石を投じられた気がしてならない。

北限-2 の長勝寺, 北限-3 の長楽寺の薬師如来像はそれぞれ青森県, 秋田県の指定有形文化財である。その他秋田県観音寺, 岩手県北上市立博物館に県指定の尊像がある。重文としてもっとも北にあるのが黒石寺くろせきじの薬師如来像 (岩手県) で, 重文の薬師如来像 8 像の南, 福島に国宝の薬師如来像 (勝常寺) がある。

南限の薬師如来像は沖縄県, 鹿児島県にないことからそれ以北の九州に存在することが予想された。九州の薬師如来像を緯度の高い北から南へ地図上で所在都市の緯度を概測して並べた。その結果, 南限-3 は熊本の八代市に存在する医王寺に尊像が, 南限-2 は西都市もくじきの木喰五智館に木喰上人が彫刻した薬師如来像がある。五智館は旧日向国分寺跡につくられたもので, 完成は 1996 (平成 8) 年といわ

れている。南限-1 は宮崎市の王楽寺の薬師三尊像 (重文) である。最澄が開山した寺といわれる。

従来薬師如来像 (彫刻) の研究は, 国宝, 重文の尊像約 290 像について調査されてきたが, 今回北限と南限の県, 市, 町指定の重文について調べ, 北限-1~3, 南限-1~3 の尊像が判明し, 県・市・町指定の薬師如来像に重要なものがあり, 北限, 南限の薬師如来像の保存について厳しい現実を知り報告した。

今後, 薬師如来坐像の絵画について調査が必要である。また, 薬師如来像が存在しない北海道, 鹿児島, 沖縄, 長崎県に, 薬師如来像が設置されて人々の心の安らぎが得られるように望みたい。薬科大学における薬史学教育が減少し, 薬剤師国家試験の薬史学関係の出題もほとんど見当たらない昨今であるが, 本報が全国の薬科大学の学生, 薬剤師が, 薬師如来像とその薬壺の歴史を学ぶ一助になれば幸いである。

## 謝 辞

英文要旨の作成に御助力いただいた名城大学薬学部 Mark Rebeck 准教授にお礼申し上げます。薬師如来像についてのアンケートに御返事をいただき, 各種の貴重な資料, 写真をお送りいただいた各寺の御住職様に厚くお礼申し上げます。

## 利益相反

開示すべき利益相反はない。

## 引用文献

- 1) 奥田 潤. 伊東史朗. 薬師如来像の薬器 (壺). 薬史学雑誌. 1997 ; 32 (2) : 235-54
- 2) 奥田 潤, 久田陽一, 奥田和代, 川村智子, 野呂征男, 宮田雄史. 周防国分寺薬師如来像の薬壺の内容物. 薬史学雑誌. 1998 ; 33 (1) : 49-62
- 3) 奥田 潤. 薬師如来像とその薬壺への祈り. In : 奥田 潤, 西川 隆 (編集代表). 薬学史事典. 薬事日報社, 2016. p.118-20
- 4) Okuda J, Noro Y, Ito S. Yakushi Buddha (Buddha of healing) and its medicinal container in Japan. *Pharmacy in History* 1999 ; 41 (3) : 102
- 5) Okuda J, Noro Y, Ito S. Les Pots de Médicament de Yakushi Bouddha au Japon. *Revue d'Histoire de la Pharmacie*. 2005 ; LIII (No.345) : 7-32
- 6) 亀谷 栄. 北海道. In : 学芸百科辞典. 1950. 16 卷. 349
- 7) 七戸町史第 1 巻第 4 編より p.532 を抜粋
- 8) 七戸町教育委員会山屋薬師如来像. 「七戸町の文化財」. 1992 年 3 月, p.23
- 9) 山屋の「薬師如来像」の調査結果 (私信)
- 10) 山屋薬師如来像カラー写真 (七戸町教育長附田道大氏より恵与)
- 11) 長勝寺薬師如来立像の写真 (青森県教育委員会「青森県の文化財」p.74) より複写
- 12) 秋田県長楽寺薬師如来像のカラー写真 (秋田県教育委員会「秋田県の文化財」p.106) より複写
- 13) 西都市教育委員会より恵送された資料より作成
- 14) 王楽寺より恵送された資料より作成
- 15) 奥田 潤. 人文社会薬学. 1. 宗教薬学. 薬史学雑誌. 2017 ; 52 (1) : 71-83

## Summary

In Hokkaido, cultural activities didn't develop until after the Meiji era. Partly for this reason, not a single statue of the Yakushi Buddha exists there. The northernmost statue in Japan is in poor condition and suffered from decay due to vermiculation. This statue of Yakushi Buddha, together with the decayed statues of 12 soldiers (Jūnishinsho), has been stored since the latter part of the 14th century in a special house at Zuiryu-ji (Zuiryu Temple), located at latitude 40° 42'. The decayed statue of Yakushi Buddha, which no longer has hands and ankles, is preserved as a registered cultural property of the town Shichinohe, Aomori Prefecture.

The southernmost statue of Yakushi Buddha in Japan is the statue at Ōraku-ji (Oraku Temple), located at latitude 31° 54', in the city of Miyazaki, which is in Kyushu. The statue has been designated an Important Cultural Property (ICP). It has been in storage since the Kamakura era (1185~1332AD). There are no statues of Yakushi Buddha in Nagasaki, Kagoshima, and Okinawa prefectures.

It is desirable that if any statues of Yakushi Buddha are found in Hokkaido, Nagasaki, Kagoshima or Okinawa, they become a part of the cherished cultural heritage of the people in the district where they are found.

Key words : Northernmost Statues of Yakushi Buddha, Southernmost Statues of Yakushi Buddha, Yakushi Buddha, Vermiculation, Cultural Properties

## 石見銀山薬石「無名異」の「水飛（水簸，水干）」による製法について

成 田 研 一<sup>\*1</sup>Regarding Formulation Using Elutriation of the Medicinal Stone  
“MUMYOUJI (無名異)” in the Iwami-Ginzan Silver MineKenichi Narita<sup>\*1</sup>

(Accepted April 25, 2019)

## 1. はじめに

2007 (平成 19) 年に産業遺産として世界遺産に登録された石見銀山 (鳥根県大田市大森町) の副産物として、江戸時代初期より幕府に献上された薬石「無名異」について、先に、その成り立ちと展開について紹介した<sup>1-3)</sup>。

石見銀山の「無名異」の製法については、石見銀山の古典的研究書である「石見銀山に関する研究：山根俊久著 昭和七 (1932) 年五月発行」に次のように紹介されている<sup>4)</sup>。すなわち、「古へ銀ヲ掘リタル洞ニアリテ色赤シ石ノ間ヨリ吹出ルヲヘラニテ取り水飛ス (石見鑑)」、土中にある紫色の粉を水干したるもの (山海名産圖會) とあり、水飛 (水干・水簸) によることが紹介されていた。「水飛」は漢方薬・生薬の修治方法と理解されているが、今回、本論において当地に残されている古文書から「無名異」の具体的な製法を紹介し、本邦における鉱石選鉱の水飛 (水干・水簸) との比較により伝統的に継承されてきた技法であったことを示し、考察することを目的とした。なお、本論の概要は 2018 年 10 月 27 日新潟日報メディアシップ日報ホールで行われた日本薬史学会 2018 年会で報告した<sup>5)</sup>。

## 2. 「水飛 (水干・水簸)」による選鉱

「すいひ・水簸」は広辞苑に次のように記されている。「すいひ【水簸】：粉末の微細な陶土を調製する工程。粗陶

土を水中に入れると、粗粉は先に沈むことを応用して細・粗を分け、同時に砂・石灰石・酸化鉄などの夾雑物を除去する。また、同様にして砂金を採集したり鉱物から岩絵具を作ったりする時に行う法。水干。」<sup>6)</sup> 日本国語大辞典 (小学館) には「すいひ【水簸・水飛】」と列挙、提示されている<sup>7)</sup>。世界大百科事典には「重力を利用した一種の簡単な湿式分級法、エルトリエーション elutriation」として粗粒子と微細粒子の沈降速度の差を利用する方法であることに併せ、「とい (樋) のようなほぼ水平の細長い水路に懸濁液を流してやると、粗い粒子がより速く沈降するため、微細粒子だけが水とともに流出する」として「薬業原料の品質向上のために広く用いられている水簸の方法」としてはこの方法が最も一般的であると紹介されている<sup>8)</sup>。

また「水飛 (水干・水簸)」は生薬の修治法でもあり、「水勢」の修治として「水飛：貝殻類や鉱物生薬は、水の中で研磨粉末化した後、水洗して水に可溶性や浮遊性の夾雑物が除かれる」と紹介されている<sup>9)</sup>。「中華人民共和国薬典」の「药材炮制通則」には「水飛 (飛)：取浄药材・置容器内・加适量水共研細・再加多量水・攪拌・傾出混濁液・残渣再按上法反復操作数次・合并混濁液・静置・分取沉淀・干燥・研散」とある<sup>10)</sup>。以下、本論では「水飛」に統一して表記する。

本邦における水飛による選鉱は古くから行われていて、以下にその例を示す。

キーワード：石見銀山、赤褐色の鉱土、無名異、生薬の修治方法、水飛

<sup>\*1</sup> 鳥根県薬剤師会江津・邑智支部 Gotsu-Ouchi-branch of Shimane Pharmaceutical Association. I-1611-4 Kakushi-cho, Gotsu, Shimane 695-0016.

### 1) ベンガラ (弁柄：Iron Oxide Red) の製造

ベンガラは赤色酸化鉄（ヘマタイト： $\alpha\text{-Fe}_2\text{O}_3$ ）を主成分とする古代から用いられている赤色無機顔料である。古くは南アフリカ・ブロンボス洞窟の遺構（約10万年前）、スペイン・アントン洞窟、ネアンデルタール人の赤色酸化鉄顔料塗彩具（約5万年前・中期旧石器時代）、スペイン・アルタミラ洞窟の赤色の洞窟壁画（約1万8千年～1万4千年前）が知られている。日本でも縄文時代早期の土器へのベンガラによる彩色が知られており、古代のベンガラの製法についても検討されてきている。とくに微粒子ベンガラの製法について、児玉大成により北海道南部から東北北部に形成された縄文遺跡において、縄文前期から晩期に至る出土品から、粉碎→磨り潰し→水簸→煮沸の工程を経た均一的な粒子のベンガラが効率的に生産されていたと紹介されている<sup>11)</sup>。水飛の技法が縄文期から行われていたことがわかる。

### 2) 岩紺青 (Mountain Blue), 緑青 (Verdigris) の製造

鉱物を原料とする顔料である岩絵具には、緑青、紺青（古代には金青と表記）、朱、丹、胡粉、黄土などがあり、壁画等の彩色に用いられていた。「続日本記」に文武天皇2（698）年に近江国金青（紺青）、安芸・長門二国金青（紺青）、緑青を献じた記録が初見とされている（飛鳥時代）。その製法としては、鶴田栄一による摂津国（大阪北部）の「多田銀銅山の紺青および緑青について」の論考で、「日本山海名物図絵：宝暦四年（1754）」の記載が紹介されている<sup>12)</sup>。すなわち、「紺青緑青製法……慶長年中摂州多田の銀山よりほり出す。……製法は山より掘出したるをうすにてつきくさき水飛す也。」と図付きで記載されている。同論考にも触れられている長登銅山（山口県）の紺青・緑青の製法については、池田善文の「岩絵具『瀧ノ下緑青』」に詳しく紹介されている<sup>13)</sup>。略述すると、「鉱石を粉碎→フルイに掛ける→水を入れた桶のなかでユリ盆で揺すり、不純物を除く：これを繰り返す」という手順で、「水飛」であることが理解される。山口県美祢市の長登銅山文化交流館には伝来の「瀧ノ下緑青製造用具：戸樋・ユリ盆・十字架・ヘラ・ハケ・桶・焙烙等、水飛に用いる諸用具」が山口県指定の民俗文化財として残されている（図1、2）<sup>14)</sup>。

### 3) たたら製鉄の鉄穴流し（かんながし）

中国山地、山陰で盛んだった「たたら製鉄」で、用いられた砂鉄の分級に大規模な「鉄穴流し（かんながし）」が行われていた。傾斜地の水流を利用して、砂鉄を含んだ山を崩し、下流の洗い場、山池、大池、中池、乙池、洗樋と順次足し水をして軽い砂分や粘土分を流し去り、砂鉄分

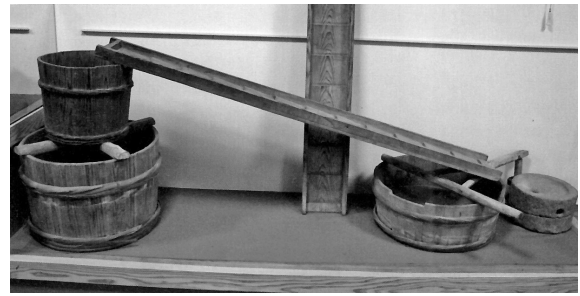


図1 「瀧ノ下緑青製造用具①：水飛製法の構成」  
参照文献14)より引用

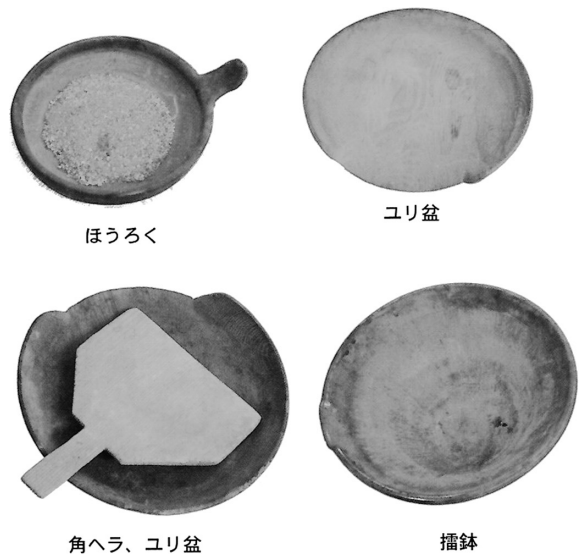


図2 「瀧ノ下緑青製造用具②」参照文献14)より引用

を採集してたたら製鉄に用いていた。江戸時代初頭ころから大規模に行われていた「鉄穴流し」は、良質の鉄を大量に生産するのに有用であったが、下流の地形を大きく変えるほどでもあり、濁水による汚染も著しく、現在では禁止されている<sup>15)</sup>。これも比重選鉱による水飛の一類型であったと考えられる。

### 3. 石見銀山薬石「無名異」の「水飛」による製法

先述の「石見銀山に関する研究」<sup>4)</sup>に紹介された「水飛」に係る具体的な記録としては、従来、「紗房集—竹下弘著私説石見銀山」に収載されている「野澤辰正著 銀山砂子：1810（文化7）年：野澤家蔵本（島根県古文書番号4032）」が参照されていたが、このほど（2018.3）に「銀山師高橋家蔵銀山覚書：石見銀山歴史文献調査報告書13・島根県教育委員会」に「無名異製法：1747（延享4）年」として紹介された。この2件について以下、時系列順に呈示する。



1) 無名異製法 (銀山師高橋家蔵銀山覚書: 1747 (延享 4) 年: 石見銀山歴史文獻調査報告書 13) より<sup>16)</sup>

「一、寒中無名異鏈半切之中清水を以随分入念其洗ヒとり、三四日も蓋をいたし置、上水を捨、晒布を以四五度越、石屑をとり捨、又清水を入、五七日も置、水之清色を目利いたし、幾度と申かきりもなく水干仕、水の清色ヲ見候、悉上清を捨、下留り候無名異さしにてすくひ取、板ノ上紙を敷、其上へさし一つつ、幾つも移置、浄清成座敷へ入置、就中天氣より四五十日もかゝり申候、尤申伝を以古来より右之通り仕来り申候

一、無名異指上ケ延享四卯ノ冬相止事、例年被差上候蜜・無名異向後差上不及候、当年之儀先達製法等申付、其元可被差出候間、当年者可被差上候、来年相止候積り候間、可被得其意候、以上

卯正月十四日 公事方無印形  
堀口 兎玉 遠藤 松浦  
公事方  
逸見 神尾 神光

佐々新十郎殿」

2) 無名異山 (野澤晟正著 銀山砂子: 1810 (文化 7) 年) より<sup>17)</sup>

「……無名異山を尋ねつ、宝暦の末、明和の初めつかた漸こゝに来たりぬ、……縦に曲り横に曲りて行く穴の二三百間、身を捻り、柴螺殻に火を灯し、胸に膝あて歩むなり、……穴の広さ二尺に足らず高さ三四尺、若くは留山落ちぬれば土石骸を圧す、馴れし業、掘りし葉の石を負ひ敷内の往来辛く労はしきことゝも多かりき、……掘置きし石を集め、霜月中の十日過ぎ水を汲み、桶の中にて洗ふには手を以て石を磨り幾度となく水を替へ、五日も洗ひ十日も砂を去るとて水を替へ、桶の番数、のみの段数、五味の味ひ離る、迄内外清浄注連の内、水飛汲み上げ干し遣り丹鍊の業、寒さ痛く氷る日を好しとすれども、凍て、は水飛汲み上げ成らざりしを、火を当てぬるは良からずとす、製する人の手も凍え、業ならぬとき清水に手を入れて又元の如く無名異を水を取扱えり……」

上記のうち、「(1) 無名異製法」は、1747 (延享 4) 年の正月の日付となっており、慶長年間に始められた無名異献上が一旦中止された時期にあたり、その時の第二十六代大森代官佐々新十郎 (1746・延享 3 年～1749・寛延 2 年) に宛てられた文書に記載されている。「水干」製法の手法として、寒中 (寒い時期) に無名異の鏈 (くさり・原石) を砕いて清水でよく洗い、晒布で越して石屑を除くことを何

度も繰り返す、静置して下に貯まった無名異をさし (匙) で掬って板上の紙に置いて乾燥させて製作することが書かれている。天候により四五十日もかかること、古来より続けられて来た手法であること、当時、同じく献上品であった「蜜 (蜂蜜)」も献上中止になったことも記されていた。

「(2) 無名異山・銀山砂子」には、「宝暦の末～明和の初」に「無名異山」を探したことが記されている。これは先述の 1747 (延享 4) 年に無名異献上が中止になった以降、第三十一代大森代官川崎平右衛門 (1762・宝暦 12 年～1767・明和 4 年) により 1765 (明和 2) 年に無名異献上が再開された時期にあたり、無名異産坑が探索されていた様子が伺える。狭い坑道から掘り出した鉱石を霜月の十日過ぎから桶に汲んだ水の中で手で磨って洗うことを繰り返し、「水飛」したことが示されている。この作業は注連縄を張って囲んだ内で行い、火をあててはいけないと記されていた。

以上より、石見銀山での無名異の水飛 (水干) が、鉱石を粉碎し清水で繰り返し洗い、晒布で越して分級、洗浄して不純物を除き、静置して沈殿したものを掬い取って乾燥させるという具体的な手順が示されており、注連縄の内、火をあてないようにして執り行われたことがわかる。

4. 銀山旧記: 「鏈 (くさり) 拵方取扱」より<sup>18)</sup>

無名異の水飛に関連して、石見銀山の銀鉱石選鉱の過程を「銀山旧記」より以下に引用する。

「鏈拵方取扱: 鏈拵と申ハ敷ヨリ上り候荒鏈を半切と申、深壺尺壺式寸、差渡式尺四五寸之桶ニ水を入、ゑぶと申底の狭り候目荒之ざるに入、右桶之内ニ而洗候へ者鏈に付候土石水底に溜り申候、右ざるの内に留り候鏈に添ひ候石を鶴の嘴と申物ニて砕き、石と鏈とを分け石を捨て申候、右水底に留り候土砂交り之鏈者ゆり鉢と申て、差渡し式尺計り深さ三寸計之木地鉢に右鏈を入れ、水につけゆりて土石を去り、正味鏈ニ相成候を、ざるの内残り候石を去り鏈と一緒に打込ミ、荒鏈拾冠目ニ付、正ミ何百何十目と相成申候……」

上記より、鉱石を粉碎して「ゑぶ」というざるの目で濾した (分級選鉱した) 鏈 (くさり) を、灰吹精錬に用いる過程が示されている。前項の無名異水飛の「粉碎し清水で繰り返し洗い、晒布で越して分級、洗浄して不純物を除く」過程とはほぼ重なっていることがわかる。

5. 考 察

今回、前報で報告した石見銀山薬石「無名異」の古文書に見られる「水飛 (水簸、水干)」による製法について、

関連する技法にも触れて考察することを目的とした。「水飛（水簸、水干）」は漢方医学、中医学や生薬学の分野で生薬修治の技法として教科書的に知られているが、現代の薬剤師の現場では「焙る」、「煮る」等に比べると身近に知悉される機会がない。今回、無名異に関連する「水飛（水簸、水干）」の技法について改めて調査、整理した。

「水飛（水簸、水干）」の技法は、縄文早期の古代ベンガラの生産ですでに用いられていた技法であることを先に示した。また「続日本記」に記録された岩絵具、紺青（紺青）、緑青が文武天皇2（698）年に献納されていたこと、その製法として「日本山海名物図絵：宝暦四年（1754）」には「うすにてつきだき水飛す也」と記載されており、「水飛」という用語が流通していたことが示された。紺青、緑青は江戸期に長門（山口県）長登銅山で産出された「瀧ノ下緑青」がよく知られており、当地美祢市には当時の道具、古文書が残されており、水飛によって製造されていたことが伺える。同古文書には笹ヶ谷銅山（津和野）でも紺青、緑青が産出されていたことがわかり、石見銀山料であった笹ヶ谷銅山においても、同じ技法が共有されていたと考えられる。また、江戸時代初頭ころから盛んに行われた、「たたら製鉄」の選鉱過程である「鉄穴流し」も比重選鉱による「水飛」の一類型であったことも示した。

以上、「無名異」の製法である「水飛」の技法が、生薬修治の特殊な技術というより、古代の「ベンガラ」の製造、「岩紺青、緑青」の製造、銀鉱石等、鉱山での選鉱過程、「たたら製鉄」の砂鉄の分級等、鉱山で共通して行われていた伝統的な技法であったことを本論で示した。

## 謝 辞

本研究を進めるにあたり、ご指導いただいた石見銀山資料館館長 仲野義文氏、同学芸員 藤原雄高氏、鳥根県立古代出雲歴史博物館専門学芸員 岡 宏三氏、岐阜薬科大学教授 酒井英二氏、美祢市長登銅山文化交流館館長 池田善文氏、鳥根県立三瓶自然館学芸課研究員（地学）遠藤大介氏に深く御礼申し上げます。

## 利益相反

筆者は、本稿に関して表明すべきCOI（利益相反）はない。

## 参考文献

- 1) 成田研一. 薬石「無名異」：石見銀山の副産物として献上された薬について石見銀山「採薬稼」鑑札について. 日本薬史学会 2008（平成20）年会 平成20年11月15日（土）近畿大学（東大阪市）. 薬史学雑誌. 2008；43（2）：223
- 2) 成田研一. 「無名異」再考：御献上無名異と「見宜堂古林正貞先生 醫學入門本草（写本）」. 日本薬史学会 2009（平成21）年会 平成21年11月7日（土）金沢大学. 薬史学雑誌. 2009；44（2）：112
- 3) 成田研一. 石見銀山薬石「無名異」の成り立ちと展開について 済生卑言：石見銀山鉱山病対策「済生卑言」の用語と構成について. 薬史学雑誌. 2018；53（2）：102-11
- 4) 山根利久. 無名異・無茄異山及無名異献上・無名異山盛衰. 石見銀山に関する研究. 石東文化研究会. 1932. p. 212-9
- 5) 成田研一. 石見銀山薬石「無名異」の製法：「水簸（水飛・水干）」について. 日本薬史学会 2018 年会（新潟）講演要旨集 一般演題 O-3. 2018：28
- 6) すいひ【水簸】. 新村 出（編）. 広辞苑 第七版. 岩波書店. 2018. p. 1541
- 7) すいひ【水簸・水飛】. 日本国語大辞典 第二版 第七巻. 小学館. 2001. p. 805
- 8) すいひ 水簸. 下中直人（編）. 世界大百科事典 第14巻. 平凡社. 2001. p. 589
- 9) 関田節子. 吉川雅之. 北川 勲. 生薬の修治. 漢方薬・生薬薬剤師講座テキスト 第4版 第3巻. p. 122-37
- 10) 国家薬典委員会（編）. 药材炮制通則 16・水飛. 中華人民共和国薬典 2005年版. 化学工業出版社. 附録 p. 20-1.
- 11) 児玉大成. 亀ヶ岡文化を中心としたベンガラ生産の復元. 日本考古学. 2005；20：25-45
- 12) 鶴田榮一. 多田銀銅山の紺青および緑青について. 色材. 1999；172（2）：95-101
- 13) 池田善文. 岩絵具「瀧ノ下緑青」. 未指定文化財総合調査報告書6集「諸職と用具」. 山口県教育委員会. 1989. p. 74-83
- 14) 県指定「瀧ノ下緑青製造用具」. 長登銅山文化交流館 展示図録. 美祢市長登銅山文化交流館. 2010. p. 46
- 15) 天辰正義. 岡原正明. 香月節子. 砂鉄採取一鉄穴流し（かんながし）. たたら一日本古来の製鉄. JFE 21世紀財団. 2004. p. 4-9；p. 54-55
- 16) 無名異製法. 石見銀山歴史文献調査報告書13 銀山師高橋家蔵銀山覚書. 鳥根県教育委員会（文化財課）. 2018. p. 33
- 17) 竹下 弘. 無名異山. 紗房集一私説石見銀山. 中村ブレイス株式会社. 2005. p. 286-7
- 18) 銀山要集・銀山旧記. 鏈拵方吹方取扱. 新修鳥根県史 史料篇3 近世下. 鳥根県. 1965. p. 36-7

## Summary

A reddish-brown mineral soil discovered at the beginning of the 17th century at Iwami-Ginzan (Omori-cho, Ota, Shimane Prefecture), registered as a World Heritage Site as an industrial heritage in 2007, was presented to the Shogunate as a medicinal stone called "*MUMYOUJI* (無名異)", and introduced to the general public. It was manufactured using "elutriation" based on an old document in which the unknown manufacturing method was written. Elutriation is known generally as a purification method for medicinal ores, but this elutriation technique was used to produce Red Iron Oxide in the Jomon period, and Mountain Blue Verdigris, which has been practiced since the Asuka period. It was shown that this iron sand classification method was also used for "*KANNA-NAGASI* (鉄穴流し)" in traditional Japanese iron manufacturing, "*TATARA* (たたら製鉄)", producing a prosperous slate made in the early Edo period. So, elutriation was a traditional method shared in the mining industry since ancient times.

Key words : Reddish-brown mineral soil, Iwami-Ginzan, *MUMYOUJI* (無名異), Elutriation, Purification method for medicinal ore

## ◆会務報告

### 2019年度日本薬史学会総会

#### 理事・評議委員会

日時：2019年4月20日（土）12：30～13：30

会場：東京大学薬学系総合研究棟10階大会議室

出席者：34名

副会長：森本和滋

常任理事・理事：荒井裕美子，荒木二夫，五位野政彦，小清水敏昌，三田智文，塩原仁子，鈴木達彦，辰野美紀，寺田 弘，西川 隆，船山信次，松本和男，御影雅幸，宮崎啓一，村岡 修，横山亮一

監事：三澤美和

評議員：赤木佳寿子，伊藤美千穂，稲垣裕美，川崎元士，儀我久美子，近藤晃司，榊原統子，清水真知，孫 一善，但野恭一，野々垣常正，福島紀子，武立啓子，安土昌一郎，吉岡龍藏，吉野敬子

（敬称略）

#### 理事・評議員会議事進行内容

1. 鈴木達彦総務委員長により折原 裕会長の欠席が報告された。
2. 森本和滋副会長の挨拶，以降司会進行。
3. 議事1. 学会財務再建に関して  
森本副会長より2018年度決算と2019年度予算の概要について説明があった。
4. 議事2. 新役員候補，新理事，新評議員候補の挨拶  
各候補者の紹介と，本会に出席した候補者より自己紹介を交えた挨拶がなされた。
5. 出席者からのお話し  
小清水敏昌編集委員長より，薬史学雑誌の新企画「新薬誕生のエピソード」について報告があり，活発な意見交換がなされた。そのほか，年会におけるテーマ設定の重要性や，教科書作成実行委員会の発足に伴う期待や提言があった。

#### 総会

日時：2019年4月20日（土）14：00～15：20

会場：東京大学薬学系総合研究棟2階講堂

出席者：40名

荒井裕美子理事の司会により開会。議長に森本副会長が選出され，折原会長の欠席について報告があった。

2018年度に亡くなられた元理事の竹中祐典氏に対して

黙祷が捧げられた。

議長から議事録署名人として，荒木二夫理事，清水真知評議員が指名され，承認された。

#### 議題

1. 2018年度事業報告（鈴木総務委員長）
  - 1) 薬史学雑誌の刊行  
薬史学雑誌 Vol. 53 No. 1（84頁），No. 2（72頁）。発行部数350部。査読者2名による査読体制を継続した。
  - 2) 薬史レターの刊行  
薬史レター No. 80，No. 81（総計16頁）。電子媒体で配信した。紙媒体での発行は100部。
  - 3) 薬史学会2018年度総会，公開講演会，年会柴田フォーラムの開催  
表1のごとく実施した。
  - 4) 常任理事会，および評議員会の開催状況  
(1) 常任理事会：第1回（2018年4月10日），第2回（同年10月19日），第3回：メール審議（2019年1月27日），第4回：メール審議（同年2月19日），第5回（同年3月11日），第6回（同年3月20日）  
(2) 理事・評議員会：第1回（2018年4月14日），第2回（同年10月27日）
  - 5) 会員状況  
名誉会員6名，一般会員222名，団体会員15名，学生会員9名，外国会員1名，賛助会員9名，外国会員（寄贈）4名，寄贈会員6名。
2. 2018年度決算報告（横山財務・会員管理委員長）  
表2（一般会計），表3（特別会計）のごとく報告された。
3. 監査報告（三澤監事）  
表2，表3に示された収支決算が適正，正確であると監査報告がされた。
4. 2019～2020年度学会常置委員会組織，および役員人事  
表4のように常任理事会，および常置委員会の人事案が提示され承認された。また，表5のように理事，評議員案が提示され承認された。当人事はいずれも2019年4月1日付となる。（表の\*は新任）
5. 2019年事業計画について（鈴木総務委員長1～5，小清水編集委員長6，横山財務・会員管理委員長7，8）
  - 1) 総会，公開講演会，2019年会，六史学会について  
表6のように実施する予定である。
  - 2) 薬史学雑誌の発行予定：Vol. 54 No. 1（2019年6

表1 2018年度 総会・講演会

	日時・会場	内 容
総 会	2018年4月14日(土) 東京大学大学院 薬学系研究科	理事・評議員会, 総会, 懇親会
公開講演会	2018年4月14日(土) 東京大学大学院 薬学系研究科	高橋京子(大阪大学総合学術博物館) 「新たな医療文化の形成: 緒方洪庵の薬箱研究」 八木澤守正(慶応義塾大学薬学部) 「梅澤濱夫先生の足跡: カナマイシン60周年を記念して」 山崎勝久(微生物化学研究会微生物化学研究所) 「梅澤濱夫記念館目黒の新設について」
柴田フォーラム	2018年8月4日(土) 東京大学大学院薬学系 研究科南講義棟 世話人 船山信次	江戸清人(前・帝京大学薬学部教授) 「豪商の収集した『江戸清吉コレクション』文豪の自筆原稿と往復書簡のこれまでとこれから」 稲垣裕美(内藤記念くすり博物館学芸員) 「内藤記念くすり博物館の資料および図書の収集・保存・活用」
2018年会	2018年10月27日(土) 新潟県新潟市 寺田 弘年会長	小林 力(日本薬科大学教授) 「サルファ剤: 忘れられた奇跡とその影響」 櫻井浩治(新潟大学名誉教授) 「良寛さんに学ぶ一心身医学の立場から」
六史学会	2018年12月15日(土) 順天堂大学医学部	高橋京子(大阪大学総合学術博物館) 「緒方洪庵の薬箱研究を可能にした大阪大学所蔵ケシ標本の意義」

- 月発行), No.2(2019年12月発行). 年間で160頁以内としたい.
- 3) 薬史レターの発行予定: No.82, 83. 各号8頁. 基本的に電子媒体発信とする.  
国際委員会の協力により「海外の薬史学会のいま」を掲載し継続していく予定である. また, 「新薬誕生エピソード」を企画しており, 情報提供が会員に呼びかけられた.
- 4) 薬学分野の教科書の作成に向けた取り組み  
薬史学教育担当委員会を改組し, 教科書実行委員会とすることが報告された. 委員長は小清水敏昌常任理事, 副委員長は鈴木達彦常任理事とする.
- 5) 薬学史事典読書会について  
薬学史事典の読書会について, 第15回以降の日時, 場所等の案内があり, 参加希望者を募った.
- 6) 薬史学雑誌投稿規定の改定について  
薬史学雑誌の投稿規定の改定案が示された. 本規定は2019年4月からの実施となる.
- 7) 入会申込書の様式の変更について  
入会申込書の様式の変更案が示された. 会場からの発言を考慮して一部改定をした後に常任理事会

- での承認の上, 変更する.
- 8) 一般会員数の推移について  
近年の一般会員数の推移について, 入会と退会の人数とともに状況が示された.
6. 2019年度予算案(横山財務・会員管理委員長)  
2019年度予算案(表7: 一般会計, 表8: 特別会計)が提示, 説明された.  
上記事業計画, 予算案は総会で全会一致にて承認された.
7. 2018年度支部会活動報告  
■中部支部(野々垣評議員)  
中部支部例会・講演会: 2019年2月16日(土)金城学院大学・栄サテライト  
奥田 潤(名城大学薬学部)「本邦北限と南限の薬師如来像」  
河村典久(圭介文書研究会)「東山植物園・伊藤圭介記念室『錦窠翁日記』について」  
■関西支部(宮崎中部支部事務局長)  
関西支部研修会: 2019年3月16日(土)大阪富国生命ビル4階「まちラボ」ルームA

表 2 2018 年度 決算

(2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日)

一般会計 (単位 円)		
収入の部	2018 年度予算	2018 年度決算
賛助会費	240,000	300,000
一般会費	1,603,000	1,638,000
学生会費	16,000	10,000
外国会費	14,000	21,000
投稿料	693,000	772,848
広告料	120,000	120,000
事業収入	255,000	296,835
寄付	0	311,000
雑収入	1,000	0
利息	0	5
<b>当期収入合計</b>	<b>2,942,000</b>	<b>3,469,688</b>
支出の部		
2018 年度予算	2018 年度決算	
<b>機関誌紙発行費</b>	<b>1,964,000</b>	<b>2,005,854</b>
編集事務費	111,000	177,521
製作印刷費	1,761,000	1,739,685
発送費	92,000	88,648
<b>一般事業費</b>	<b>711,000</b>	<b>641,122</b>
総会・公開講演会運営費	312,000	337,792
年会開催支援費	110,000	80,000
柴田フォーラム開催費	80,000	76,047
国際学術交流費	70,000	44,083
国内学術交流費	4,000	0
支部活動支援費	60,000	60,000
ホームページ関連費	45,000	43,200
薬学会年表作成	0	0
予備費	30,000	0
<b>管理・運営費</b>	<b>370,000</b>	<b>394,924</b>
事務委託費	300,000	322,596
理事・評議員会運営費	0	0
通信費	30,000	40,082
事務用品費	5,000	4,416
入送金手数料	25,000	27,830
雑費	10,000	0
<b>当期支出合計</b>	<b>3,045,000</b>	<b>3,041,900</b>
当期収支差額	△ 103,000	427,788
前年度繰越額	1,592,370	1,592,370
<b>次年度繰越額</b>	<b>1,489,370</b>	<b>2,020,158</b>

表 3 2018 年度 決算

(2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日)

60 周年募金特別会計 (単位 円)		
収入の部	2018 年度予算	2018 年度決算
60 周年記念募金収入	0	0
<b>当期収入合計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
支出の部		
2018 年度予算	2018 年度決算	
当期支出合計	0	0
当期収支差額	0	0
前年度繰越額	1,777,000	1,777,000
<b>次年度繰越額</b>	<b>1,777,000</b>	<b>1,777,000</b>

2018 年度の計算書類に基づき監査を行った結果、収支計算書及び  
 手続は正確かつ適正妥当であることを認めます。

2019 年 4 月 8 日 三澤美和 ㊞

頼 萍 (大阪大学産業科学研究所新産業創成研究部門  
 知的財産研究分野 Thera-CreationCoreLab. 特任研究  
 員, 一般社団法人日本杜仲研究センター理事・事務局  
 長) 「神木杜仲は上品漢方薬」

日本薬史学会 2019 年度理事・評議員会および総会

議長: 森本和滋

議事録署名: 荒木二夫

議事録署名: 清水真知

表 4 日本薬史学会組織 (2019年4月1日～2020年3月31日)

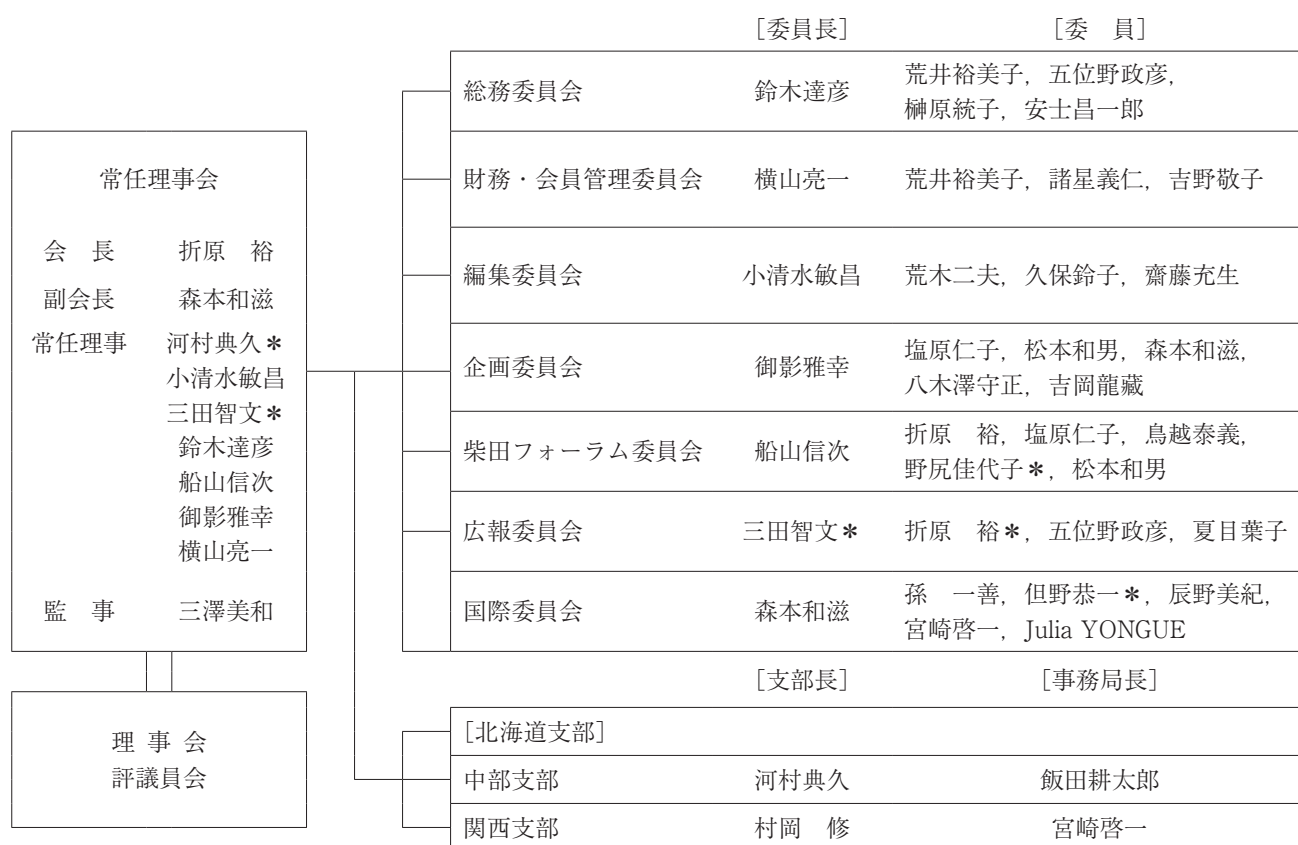


表 5 日本薬史学会 役員 (2019年4月1日～2020年3月31日)

人数

1	会 長	折原 裕				
1	副 会 長	森本和滋				
6	名誉会員	青木允夫 山田光男	奥田 潤	川瀬 清	津谷喜一郎	山川浩司
7	常任理事	河村典久* 御影雅幸	小清水敏昌 横山亮一	三田智文*	鈴木達彦	船山信次
23	理 事	相見則郎 五位野政彦 高田昌彦 松崎桂一* 森田 宏	荒井裕美子 小曾戸 洋 辰野美紀 松本和男 柳澤波香	荒木二夫 指田 豊 寺田 弘 宮崎啓一 Julia YONGUE	石田純郎 笹栗俊之 西川 隆 宮本法子	遠藤次郎 塩原仁子 播磨章一 村岡 修*
1	監 事	三澤美和				
44	評 議 員	赤木佳寿子 岡田嘉仁* 桐原正之 齋藤充生 砂金信義 但野恭一* 野々垣常正 牧 純 安土昌一郎	天野 宏 奥井登美子 串田一樹 榊原統子 孫 一善 鳥越泰義 福島紀子 牧野利明 吉岡龍藏	飯田耕太郎 小原正明 久保鈴子 佐々木陽平 高橋京子 夏目葉子 武立啓子* 水野瑞夫 渡辺謹三	伊藤美千穂 川崎元士 小松かつ子 清水真知 詫間浩樹 成田研一 船越清輔 宮本義夫 吉野敬子	稲垣裕美* 儀我久美子 近藤晃司 正山征洋 竹原 潤 野尻佳代子* 前田光子 八木澤守正

表 6 2019 年度 総会・講演会

	日時・会場	内 容
総 会	2019 年 4 月 20 日 (土) 東京大学大学院 薬学系研究科	理事・評議員会, 総会, 懇親会
公開講演会	2019 年 4 月 20 日 (土) 東京大学大学院 薬学系研究科	大場秀章 (東京大学総合研究博物館) 「朝比奈泰彦教授の生薬学研究と久内清孝および清水藤太郎」 坂本一民 (東京理科大学客員教授) 「化粧品科学技術の発展における日本の貢献」
柴田フォーラム	2019 年 8 月 5 日 (土) 東京大学大学院薬学系 研究科南講義棟 世話人 船山信次	野澤直美 (日本薬科大学客員教授) 「塩硝づくりの歴史的経緯と古土法による再現実験の検証—江戸時代の火薬原料製造の実験的検証」 小林照幸 (作家/明治薬科大学非常勤講師) 「薬学と医学とヒューマニズム」
2019 年会	2019 年 10 月 26 日 (土) 岐阜県各務原市 森田 宏 年会長	木村禎治 (エーザイ株式会社執行役 ニューロロジービジネスグループ チーフディスカバリーオフィサー) 「認知症治療薬の歴史 (仮題)」 森田 宏 (内藤記念くすり博物館館長) 市民公開講座「認知症になりにくい食生活」
六史学会	2019 年 12 月 21 日 (土) 順天堂大学医学部	(未定)



表 7 2019 年度 予算

(2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日)

一般会計 (単位 円)		
収入の部	2018 年度決算	2019 年度予算
賛助会費	300,000	270,000
一般会費	1,638,000	1,631,000
学生会費	10,000	18,000
外国会費	21,000	7,000
投稿料	772,848	835,000
広告料	120,000	120,000
事業収入	296,835	265,000
寄付	311,000	0
雑収入	0	1,000
利息	5	0
<b>当期収入合計</b>	<b>3,469,688</b>	<b>3,147,000</b>
支出の部		
2018 年度決算	2019 年度予算	
<b>機関誌紙発行費</b>	<b>2,005,854</b>	<b>2,130,000</b>
編集事務費	177,521	140,000
製作印刷費	1,739,685	1,900,000
発送費	88,648	90,000
<b>一般事業費</b>	<b>641,122</b>	<b>601,000</b>
総会・公開講演会運営費	337,792	242,000
年会開催支援費	80,000	80,000
柴田フォーラム開催費	76,047	80,000
国際学術交流費	44,083	45,000
国内学術交流費	0	0
支部活動支援費	60,000	60,000
ホームページ関連費	43,200	54,000
薬学会年表作成	0	0
教科書作成実行委員会	0	30,000
予備費	0	10,000
<b>管理・運営費</b>	<b>394,924</b>	<b>416,000</b>
事務委託費	322,596	320,000
理事・評議員会運営費	0	0
通信費	40,082	41,000
事務用品費	4,416	5,000
入送金手数料	27,830	40,000
雑費	0	10,000
<b>当期支出合計</b>	<b>3,041,900</b>	<b>3,147,000</b>
当期収支差額	427,788	0
前年度繰越額	1,592,370	2,020,158
次年度繰越額	2,020,158	2,020,158

表 8 2019 年度 予算

(2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日)

60 周年募金特別会計 (単位 円)		
収入の部	2018 年度決算	2019 年度予算
60 周年記念募金収入	0	0
<b>当期収入合計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
支出の部		
2018 年度決算	2019 年度予算	
当期支出合計	0	0
当期収支差額	0	0
前年度繰越額	1,777,000	1,777,000
<b>次年度繰越額</b>	<b>1,777,000</b>	<b>1,777,000</b>

# 薬史学雑誌投稿規定

(2019年4月改訂)

1. **投稿者の資格**：原則として筆頭著者は本会会員であること。会員外の場合は、編集委員会の承認を経て掲載することがある。
2. **著作権**：
  - (1) 本誌に掲載された論文の著作権は日本薬史学会に属する。
  - (2) 本著者は、当該本著作物が創作された本著作物を利用する場合（第三者に利用を許諾する場合を含む。）、その利用目的等を記載した書面により本学会に申請し、その許諾を得るものとする。
  - (3) 本学会は、当該本著作物の利用が、学会の目的または活動の趣旨に反しない限り、前項に定める本著者からの申請を許諾する。
  - (4) (2)の規定にかかわらず、本著者は、本著者個人または本著者が所属する法人若しくは団体のウェブサイトにおいて、自ら創作した本著作物を掲載する場合（機関リポジトリへの保存および公開を含む。）その他著作権法により許容された利用を行う場合には、本学会の許諾を得ることなく本著作物を利用できるものとする。
3. **原稿の種類**：原稿は医薬の歴史、およびそれに関連のある領域のもので、個人情報の保護に配慮されたものとする。ただし他の雑誌など（国内・国外を問わない）に発表したもの、または投稿中のものは受け付けない。
  - a. **原著**：著者が医薬の歴史に関して新知見を得たもの、医薬に関係した人、所、事跡等に関する論考等で和文、英文のいずれでもよい。原則として図版を含む刷り上がり6ページ（英文も6ページ）を基準とする。
  - b. **総説**：原則として編集委員会から執筆を依頼する。一般会員各位からの寄稿を歓迎するがその際はあらかじめ事務局に連絡すること。刷り上がり6ページを基準とする。
  - c. **研究ノート**：原著にくらべ簡単なもので、断片的あるいは未完の研究報告でもよい。和文・英文いずれでもよい。図版を含む刷り上がり4ページを基準とする。
  - d. **資料**：医薬に関する資料、関係外国文献の翻訳などで和文、英文のいずれでもよい。原則として図版を含む刷り上がり6ページ（英文も6ページ）を基準とする。
  - e. **記事**：見学、紀行、内外ニュースなど会員の寄稿を歓迎する。刷り上がり2ページを基準とする。
4. **原稿の作成**：
  - a. **和文原稿**：和文原稿は、ワードプロセッサ（A4、12ポイント、横書35字×30行）または400字詰原稿用紙によるものとする。平かな混じり横書きとし、かなづかいは現代かなづかいを採用し、MS明朝体または楷書体を使用する。JIS第2水準までの漢字以外の文字については、別途、著者に相談して処理する。
  - b. **英文原稿**：英文原稿は、A4版の用紙を採用し、原則として、1行約65字、1頁に25行、ダブルスペース（1行おき）で印刷すること。英文原稿は、あらかじめ英語を母語とする人、またはこれに準ずる人に校閲を受けておくこと。
  - c. **原稿の体裁**：すべての原稿には、和文で連絡著者名と連絡先の住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレスおよび別冊請求先を記載したカバーレターを添付すること。また特別掲載を希望する場合はその旨を朱記すること。

原稿には通しページを付し、その第1ページには、論文表題、著者名、所属、所在地を和文および英文併記で記載する。雑録を除く原稿の第2ページには、簡潔な英文要旨（250語程度）およびその対訳の和文要旨（300字程度）ならびにタイトル・要旨から選択した5語以内のキーワードを和文・英文で作成し記載すること。なお要旨には、目的、方法、結果、結論の順に区分し各項をもれなく記載すること。

第3ページ以後は本文とし、原則として、緒論、方法、結果、考察、結論、謝辞、利益相反、文献の順に記すこと。

- d. **利益相反**: 本文の最後、文献の前に見出しを付けて、著者全員の原稿内容に関する利益相反 (conflict of interest: COI) の情報を開示すること。COIがある場合にはその内容を記すこと。無い場合には「開示すべき利益相反はない」と記す。
- e. **参考文献**: 基本として、医学雑誌編集者国際委員会 (ICMJE) 勧告 (<http://www.icmje.org/icmje-recommendations.pdf>) のスタイル (Vancouver style) に準拠する (2017年12月改訂版和訳は [https://www.honyakucenter.jp/usefulinfo/pdf/ICMJE\\_Recommendations\\_2017.pdf](https://www.honyakucenter.jp/usefulinfo/pdf/ICMJE_Recommendations_2017.pdf) より入手可能)。本文中に参考とした文献などは、引用順に通し番号を付し、論文末尾に次の要領で一覧にして表示すること。著者名が6名を超える場合は、筆頭6名を記し、あとは「, 他」又は「, et al.」と記載する。
- (1) **雑誌の例示**: 著者名. 題名. 雑誌名. 年次. 巻 (号)・ページの順に記す。なおページ数は始まりと終わりを示すが、最終ページは最初ページ数と重複しない数字のみを示す。電子雑誌などで、ページのない場合は、記事番号などを記述する。雑誌名の略名は、Index Medicus に準ずる。
- 1) 寺岡章雄, 津谷喜一郎. 日本の薬系大学における「ドライラボ」の過去・現在と今後の課題. 薬史学雑誌. 2012; 47(1): 67-89
  - 2) Podolsky SH, Greene JA. A historical perspective of pharmaceutical promotion and physician education. *JAMA*. 2008; 300 (7): 831-3. doi: 10.1001/jama.300.7.831.
  - 3) Okuda J, Noro Y, Ito S. Les pots de médicament de Yakushi Bouddha (Bouddha de la Guérison) au Japon. *Revue d'Histoire de la Pharmacie*. 2005; LIII(No. 345): 7-32
- (2) **単行本の例示**: 著者名. 題名. (編者名). 書名. (外国のみ) 発行地, 発行所, 年次, 該当ページを記す。
- 1) 西川 隆. くすりの社会誌: 人物と時事で読む 33 誌. 薬事日報社, 2010. p. 119-27
  - 2) 奥田 潤. くすりの歴史; 日本の薬学; 薬師如来像とその薬壺への祈り. In: 湯之上 隆, 久木田直江 (編). くすりの小箱. 南山堂, 2011. p. 2-27; p. 30-41; p. 144-56
  - 3) Harrison BR. Risks of handling cytotoxic drugs. In: *The Chemotherapy Source Book*. 3rd ed. New York: Lippincott Williams & Wilkins, 2001. p. 566-80
- (3) **電子図書の例示**: 著者名, ウェブページの題名, ウェブサイトの名称, 更新日付け, (媒体表示) 入手先, アクセス日. ブログの場合はブログ名と更新日付けを入れることが望ましい。
- 1) Belar C. Models and concepts. In: Lewelyn S, Kennedy P, editors. *Handbook clinical health psychology*. New Jersey: Wiley Inter Science, 2004. p. 7-19  
<http://www3.interscience.wiley.com/cgi-bin/summary/109870615/SUMMARY>. doi: 10.1002/0470013389.ch2 (accessed 10 Oct 2005)
- (4) **「新聞」, 「ホームページ」の例示**: 発行日・アクセス日を記載する。
- 1) 川瀬 清. 日本薬史学会創立 50 年に思う—その歴史・創立当初と薬史学—. 薬事日報,

2) 厚生労働省, 治験ホームページ. <http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/isei/chiken/index.html> (accessed 10 Oct 2012)

**5. 原稿の送り先：**

a. e-mail による投稿：下記に送る.

e-mail : yaku-shi@capj.or.jp

本文は Word ファイル, 表は Word ファイルまたは Excel ファイル, 図・写真は JPG ファイルにて作成すること.

b. 郵送による投稿：本原稿 1 部, コピー 2 部を下記宛に書留で送ること.

113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16, (財)学会誌刊行センター内, 日本薬史学会

封筒の表に「薬史学雑誌原稿」と朱書すること. 到着と同時に投稿者にその旨通知する. なお, 原稿を収載した CD-R や USB スティックを添付することが望ましい.

6. 原稿の採否：投稿にあたって著者は原稿の区分を指定できるが, 最終的な採否および区分は, 編集委員会が決定する. 採用が決定された原稿の決定日を受理日とする. 原著, 総説, 研究ノートについては, 編集委員会が複数の審査者に査読を依頼する. すべての原稿について, 修正を求めることがある. 修正を必要とする原稿の再提出が, 通知を受けてから 3 か月以後になったときは, 新規投稿受付として扱われる. また, 編集技術上必要があるときは原稿の体裁を変更することがある.

7. 正誤訂正：著者校正を 1 回行う. 著者校正は印刷上の誤植を訂正するに留め, 原稿の改変や, その他の組み替えは認めない. 論文出版後著者が誤植を発見したときは, 発行 1 か月以内に通知されたい.

8. 特別掲載論文：投稿者が特に発表を急ぐ場合は, 特別掲載論文としての取扱いを申請することができる. この場合は印刷代実費を申し受ける.

**9. 投稿料, 別刷料および図版料：**

特別掲載論文以外の投稿論文は, 次の各条項によって個別に計算する.

(1)原稿の種類が, 原著かその他(総説・研究ノート・資料・記事など)のいずれか

(2)原稿の刷り上がりの長さが基準以内か, それを超えているか

(3)e-mail 添付の Word ファイル, または CD-R や USB スティックなどの電子媒体の添付があるか否か

(4)請求金額の基準 (1 ページ当たりの単価 電子媒体あり) 例示

(5)図表などの写真製版料, 手書き原稿の入力料, 別冊印刷・製本料については, 別に実費を申し受ける.

別冊の希望部数については, 投稿の際に申し込むこと.

1 ページ当たりの単価 (円)

論文の種類	刷上がりページ	電子媒体あり	
		(和文)	(英文)
原著	6 ページまで	3,000	3,500
	超過分	10,000	10,000
その他	6 ページまで	1,500	2,000
	超過分	10,000	10,000

10. **発行期日**：原則として年2回，6月30日と12月30日を発行日とする。発行日の時点で未掲載の投稿原稿が滞積している場合は，掲載を次号に回す，あるいはその中間の時期に1回限り増刊発行することがある。

11. **本規定は，2019年4月より実施する。**

第1版	10 (1)	1975.4
第2版	23 (1)	1985.4
第3版	25 (1)	1990.4
第4版	26 (1)	1991.4
第5版	30 (1)	1995.4
第6版	38 (1)	2003.4
第7版	49 (2)	2014.12
第8版	51 (1)	2016.6
第9版	53 (2)	2018.12
第10版	54 (1)	2019.4

## 査読者（敬称略）

### 薬史学雑誌 54 巻 1 号

久保鈴子, 齋藤充生, 鈴木達彦, 成田研一, 西川 隆, 牧野利明, 松本和男, 松崎圭一, 御影雅幸

### 編集後記

昨年より本誌編集委員を務めることになりました久保鈴子と申します。よろしくお願ひ申し上げます。就任以後、まず手掛けた作業として前号本欄でも一部触れられていますが「投稿規定の見直し」がありました。本件は、昨今研究者に求められてきた利益相反に関する件、著作権に繋がる機関リポジトリへの保存および公開に関する件について明確化の必要性があるという小清水委員長以下編集委員の考えにより進めました。これに並行して、原稿の体裁箇所についても微修正を加えました。そして最終改定案が本年4月の総会で承認され、2019年4月改訂日本薬史学会「薬史学雑誌投稿規定」として本号に掲載される運びとなりました。今後は、改訂された投稿規定をご確認の上、執筆・投稿をお願いいたします。

さて、今号も盛りだくさんの記事で構成されています。4編の特別寄稿、原著2編、3編の研究ノートです。

坂本一民先生「化粧品科学技術の発展における日本の貢献」は今年4月総会でのご講演内容です。化粧品科学技術が1970年代以降に著しく発展した背景に日本の貢献が大きかったことについて具体的に図表を用いて解説されています。

江戸清人先生の「文豪などの原稿、書簡の宝庫『江戸清吉コレクション』のこれまでとこれから」は昨年8月の柴田フォーラムでのご講演内容です。江戸家に伝わる明治か

ら昭和までの著名人の原稿や書簡などの紹介と個人での管理の難しさなどが提示されています。

昨年10月新潟年会時の特別講演2題、小林力先生の「サルファ剤の発見とその影響」では製薬会社の創薬への取組、国による医薬品規制、医師と患者の関係の変化は、サルファ剤の開発と流通が契機となったとされています。また「良寛に学ぶ一心身医学の立場から」では精神科医師であり良寛研究者でもある櫻井浩治先生が良寛の心身両面で充実した生涯を紹介されています。

特別寄稿に加えて、原著として乾俊秀先生、松本佑子先生「「たなべや薬」は島津義弘の秘薬か？処方・効能に基づく考察」、高浦佳代子先生、高橋京子先生、渡部親雄先生「文献資料と現地調査によるサフラン栽培法の変遷検証：竹田式栽培法の特質」、研究ノートでは奥田潤先生、森本和滋先生「薬剤師活動に示唆を与えるキリスト教の愛と仏教の慈悲」、奥田潤先生「本邦北限と南限の薬師如来像」、成田研一先生「石見銀山薬石「無名異」の「水飛（水簸、水干）」による製法」が掲載されております。いずれも、読み応え十分な研究成果です。

本誌は頁数の制限がある中でも皆様からの貴重な原稿を早く掲載すべく構成を考えております。今後も本誌の充実に皆様のご協力をお願いいたします。

（久保鈴子）

### 日本薬史学会編集委員会

委員長：小清水敏昌

委員：荒木二夫、久保鈴子、齋藤充生

令和1年（2019）6月25日 印刷 令和1年6月30日 発行

編集人：日本薬史学会 小清水 敏 昌

発行人：日本薬史学会 折 原 裕

製作・学会事務局：東京都文京区弥生 2-4-16 一般財団法人学会誌刊行センター

TEL：03-3817-5821 FAX：03-3817-5830

URL：//yakushi.umin.jp/ E-mail：yaku-shi@capj.or.jp

印刷所：東京都荒川区西尾久 7-12-16 創文印刷工業株式会社